

平成 18 年度 経済産業省委託
環境問題対策調査等委託費

環境配慮設計普及状況基礎調査

報告書

平成 19 年 3 月

財団法人 製造科学技術センター

インバース・マニュファクチャリングフォーラム

まえがき

インバース・マニュファクチャリングは、循環型社会において、製造業が大量生産／大量廃棄から、適量生産／再利用へ移行するために、目指すべき「もの作りシステム」として吉川弘之氏（当時東京大学総長）が提唱したものである。このシステムは、通常の製造プロセスに加えて、製品の長寿命化や、使い終わった製品からの部品／原料を得る逆プロセスを含む循環型の製品ライフサイクルを実現するシステムであり、また、製品ライフサイクル全体を通じて、環境負荷を最少にする製造システムと言い換えることもできる。

インバース・マニュファクチャリングフォーラム^{*}は、この、インバース・マニュファクチャリングを実現するために、1996年に、産業界、行政、大学等の研究機関が協調して設立した組織で、財団法人製造科学技術センターに事務局をおいている。

インバース・マニュファクチャリングフォーラムでは、創設以来、インバース・マニュファクチャリングコンセプトの確立、アップグレード可能な家庭用情報端末機器の試作、製品リサイクル情報システムプロトタイプ構築などを行ってきた。とくに、製品のライフサイクルについての設計、管理はインバース・マニュファクチャリングの中心課題の一つであり、その中の重要項目である環境配慮製品設計の製造業における実施状況については、従来から注目していたものである。

今回の環境配慮設計普及状況基礎調査は、経済産業省から財団法人 製造科学技術センターが平成17年度に引き続いて今年度も受託したものであり、インバース・マニュファクチャリングフォーラムのメンバーから成る「環境配慮設計普及度調査委員会」が、調査検討の指導／助言を行なった。今年度の調査では、環境報告書のキーワード検索を従来どおり実施したほか、企業が環境配慮設計をどのように実施しているかのアンケートと、一般市民が環境関連法令をどれだけ認知しているかのアンケートを実施した。環境配慮設計への企業の努力が、まだまだ一般市民に認知されるまでには至っていないことが読み取れる結果も明らかになった。

日本の製造業が、国際競争力を発揮できるようにするためにも、より高度な環境配慮設計を実施することが必要である。今回の調査結果を活かして、今後の改善、改良への提案や、環境配慮設計の先進的な事例の水平展開を進めて行かなければならない。また企業は環境に配慮している姿を商品ユーザである一般市民にもっと PR して、環境配慮製品の普及を推進することが必要であろう。

なお、今回の調査では、多くの企業の環境報告書を参照させて頂いた。また、多くの企業、消費者の方にアンケートさせて頂いた。末尾ながら、調査にご協力いただいた皆様への謝意を表記する。

^{*} インバース・マニュファクチャリングフォーラム ホームページ
<http://www.mstc.or.jp/inverse/main.htm>

環境配慮設計普及度 調査委員会

(順不同・敬称略)

委員長	梅田靖	大阪大学大学院 工学系研究科 機械工学専攻 教授
委員	岡村宏	芝浦工業大学 システム工学部 機械制御システム学科 教授
	藤本淳	東京大学 先端科学技術研究センター 特任教授
	山際康之	東京造形大学 造形学部 助教授
	増井慶次郎	産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 主任研究員
	親里直彦	(株) 東芝 研究開発センター 環境技術ラボラトリー 研究主務
	吉田啓一	松下電器産業 (株) 環境本部 環境企画グループ 参事
	朝倉克宜	富士フィルム (株) R&D統轄本部 知的財産本部 工業標準室
	藤崎克己	三菱電機 (株) リビング・デジタルメディア事業本部 渉外部 リサイクル推進グループ 担当部長

オブザーバ

菊島淳治	経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課 普及・監督係長
渡部将亮	経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課 企画三係長 (3R担当)

土屋博史	経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐
加賀義弘	経済産業省 製造産業局 産業機械課ロボット産業室 技術係長
秦智之	テクノロジーシードインキュベーション (株) 東京事務所 マネジメント事業部

事務局	高橋慎治	(財) 製造科学技術センター 生産環境室 主席研究員
	間野隆久	(財) 製造科学技術センター 調査開発部 課長

報告書目次

はじめに.....	1
環境配慮設計を取り巻く状況.....	1
平成 17 年度調査の結果から.....	1
本年度の調査の目的.....	2
本報告書の構成と調査の方法.....	2
第I部 環境配慮設計の普及状況.....	3
1. 一般消費者の環境配慮設計に関する意識.....	5
1.1. アンケート調査の概要.....	5
1.1.1. 方法、期間.....	5
1.1.2. 回答者のプロフィール.....	6
1.2. 環境配慮設計された製品のイメージ.....	7
1.2.1. 環境配慮設計が進んでいると思われる製品.....	7
1.2.2. 環境配慮設計が進んでいると考える理由.....	8
1.2.3. 環境配慮設計が進んでいないと思われる製品.....	14
1.3. 環境配慮設計と購買行動.....	16
1.3.1. 製品購入時の環境配慮設計への意識.....	16
1.3.2. 今後の環境配慮設計された製品の購入の意向.....	17
1.3.3. 環境配慮設計がなされた製品購入の意向の詳細.....	18
1.3.4. 環境配慮設計がなされた製品を購入したいと思わない理由.....	20
1.4. 一般消費者が求める環境配慮設計に関する情報.....	21
1.4.1. 環境配慮設計、環境負荷低減の取り組みに関する情報入手経路.....	21
1.4.2. 環境配慮設計に関して目にしたことがある説明やラベル.....	23
1.4.3. 判断材料にしたことがある説明やラベル.....	25
1.4.4. 判断材料になりそうなもの、表示があると良いと思うもの.....	27
1.4.5. 環境配慮設計に関する情報提供のレベル.....	29
1.4.6. 期待する情報提供の方法.....	30
1.5. 法令によるラベルの認知状況.....	32
1.6. 3 R 関連の法令の認知状況.....	35
1.6.1. 3 R 関連の法令全般.....	35
1.6.2. 資源有効利用促進法の省資源化製品の認知状況.....	38
1.6.3. 資源有効利用促進法の再利用促進製品の認知状況.....	40
1.6.4. 省資源が進んでいると思われる製品.....	41
1.6.5. リユース、リサイクルが進んでいると思われる製品.....	42
1.7. まとめ.....	43

2. 製造業者における環境配慮設計の状況	44
2.1. 調査の概要	44
2.1.1. 方法、期間	44
2.1.2. 回答者のプロフィール	44
2.2. 環境配慮設計のターゲット	46
2.2.1. 全社的な環境目標と製品の開発目標の関連	46
2.2.2. 環境配慮設計の動機	50
2.3. 環境配慮設計のターゲットとなる項目	54
2.4. 環境配慮設計のプロセスとツール	62
2.4.1. 環境配慮設計のプロセス	62
2.4.2. 環境配慮設計で用いるツール	67
2.5. 環境配慮設計の評価指標	73
2.5.1. 設計・開発段階の評価指標	73
2.5.2. 環境配慮設計の効果、成果の評価指標	82
2.5.3. 環境配慮設計の外部評価の方法	86
2.6. 取引先との要望のやり取り	89
2.6.1. セットメーカーからサプライヤへの要求	89
2.6.2. セットメーカーからサプライヤへの要望で達成されにくいもの	93
2.6.3. サプライヤからセットメーカーへの要望、提案の有無	97
2.7. 情報提供	99
2.7.1. 取引先への情報提供	99
2.7.2. 一般消費者への情報提供	100
2.7.3. 回収・リサイクル業者への情報提供	104
2.7.4. 従業員への情報提供	105
2.8. 環境配慮設計を行っていない場合	106
2.8.1. 環境配慮設計を行っていない理由	106
2.8.2. どのようなメリットがあれば環境配慮設計に取り組むか	107
2.9. まとめ	108
3. 環境配慮設計に関する情報共有	109
第II部 環境配慮設計に関するキーワードの使用状況	111
1. 環境配慮設計に関連するキーワード	113
2. 環境報告書におけるキーワード出現状況	115
2.1. 概況	115
2.2. キーワード出現状況	116

2.3. 事業内容による違い.....	117
2.4. キーワード出現状況の推移.....	121
3. 新聞におけるキーワード出現状況.....	125
3.1. 調査対象紙.....	125
3.2. キーワード出現状況.....	125
4. 雑誌におけるキーワード出現状況.....	141
4.1. 調査対象雑誌.....	141
4.2. キーワード出現状況.....	141

はじめに

本報告書では製品の環境負荷を低減する設計を環境配慮設計と呼ぶ。なお、環境調和設計、環境適合設計、エコデザインなども同様の意味で用いられるが、本報告書では環境配慮設計を用いることとした。

環境配慮設計を取り巻く状況

地球温暖化をはじめとする環境問題が顕在化している今日、ものづくりにおいても環境への配慮が必須のものとなってきた。環境配慮設計として、小型化や軽量化による省資源化、使用時の省エネルギーの促進、リサイクル性の向上、環境負荷物質の削減などが広く取り組まれている。

事業者の自主的な取組みに加えて循環型社会の形成のための法律も整備されており、資源の有効利用のために、官民一体となった取組みが進んでいる。

EU では RoHS 指令による電気電子機器の特定化学物質の使用制限が始まった。日本でも資源有効利用促進法の省令の一部改正により、家電製品などで J-Moss による製品に含有される特定化学物質の表示が義務付けられた。こうした化学物質の含有に関する規制はものづくりに大きな影響を及ぼしている。

環境配慮設計に関しては、EU では EuP 指令によってエネルギーを使用する製品でエコデザインが義務付けられる方向である。また、IEC では ECD (Environmentally Conscious Design) の規格化も進められている。こうした国際的な動きもある中、日本国内のメーカーが環境配慮設計で世界をリードする存在であるためには、環境配慮設計にどのように取り組んでいるのかを把握し、今後の取組みについての検討を行うことが望ましい。家電製品やオフィス家具のように製品アセスメントの取組みを進めている業界もあるが、どのような業界で環境配慮設計の取組みが進んでいるか、どのような目標設定を行っているか、どのようなツールが用いられているかを業界横断的に把握することで、今後の政策的な誘導の検討なども可能になるだろう。

一方、環境配慮設計がなされた製品が、消費者にどのように受け取られているかを明らかにすることが望まれてきた。メーカーの立場では、環境配慮設計に積極的に取り組むには、消費者が環境配慮設計によりつくり出される製品を積極的に購入することが必要になってくる。消費者を誘導するような製品を作るのか、消費者が環境に配慮した製品を求めるのか、どちらかが主導するものではないのかもしれないが、現状、環境配慮設計が消費者にどのように受け取られているかを明らかにすることは今後の方向性を議論するうえで重要な要素である。

平成 17 年度調査の結果から

平成 17 年度の調査（平成 17 年度 循環型経営促進基盤整備事業 「環境配慮設計普及状況基礎調査」、平成 18 年 3 月、製造科学技術センター）では、環境配慮設計の認知状況として、合計 74 社に対して、環境関連のトピックスの浸透度とともに、環境配慮設計の社内の認知度、浸透度についてヒアリング調査と環境報告書のキーワードの調査を実施した。

サプライヤとなる中小メーカーでは、納入先のセットメーカーからの要求仕様に従った部品・コンポーネントの納入を求められるために設計の自由度が小さく、環境配慮設計として環境負荷物質を含有しない材料の選択や環境負荷物質を使用しない製造工程への切り替えなどに限定される場合が多いようである。

製品の設計・開発における環境配慮については、それが製品の差別化につながるなどの意見もあったが、業界が一斉に取り組むことが必要ではないか、消費者の意識を高めるための施策が必要ではないか、などの意見も見られた。

キーワードの調査では、地球温暖化、京都議定書、環境マネジメント、ISO 14001、リサイクルという語の出現頻度が高いことがわかった。

本年度の調査の目的

本年度の調査では、以下の項目を明らかにすることに主眼をおいた。

- 環境配慮設計は消費者にどのようにとらえられているか。また、メーカー側の意図が消費者に伝わっているか。
- メーカーの環境配慮設計のモチベーションは何か。
- メーカーの環境配慮設計でどのような評価指標が用いられているか。
- 製造する製品の特徴によって区分した場合に、環境配慮設計に特徴があるか。
- キーワードの出現頻度が変化しているか。

本報告書の構成と調査の方法

本報告書は2部構成とし、第Ⅰ部には環境配慮設計の普及状況の調査として一般消費者と製造業者に対するアンケート調査の結果と分析を記し、第Ⅱ部には、キーワード調査の結果と分析について記した。

第 I 部 環境配慮設計の普及状況

1. 一般消費者の環境配慮設計に関する意識

通常、製品開発においては、ユーザの要望を取り入れて製品開発を進めるが、ユーザが一般消費者である製品においては、一般消費者が環境配慮型の製品を優先的に購入するならば製品の環境配慮が進むと思われる。平成 17 年度の事業者に対する環境配慮設計の普及状況に関するヒアリング調査では、事業者は消費者の環境配慮型製品への意識の高まりが環境に対して配慮された製品の普及につながると期待する声が多かった。

環境負荷を低減させるには、効率的なリサイクルシステム確立などの 3 R の取り組みとともに、より環境負荷の小さい製品を普及させていくことも重要である。そのためには消費者の環境に配慮された製品に対する意識を高めることが求められる。本調査では、一般消費者の 3 R 関連の法令に関する認識と合わせて、製品の設計・開発における環境配慮についてどのような認識を持っているかを把握するためのアンケート調査を行うこととした。

消費者がメーカーから製品の環境配慮についてどのような情報を求めているかを知ることが必要であると考え、アンケート調査では情報提供のあり方についても聞いた。

1.1. アンケート調査の概要

一般消費者の環境配慮設計に関する意識をウェブアンケートにより調査した。調査方法の概要、回答者のプロフィールを示す。

1.1.1. 方法、期間

株式会社 ドゥ・ハウスが提供する電子メールリサーチネットワーク「iMi・ネット」により、電子メール及び WEB アンケートによる調査を行った。調査期間は 2007 年 2 月 2 日（金）から 2 月 8 日（木）とした。

なお、調査にあたって「環境配慮設計」が指す内容を明確にするため、アンケート票の最初に以下のような説明文を入れた。環境配慮設計についての導入説明を読んだうえで、設問に答えてもらうこととした。

環境配慮設計とは、メーカーが製品を設計する際に、製品の軽量化、省エネルギーの実現、リサイクル材料の利用、リサイクル・リユースしやすくするための構造や材料の工夫など、環境負荷を低減するための取り組みを行うことです（環境調和型設計、エコデザイン、Design for Environment、Environmentally Conscious Design などのような呼び方もあります）。

また、製品設計における環境への配慮として、主に以下のような項目に着目するものとします。

- 製品の小型化・軽量化 → 資源の使用量削減、廃棄物の発生抑制につながります。
- 省エネルギー（省エネ運転モード、待機時の低電力消費など）
- 再生資源の利用（リサイクル材料）

- 再生部品の利用（リユースパーツ）
- リサイクルしやすい設計（材料の種類を減らすなど）
- リユースしやすい設計（分解しやすい、パーツを取り出しやすいなど）
- 製品に含有される環境負荷物質量の削減
- 製品使用時の環境負荷物質排出量の削減
- 長寿命化
- 製造時の環境負荷の低減（環境負荷物質削減、省エネルギー、廃棄物量の削減など）

1.1.2. 回答者のプロフィール

10代から60代を10歳ごとに区分し、各区分の男女100名ずつから回答が得られるようにしたところ、1,288名からの回答が得られた。回答者のプロフィールを表1-1、表1-2に示す。

表 1-1：回答者の年齢

	15～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	合計
男性	100	102	111	111	113	125	662
女性	102	101	110	100	101	112	626
合計	202	203	221	211	214	237	1288

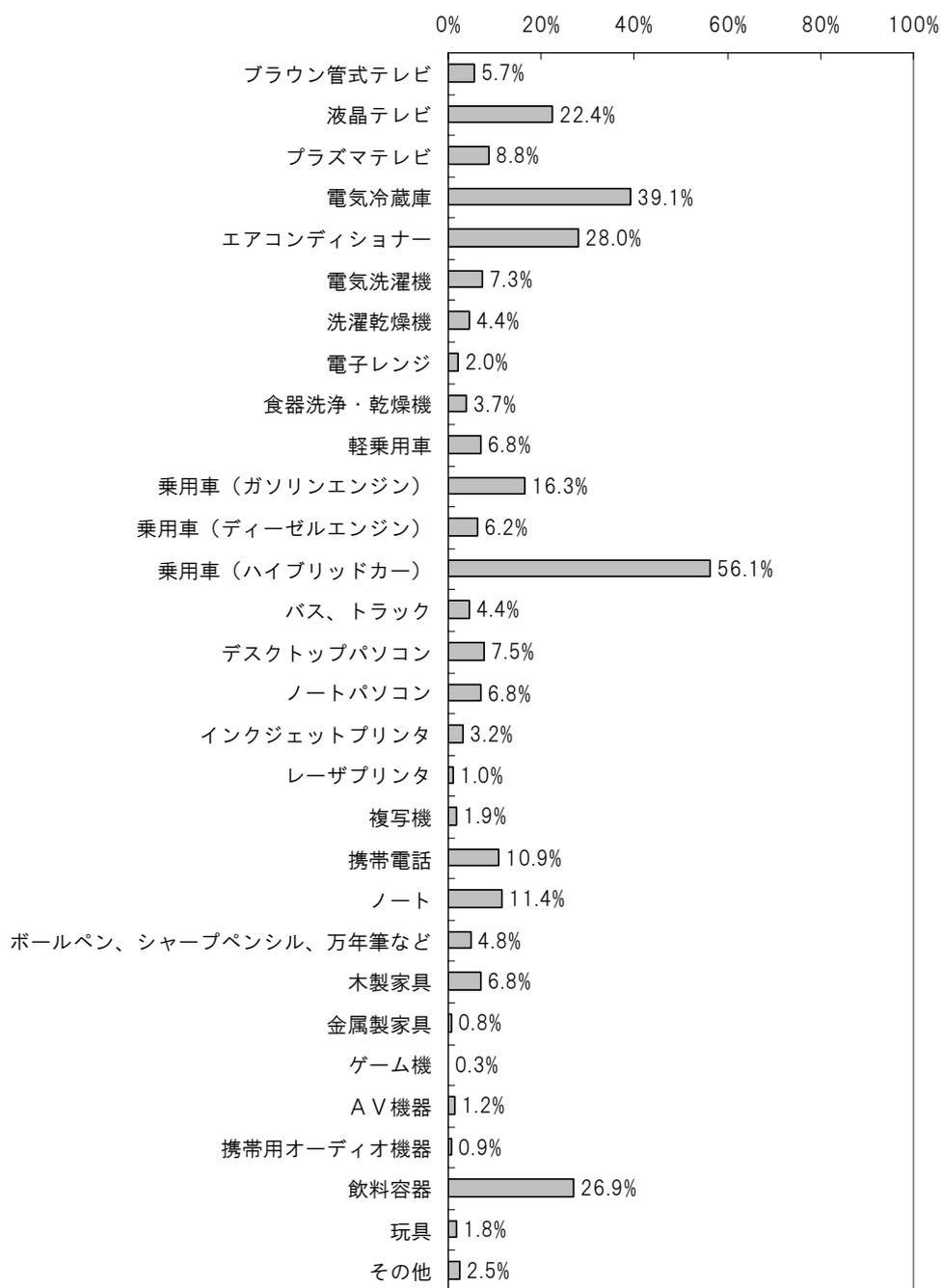
表 1-2：回答者の職業

職業	件数	構成比 (%)
会社員	400	31.1%
公務員	38	3.0%
専門職	21	1.6%
自営業	106	8.2%
教職	11	0.9%
専業主婦	238	18.5%
アルバイト他	115	8.9%
学生	227	17.6%
無職	97	7.5%
その他	35	2.7%
計	1,288	100.0%

1.2. 環境配慮設計された製品のイメージ

1.2.1. 環境配慮設計が進んでいると思われる製品

環境配慮設計が進んでいると考えられている製品にはどのようなものがあるかをその理由とあわせて選択肢の中から選択してもらった。製品のリストから、3つ選択してもらっている。環境配慮設計が進んでいる製品として選択されたものを選択率によって図 1-1 に示す。

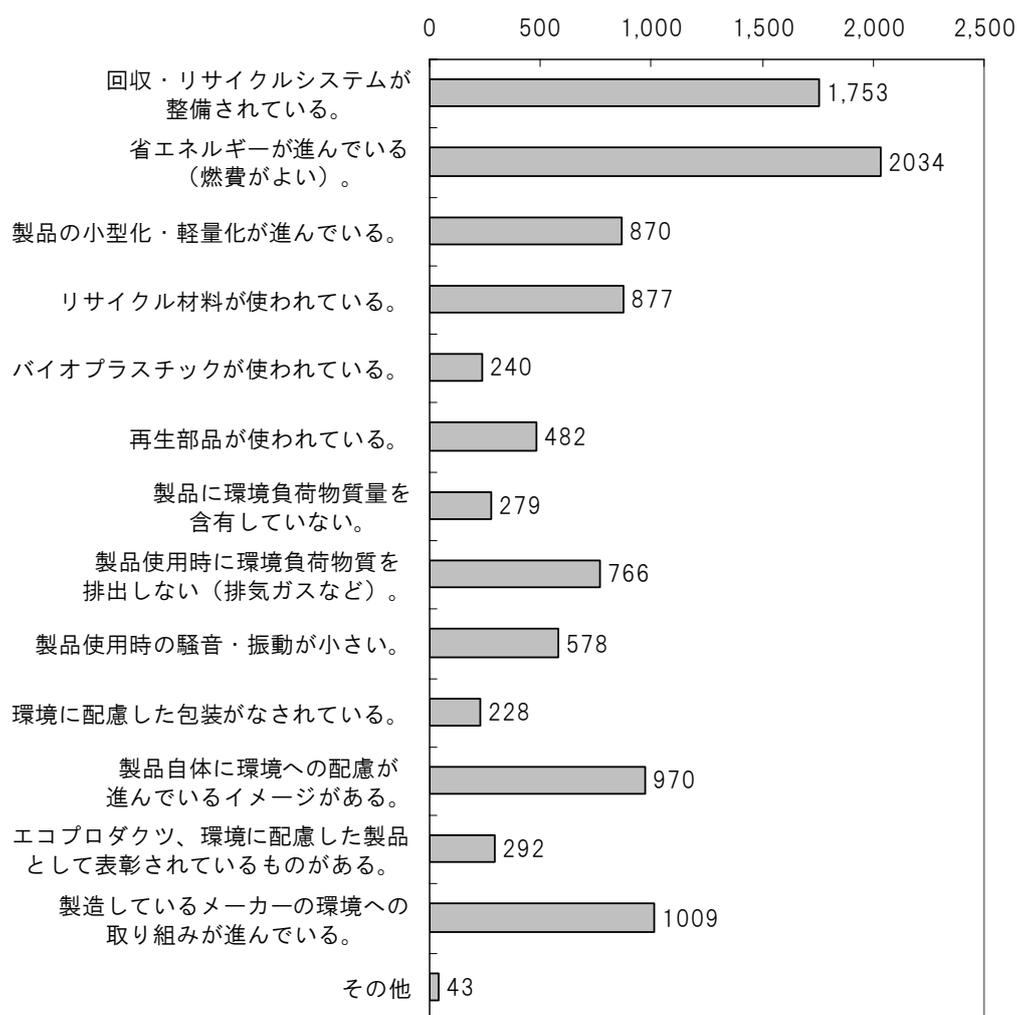


(回答者数 1,288)

図 1-1：環境配慮設計が進んでいるイメージのある製品

1.2.2. 環境配慮設計が進んでいると考える理由

環境配慮設計が進んでいると考えている製品について、その選択理由をあわせて聞いている。まず、製品を区分しないでどのような項目に着目されているかを大まかに把握するため、進んでいると考える理由として選択された項目の回答者数の合計値を図 1-2 に示す。なお、回答者は 3 つの製品それぞれについて理由を選択しているため、選択件数は回答者数より大きい（選択件数は最大で回答者数 1,288 の 3 倍の件数となる）。



(回答者数 1,288)

図 1-2 : 環境配慮が進んでいると考える理由

多くの回答者が省エネルギー (低燃費)、リサイクルシステムが整備されていることを環境配慮設計が進んでいると考える理由としている。省エネについては、家電製品等では省エネラベルの表示があったり、自動車でも低燃費がアピールされていたりするが、これらの効果があるということかもしれない。

製品自体で環境配慮が進んでいるというイメージがある、製造しているメーカーの環境への取り組みのイメージがあるという選択肢の選択率が高い。ただし、選択した製品によるので、製品別の集計を検討しなくてはならない。

環境配慮設計が進んでいるとする理由は製品のタイプに依存し、製品種類を問わずに前述の傾向があるとは限らない。環境配慮設計が進んでいるとした理由を、その製品ごとに集計した結果を表 1-3 に示す。また、環境配慮設計が進んでいる製品として選択されたいくつかの製品の結果をチャートにして図 1-3 に示す。

表 1-3 (1) : 環境配慮設計が進んでいると考える理由 (選択した製品ごとの集計)

	回収・リサイクルシステムが整備されている。	省エネルギーが進んでいる (燃費がよい)。	製品の小型化・軽量化が進んでいる。	リサイクル材料が使われている。	バイオプラスチックが使われている。	再生部品が使われている。	製品に環境負荷物質量を含有していない。	製品使用時に環境負荷物質量を排出しない	製品使用時の騒音・振動が小さい。	環境に配慮した包装がなされている。	製品自体に環境への配慮が進んでいるイメージがある。	エコプロダクツ、環境に配慮した製品として表彰されているものがある。	製造しているメーカーの環境への取り組みが進んでいる。	その他
ブラウン管式テレビ	49	17	12	11	5	12	5	2	4	4	7	1	13	1
液晶テレビ	132	168	116	34	19	17	24	31	32	30	82	20	90	0
プラズマテレビ	52	53	40	17	11	8	9	11	8	7	26	10	24	1
電気冷蔵庫	289	350	84	76	33	44	71	108	111	32	136	40	143	6
エアコンディショナー	169	276	85	42	15	23	38	67	87	17	101	32	84	1
電気洗濯機	49	58	29	16	8	10	6	11	28	5	21	5	16	1
洗濯乾燥機	19	34	11	4	4	4	2	5	22	2	15	4	13	1
電子レンジ	10	13	6	3	2	3	3	2	3	4	2	1	6	1
食器洗浄・乾燥機	0	30	12	0	0	3	2	9	8	1	10	4	11	0
軽乗用車	26	68	38	17	4	15	3	22	11	1	22	6	30	0
乗用車 (ガソリンエンジン)	85	152	49	53	18	41	13	55	29	1	49	16	76	0
乗用車 (ディーゼルエンジン)	15	47	15	9	3	6	9	28	13	3	15	0	26	1
乗用車 (ハイブリッドカー)	119	621	107	69	35	45	38	318	169	15	277	113	266	3
バス、トラック	3	26	1	8	0	3	1	29	10	2	9	1	10	2

表 1-3 (2) : 環境配慮設計が進んでいると考える理由 (選択した製品ごとの集計)

	回収・リサイクルシステムが整備されている。	省エネルギーが進んでいる (燃費がよい)。	製品の小型化・軽量化が進んでいる。	リサイクル材料が使われている。	バイオプラスチックが使われている。	再生部品が使われている。	製品に環境負荷物質量を含有していない。	製品使用時に環境負荷物質量を排出しない	製品使用時の騒音・振動が小さい。	環境に配慮した包装がなされている。	製品自体に環境への配慮が進んでいるイメージがある。	エコプロダクツ、環境に配慮した製品として表彰されているものがある。	製造しているメーカーの環境への取り組みが進んでいる。	その他
デスクトップパソコン	78	29	34	30	9	22	2	4	8	13	9	3	21	0
ノートパソコン	62	29	54	30	19	15	2	3	7	12	17	6	25	0
インクジェットプリンタ	34	1	9	15	3	7	3	2	2	3	4	0	11	0
レーザプリンタ	8	1	3	4	0	1	2	2	2	0	1	2	3	0
複写機	20	3	7	9	0	11	0	2	4	1	4	1	9	0
携帯電話	97	14	69	40	15	30	2	6	4	7	21	2	23	1
ノート	55	6	1	107	0	35	7	9	3	5	28	7	20	0
筆記具*	17	4	8	36	5	17	1	2	1	6	8	4	2	3
木製家具	26	3	6	31	2	12	25	21	3	3	42	6	11	3
金属製家具	5	0	2	3	0	1	1	0	1	1	1	0	0	1
ゲーム機	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
A V 機器	9	7	6	4	2	6	0	2	4	1	3	1	6	0
携帯用オーディオ機器	0	1	8	0	0	1	0	2	0	1	1	0	2	1
飲料容器	311	16	50	193	26	81	9	10	1	44	54	5	64	0
玩具	5	4	4	11	2	5	1	2	1	5	3	1	3	1
その他	8	2	3	4	0	4	0	1	1	2	2	1	1	15

*: ボールペン、シャープペンシル、万年筆など

(それぞれの製品について、選択した理由を複数選択)

電気冷蔵庫

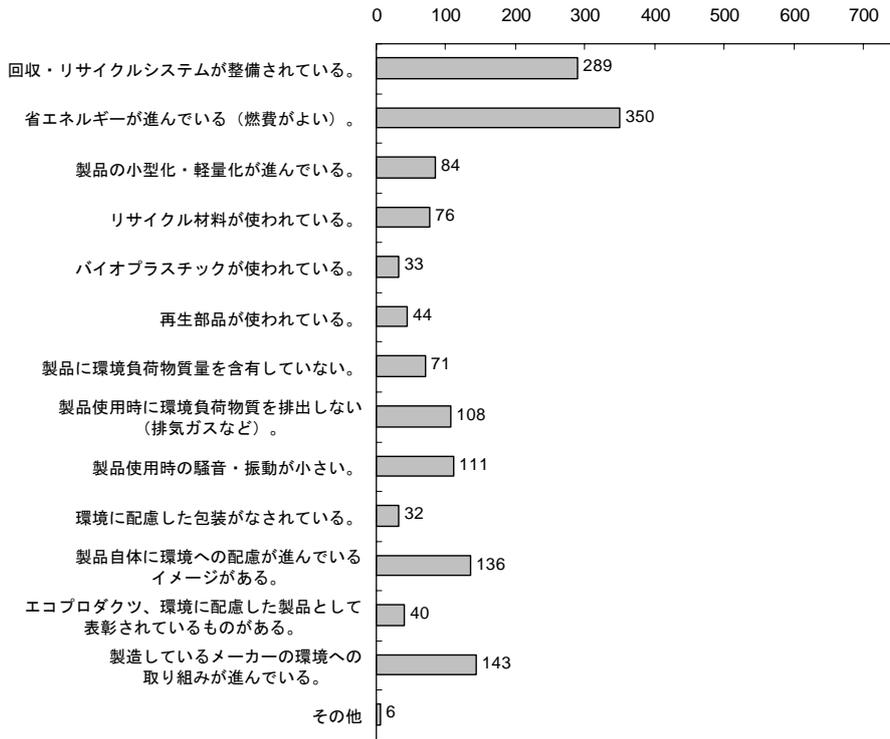


図 1-3 (1) : 環境配慮設計されていると考える理由（電気冷蔵庫）

エアコンディショナー

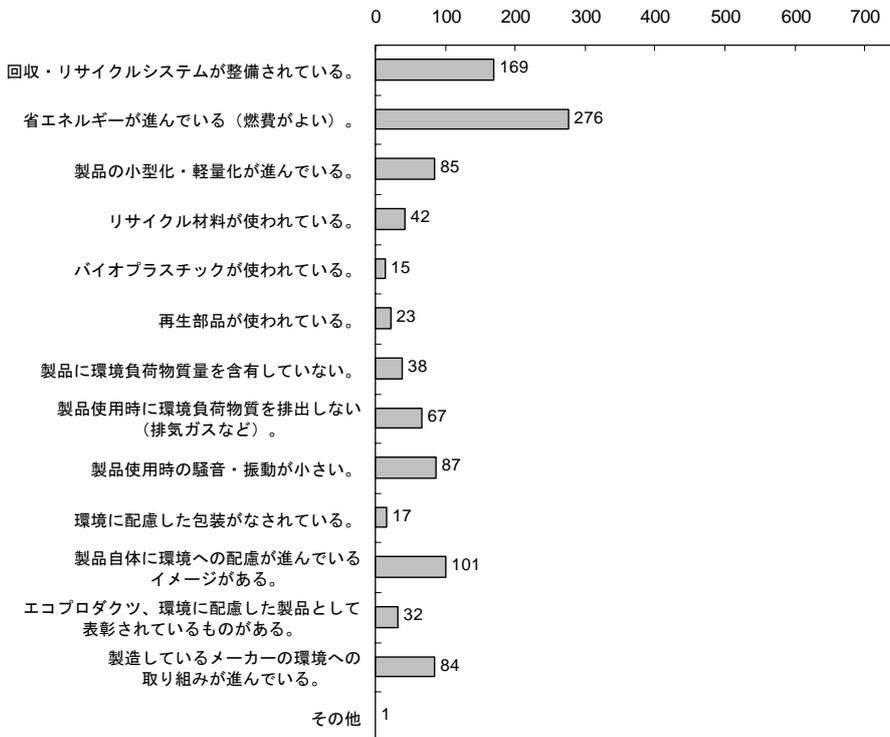


図 1-3 (2) : 環境配慮設計されていると考える理由（エアコンディショナー）

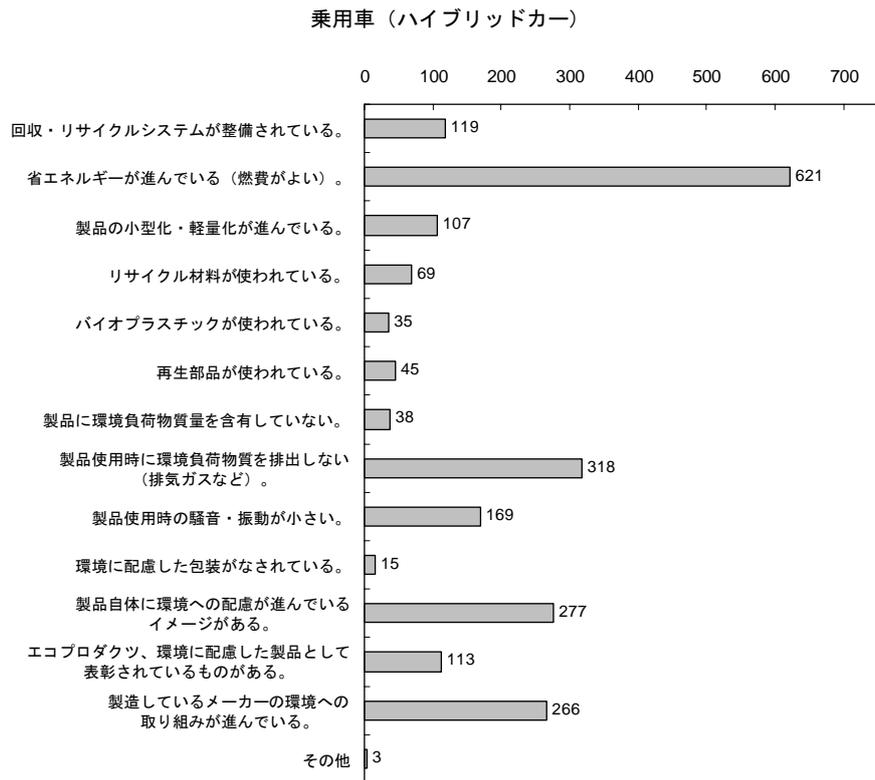


図 1-3（3）：環境配慮設計されていると考える理由（ハイブリッドカー）

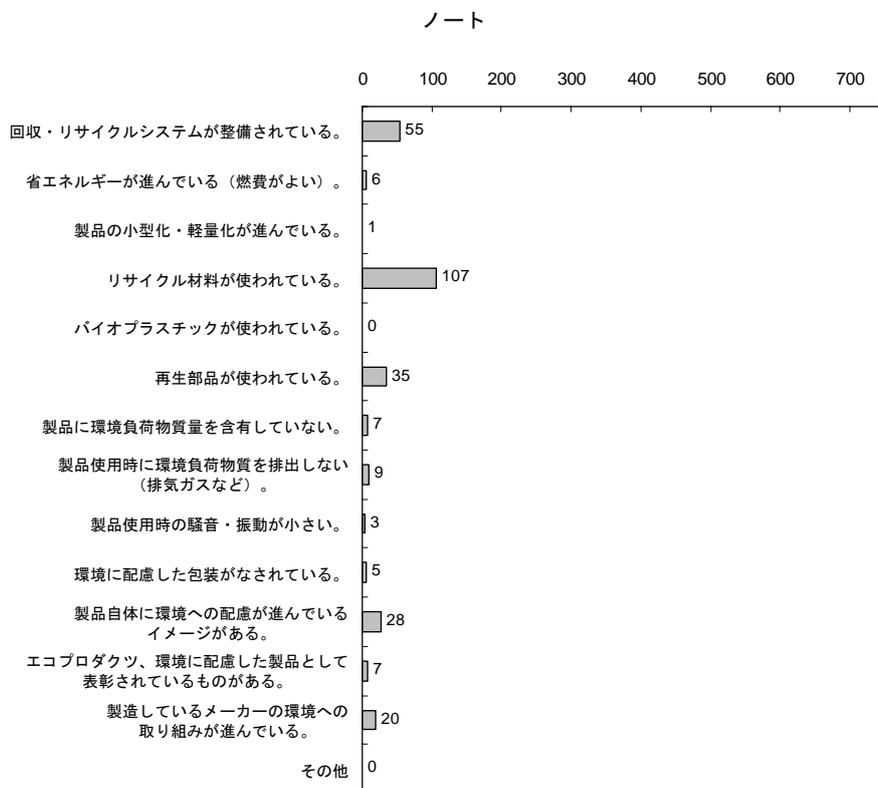


図 1-3（4）：環境配慮設計されていると考える理由（ノート（文具））

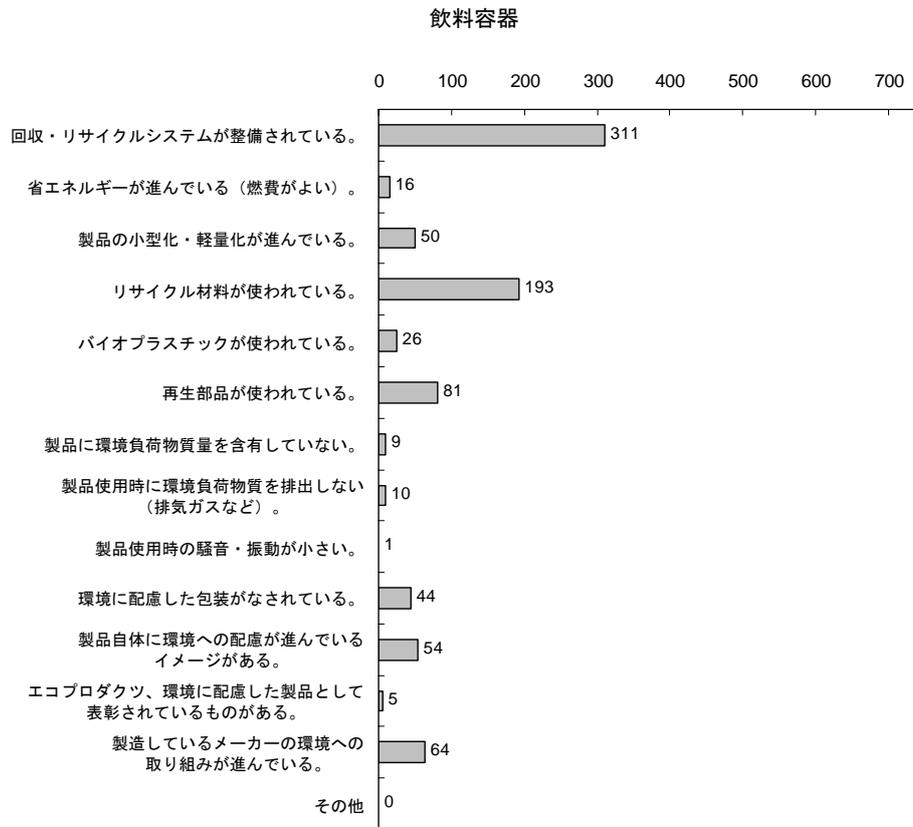


図 1-3 (5) : 環境配慮設計されていると考える理由（飲料容器）

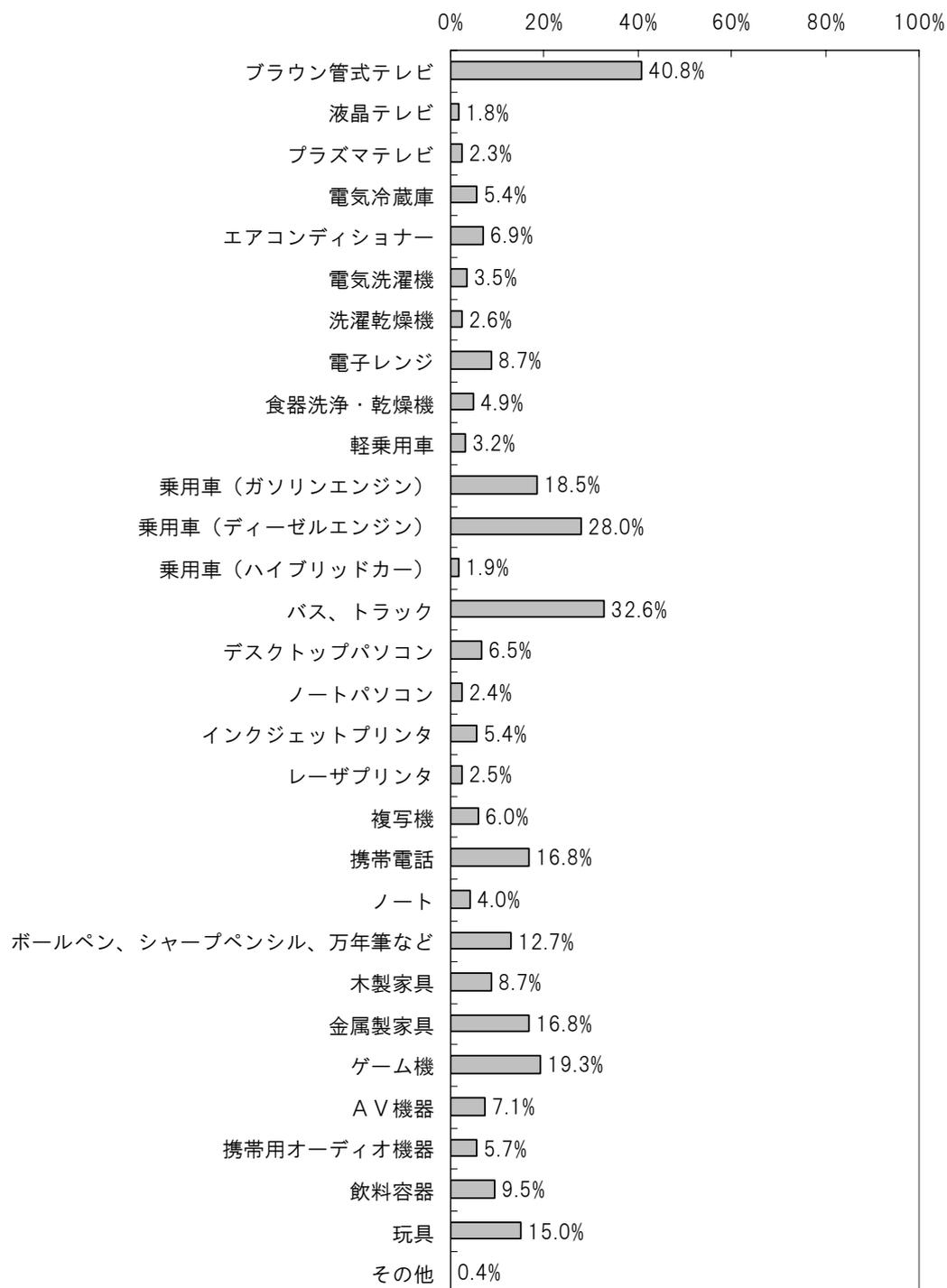
集計結果から

一般消費者の製品に対する環境イメージは、マスコミでのトピックの取り上げ方やテレビコマーシャルの量に強く影響されると言われている。今回のアンケート結果でも、乗用車におけるガソリンエンジンとハイブリッド、テレビのブラウン管と液晶などはそれがあてはまるものと思われる。

リユース、リサイクルの進んでいる複写機や最近環境性能の改善が進んでいるバス、トラックなど、事業者を相手にビジネスしている製品では一般市民への積極的な情報提供が行われているとは限らない。一般消費者が購買する機会の少ないこれらの製品についても、日常生活の中で利用するものである場合が多く、どのような環境配慮設計がなされているかを示すことは今後重要になるのではないか。

1.2.3. 環境配慮設計が進んでいないと思われる製品

回答者に製品リストから環境配慮設計が進んでいないと思われる製品を3つ選択してもらった。
図1-4に集計結果を示す。



(回答者数 1,288)

図1-4：環境は慮設計が進んでいないと思われる製品

ブラウン管式テレビ、ハイブリッドや軽乗用車を除く自動車には環境配慮設計が進んでいないイメージがあるようである。

ブラウン管式テレビについては、40%の回答者が環境配慮が進んでいない製品として選択した。液晶テレビ等の薄型テレビとの比較でイメージが悪くなっているのではないかと。液晶テレビはCMなどの効果もあり、環境配慮が進んでいるイメージがある一方、ブラウン管式テレビは大きい、重いというイメージがあるのではないかと。また、国内販売も薄型のテレビが主流になっており、国内でのブラウン管式テレビの製造も行われなくなっていることから、新しい設計をしているイメージがないということも考えられる。

バス・トラックも 32.6%の回答率であった。実際には、低公害型のディーゼルエンジンも開発されており、厳しい排ガス規制をクリアする製品が設計・製造されているが、依然としてディーゼルエンジンに対するイメージが悪いようだ。ガソリンエンジン車、ディーゼル車ともに、比較対象としてハイブリッド車があると、排ガスや燃費の点でイメージが悪くなると考えられる。

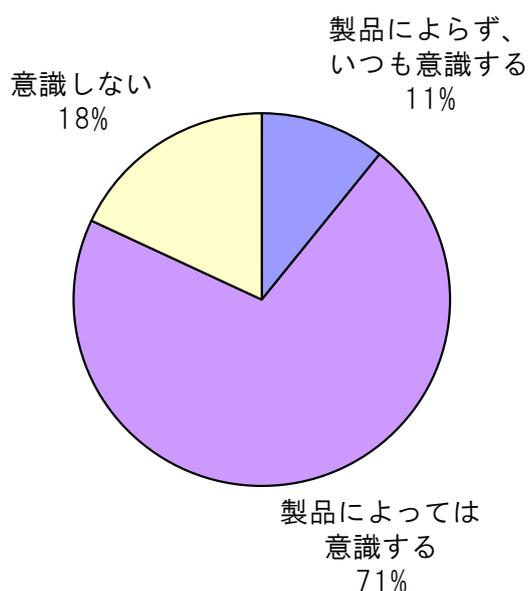
携帯電話、ゲーム機といった製品も環境配慮設計が進んでいない製品として選択されている。ゲーム機など、娯楽を目的とする製品は、環境に対しては不利なイメージもあるが、たとえばゲーム機でも小型化による資源消費の削減が行われているなど、環境への配慮は行われている。

金属製家具も環境配慮設計が進んでいない製品として 16.8%の回答があった。オフィス家具については、業界での環境配慮設計（製品アセスメント）の取り組みが進められている。また、金属（鉄、ステンレス）が主体の製品であることもあり、従来のリサイクルルートでのリサイクルも行われているが、こうした取り組みは消費者には伝わっていないようである。

1.3. 環境配慮設計と購買行動

1.3.1. 製品購入時の環境配慮設計への意識

一般消費者が製品購入時に環境配慮設計について気にしているかどうか、環境配慮設計がなされているかどうかは製品選択の際の大きな要因となることが、製造事業者の環境配慮設計への取り組みを加速することになる。現在どのような状況であるかを把握するため、製品を購入する際に、その製品が環境配慮設計されているかどうかを意識するかを聞いた。結果を図 1-5 に示す。



(回答者数 1,288)

図 1-5：製品購入時の環境配慮設計に関する意識の有無

製品によらず常に意識しているという回答が 11%、製品によって意識するという回答が 71%を占める。この結果からは、かなりの消費者が製品の購入の際に環境配慮設計について意識していることがわかる。

なお、環境配慮について意識しなくても製品が環境配慮設計されていればよいという考えもあるが、メーカーが一般消費者に情報を提供し、一般消費者が意識的に環境配慮設計された製品を選択することでメーカー、環境配慮設計に関する取り組みを促進することができるだろう。

また、「意識しない」という回答は男性の回答者のほうが多く、年代別には男女とも 10 代の回答者に多かった。

1.3.2. 今後の環境配慮設計された製品の購入の意向

今後の環境配慮設計された製品の購入の意向を聞いた。結果を表 1-4、図 1-5 に示す。

表 1-4：今後の環境配慮設計された製品購入の意向

購入したいと思う	購入したいと思わない	合計
1,230	58	1,288

(単位：人、回答者数 1,288)

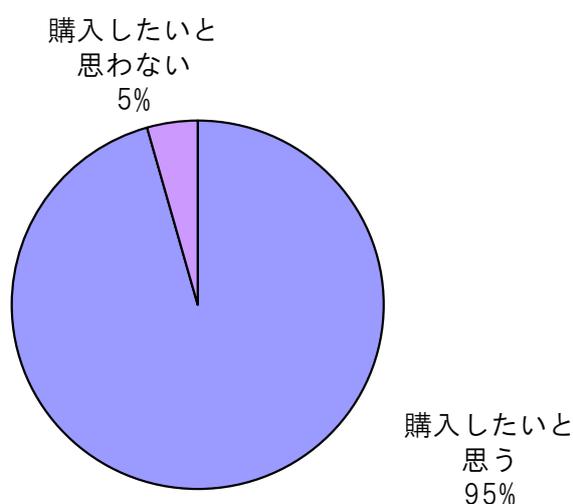


図 1-5：今後の環境配慮設計された製品購入の意向

95%の回答者が環境配慮設計された製品を購入したいという意向を持っている。

なお、環境配慮製品を購入したいという意向を持っていない回答者の属性については、以下のような特徴があった。

- 女性（16名、2.6%）より、男性（42名、4.5%）が多い。
- 40代では、男性 11名（9.9%）、女性 1名（1.0%）
- 購入したくない理由を聞いているが、3分の2は価格を優先に選択したいと回答している。

1.3.3. 環境配慮設計がなされた製品購入の意向の詳細

消費者が環境配慮設計がなされた製品を購入する意向をもっていても、実際の消費に結びつかない場合が多い。これまでに指摘されているのは、環境配慮設計を行うことで製品開発、製造コストが上昇し、製品価格に上乗せされるため、より安価な製品を求める消費者からは敬遠されてしまうという点である。一方で法令での規制や、税制優遇措置などでこうした価格面での不利を解消できるという見方もある。

そこで、この調査では環境配慮設計された製品を購入したいという意向を持つ回答者に、その意向の詳細を選択肢から選んでもらった。その結果を表 1-5、図 1-6 に示す。

表 1-5：環境配慮設計がなされた製品購入の意向

選択肢	回答数	割合
価格によらず環境への配慮がなされた製品を購入したい。	111	9.0%
環境への配慮がなされた製品を購入したいが、価格や性能を優先する。	844	68.6%
価格が高くても、税制などで優遇措置があれば購入したい。	181	14.7%
法令で規制されれば環境への配慮がなされた製品を購入する。	85	6.9%
製品の環境への配慮は気にしない。	9	0.7%

合計 1,230
(回答者数 1,230)

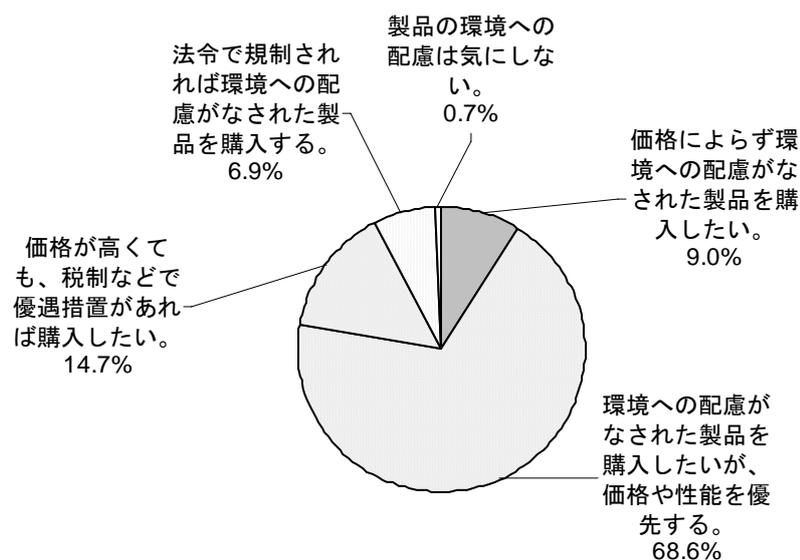


図 1-6：環境配慮設計がなされた製品購入の意向

環境配慮設計された製品を購入する意向があるが、価格や性能を優先するという回答が 70% 近くを占めている。一方でこれは、価格や機能が同等レベルであれば、環境配慮された製品を購入したいと考える消費者も増えてきており、環境配慮設計された製品の購入意識が高まっているとも考えられる。

約 15%の回答者が税制優遇措置や補助金などの優遇処置があれば買うとしているが、環境配慮された製品に対する購入者の実質的な支出金額が抑えられることによって普及展開に効果があるとされている。(太陽電池発電システム、高効率給湯器など)

環境配慮設計された製品がより購入されるようになるためには、生産者は価格上昇を抑えることや消費者の理解を得るように情報提供することが必要であるが、普及促進には環境配慮による価格上昇分に対応するには、法令による規制や税制優遇措置も必要であるのではないか。

1.3.4. 環境配慮設計がなされた製品を購入したいと思わない理由

環境配慮設計された製品を購入したいという意向を持たない回答者は、全回答者 1,288 人中 58 人いるが、その理由としてどのようなものかを考えているかを聞いた。結果を表 1-6、図 1-7 に示す。

表 1-6：環境配慮設計がなされた製品を購入したいと思わない理由

選択肢	回答数
環境配慮設計に関する情報提供が足りないから。	14
価格、性能を優先に商品を選択したいから。	39
環境配慮設計された製品は通常の製品と比較して価格が高いから。	9
環境配慮設計がされた製品の購入が循環型社会の形成に貢献するかどうか分からないから。	9
その他	1

(回答者数 58、複数選択)

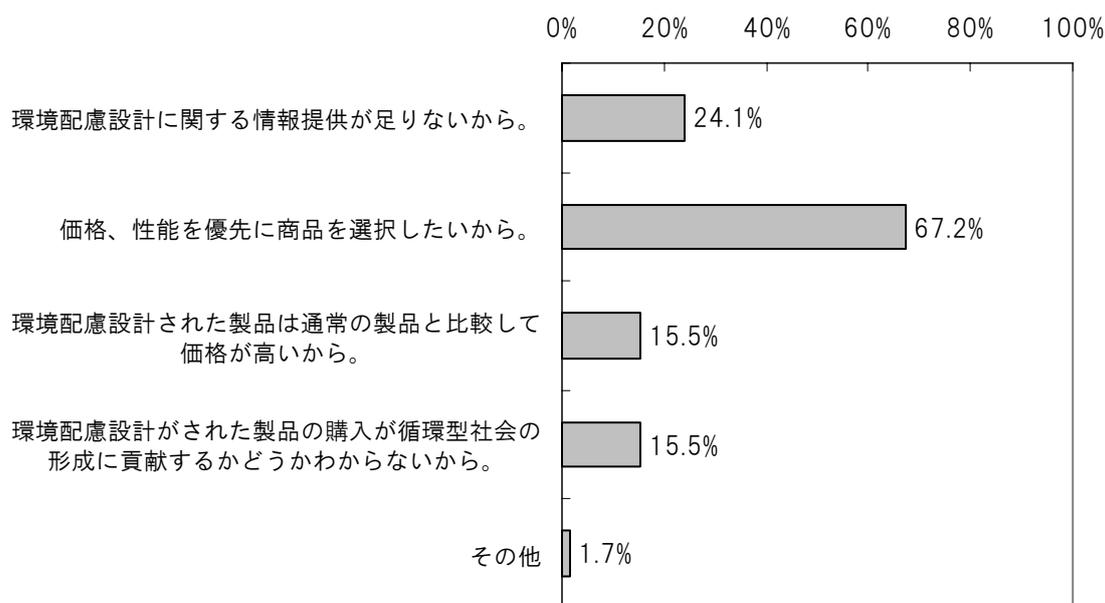


図 1-7：環境配慮設計がなされた製品を購入したいと思わない理由

「価格、性能を優先したい」を環境配慮設計がなされた製品を購入したいと思わない理由にする回答が多い。環境配慮設計された製品は従来の製品よりも価格が高いという認識があることが伺える。

環境配慮設計に関する情報提供が足りない (24.1%)、環境配慮設計された製品の購入が循環型社会の形成に貢献するかどうか分からない (15.5%) という回答の選択もあり、環境配慮設計に関する情報提供が十分でないことも環境配慮設計された製品の購買が進まない一つの要因ではないか。

1.4. 一般消費者が求める環境配慮設計に関する情報

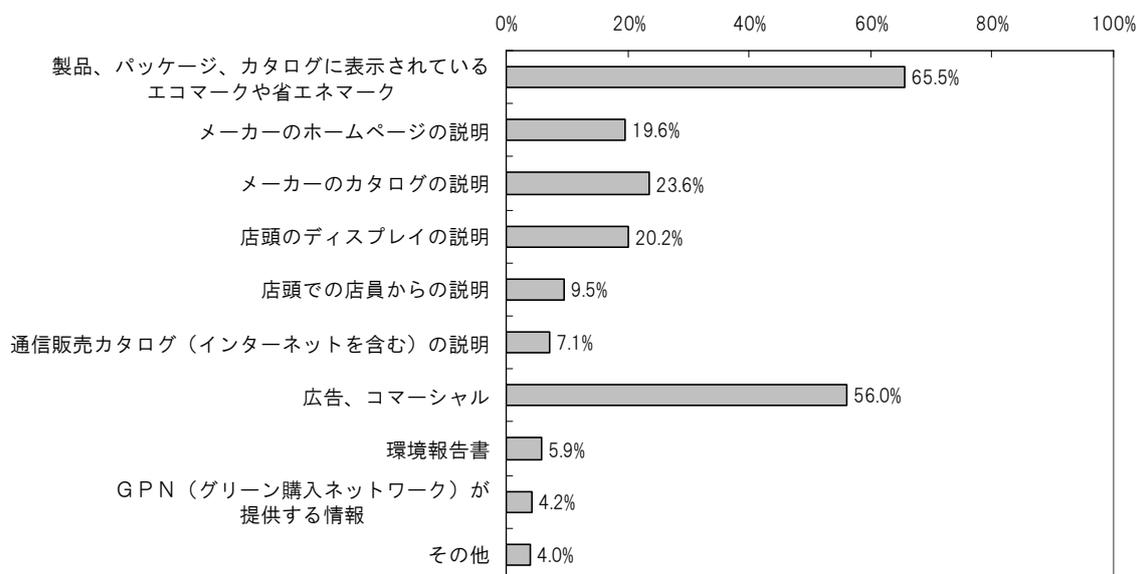
1.4.1. 環境配慮設計、環境負荷低減の取り組みに関する情報入手経路

「環境配慮設計が進んでいると思われる製品」を選択してもらったが、その環境配慮設計、環境負荷低減の取り組みに関する情報は何かから得たかをあわせて聞いた。その結果を表 1-7、図 1-8 に示す。

表 1-7：環境配慮設計、環境負荷低減の取り組みに関する情報入手経路

選択肢	回答数	選択率 (%)
製品、パッケージ、カタログに表示されているエコマークや省エネマーク	844	65.5%
メーカーのホームページの説明	252	19.6%
メーカーのカタログの説明	304	23.6%
店頭でのディスプレイの説明	260	20.2%
店頭での店員からの説明	122	9.5%
通信販売カタログ（インターネットを含む）の説明	91	7.1%
広告、コマーシャル	721	56.0%
環境報告書	76	5.9%
GPN（グリーン購入ネットワーク）が提供する情報	54	4.2%
その他	51	4.0%

(回答者数 1,288、複数選択)



(回答者数 1,288、複数選択)

図 1-8：環境配慮設計、環境負荷低減の取り組みに関する情報入手経路

情報の入手経路として「製品、パッケージ、カタログに表示されているエコマークや省エネマーク」(65.5%)、「広告、コマーシャル」(56.0%)という回答が多い。製品、企業の環境に対する取り組みのイメージにつながるものが選択されているようである。また、マークのような情報提供がわかりやすいと受け止められているようである。

環境報告書や GPN の情報は一般消費者にとって環境配慮設計に関する情報を入手する経路としてはメジャーではないようだ。

また、店頭での情報入手も現状割合が低い。これは販売店がそれほど積極的に環境配慮設計の情報を出していない、店頭のポップなどで省エネルギー性能などを表示していても消費者が気が付かないなどの理由が考えられるが、実際に購入する場面での情報は大きな影響を持つと考えられるため、販売店、消費者の双方の意識が高まることが期待される。

1.4.2. 環境配慮設計に関して目にしたことがある説明やラベル

現在、タイプ I エコラベルであるエコマークや家電製品での省エネマークなど、いくつかの不尾方で環境配慮設計に関する情報が提供されている。これらについて、どの程度の認知度があるかを把握するため、選択肢に示すような説明やラベルを目にしたことがあるかどうかを聞いた。選択肢と結果を表 1-8、図 1-9 に示す。

表 1-8：環境配慮設計に関して目にしたことがある説明やラベル

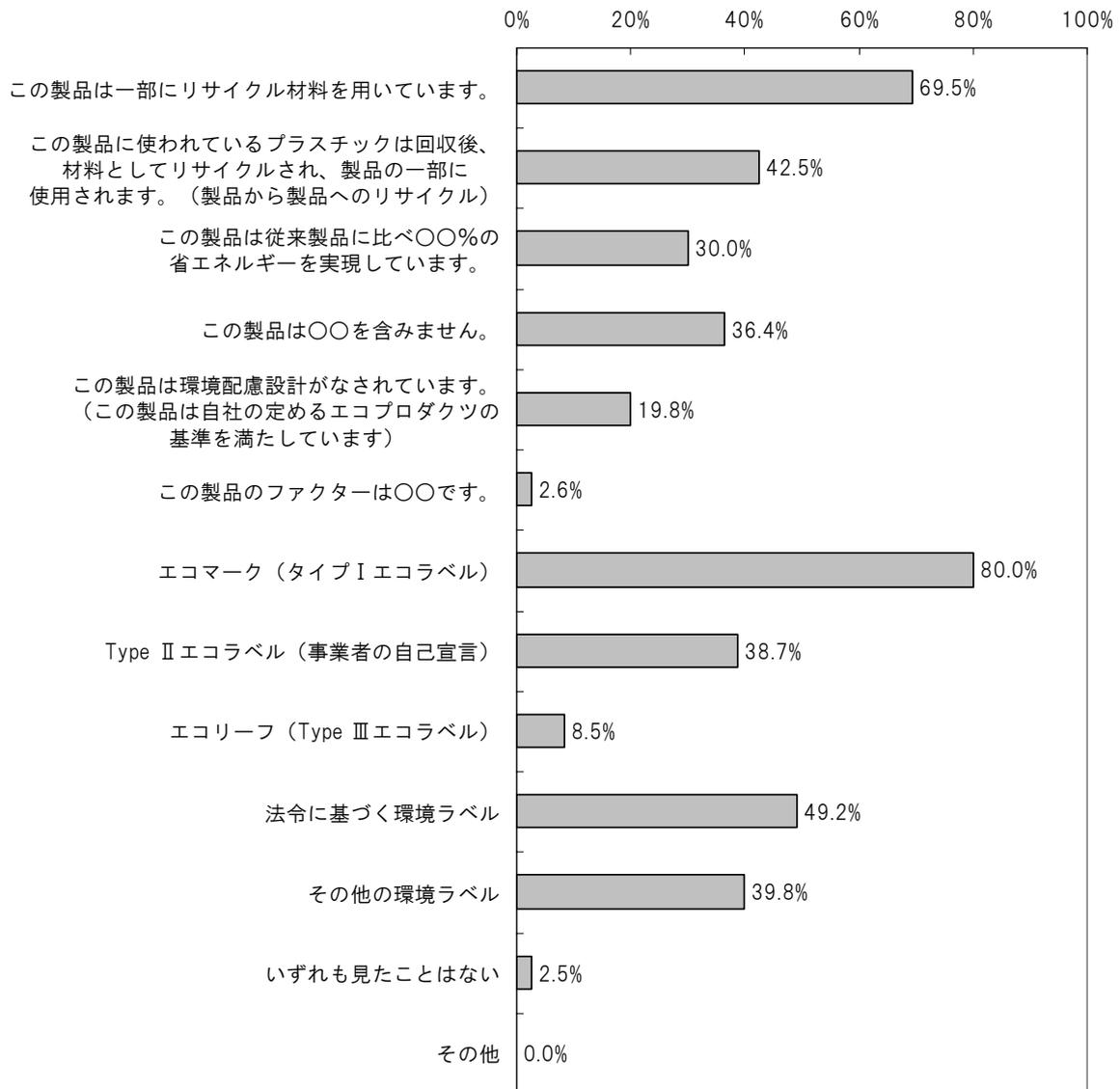
選択肢	回答数	選択率
この製品は一部にリサイクル材料を用いています。	895	69.5%
この製品に使われているプラスチックは回収後、材料としてリサイクルされ、製品の一部に使用されます。（製品から製品へのリサイクル）	548	42.5%
この製品は従来製品に比べ〇〇%の省エネルギーを実現しています。	386	30.0%
この製品は〇〇を含みません。 （注：〇〇には「鉛」「水銀」などが入ります。）	469	36.4%
この製品は環境配慮設計がなされています。 （この製品は自社の定めるエコプロダクツの基準を満たしています）	255	19.8%
この製品のファクターは〇〇です。	33	2.6%
エコマーク（タイプ I エコラベル）	1,031	80.0%
Type II エコラベル（事業者の自己宣言）	499	38.7%
エコリーフ（Type III エコラベル）	109	8.5%
法令に基づく環境ラベル	634	49.2%
その他の環境ラベル	512	39.8%
いずれも見なかった	32	2.5%
その他	0	0.0%

（回答者数 1,288、複数選択）

ラベルの選択が多い。エコマークは 80%の選択率であり、かなりマークとして普及していることが伺える。法令に基づくラベルなども目にしているという回答が多く、環境に関してのラベルへの意識があるということであろう。

リサイクル材料の使用についての選択も多い。文房具やコピー用紙、トイレットペーパーなど、身近なところでこういった表示を目にする機会は多いため、こうした製品での表示であると想定される。

ファクターについては 2.6%と、ほとんど目にした事がないという回答であるが、現状、ファクターが製品に表示されていることはほとんどないため、目にしたことがあるという回答は環境報告書やウェブページなどによるものと想定される。



(回答者数 1,288、複数選択)

図 1-9 : 環境配慮設計に関して目にしたことがある説明やラベル

1.4.3. 判断材料にしたことがある説明やラベル

実際に製品を購入する際に判断材料にしたことがある説明やラベルにはどのようなものがあるかを聞いた。表 1-9 に用意した選択肢とその選択の集計結果を示す。

表 1-9：判断材料にしたことがある説明やラベル

選択肢	回答数	選択率
この製品は一部にリサイクル材料を用いています。	415	32.2%
この製品に使われているプラスチックは回収後、材料としてリサイクルされ、製品の一部に使用されます。（製品から製品へのリサイクル）	246	19.1%
この製品は従来製品に比べ〇〇%の省エネルギーを実現しています。	215	16.7%
この製品は〇〇を含みません。 （注：〇〇には「鉛」「水銀」などが入ります。）	214	16.6%
この製品は環境配慮設計がなされています。 （この製品は自社の定めるエコプロダクツの基準を満たしています）	80	6.2%
この製品のファクターは〇〇です。	12	0.9%
エコマーク（タイプ I エコラベル）	610	47.4%
Type II エコラベル（事業者の自己宣言）	217	16.8%
エコリーフ（Type III エコラベル）	48	3.7%
法令に基づく環境ラベル	349	27.1%
その他の環境ラベル	205	15.9%
これらの表示を判断の目安にしたことはない	295	22.9%
その他	0	0.0%

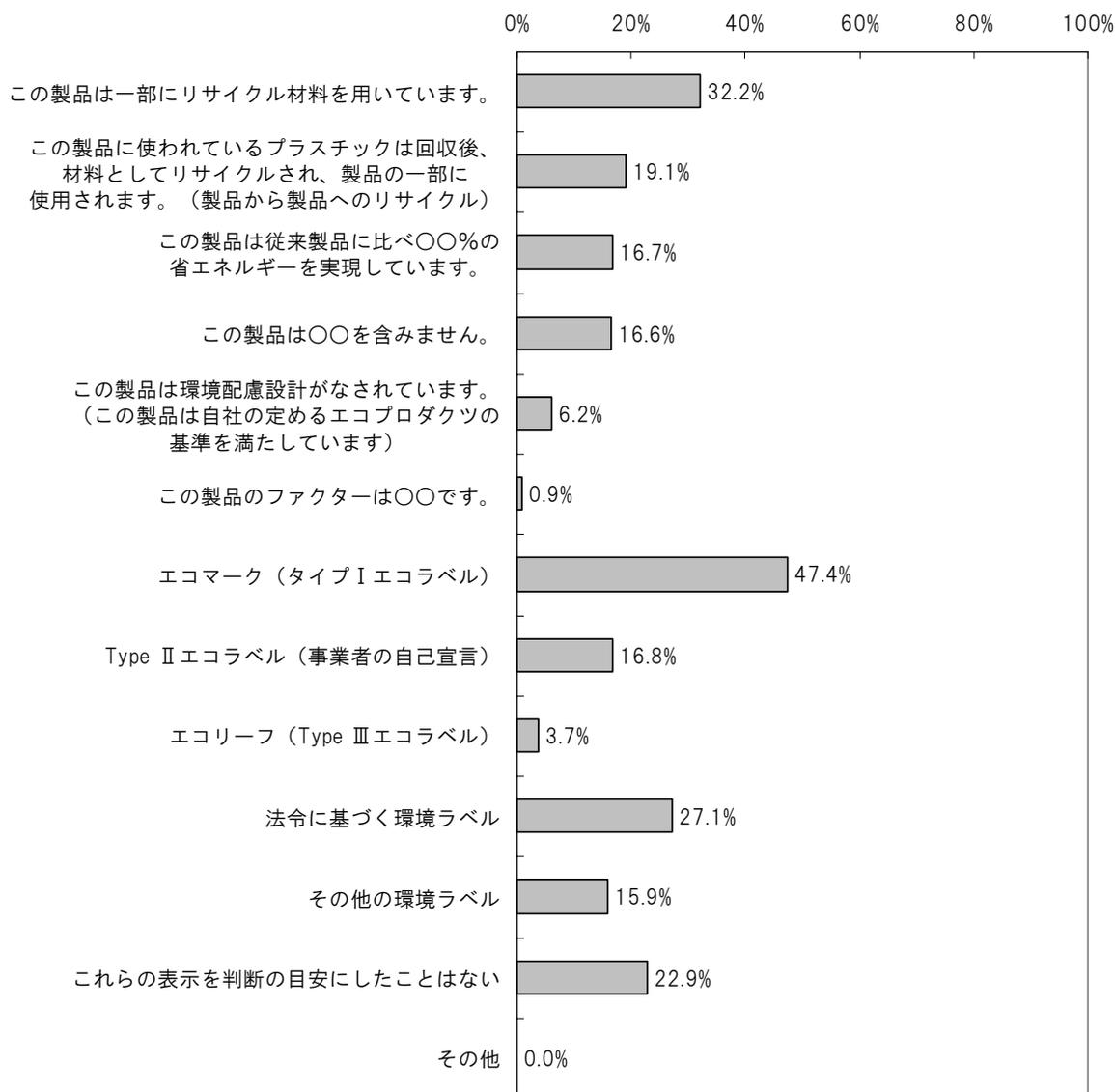
（回答者数 1,288、複数選択）

エコマークを判断材料にしたことがあるという回答が多い。エコマークがついている製品群（文房具や日用品）では、環境に配慮した製品（エコマーク認定商品）が身近になっているということだろう。

一般に、製品の属性によって購入時の判断基準は異なると考えられる。どのような場合でもいつも環境に配慮した製品を選択する消費者もいるが、一般的には、頻繁に購入するもの、一生に一回しか買わないもの、毎日使うもの、たまにしか使わないものでは判断基準に違いがあると思われる。環境負荷削減の効果から考えると、大量に流通する製品で環境配慮設計が進み、一般消費者の理解と協力が得られることが望ましい。状況に応じて適切な判断をするために必要な情報が提供されていることが必要である。

ファクターの選択 0.9%とが少ないが、ファクターをパッケージ等に表示している製品は現時点ではほとんどない。電気メーカーではファクター X の導入を進めているが、ファクターそのものを紹介するパンフレットはあるが、店頭で並べるカタログには記載されていない。

製品の一部にリサイクル材料を使用しているということを判断材料にしたという回答が 32.2%ある。使用後のリサイクルよりも、購入する製品にリサイクル材料が使用されているほうが環境に配慮しているというイメージにつながっているかもしれない。



（回答者数 1,288、複数選択）

図 1-10：判断材料にしたことがある説明やラベル

エコリーフに関する選択も少ないが（3.7%）、エコリーフの対象製品も限定されていることもまだ判断材料にしたことがない理由となるだろうが、エコリーフは判断のためのデータを開示するという場合、エコマークのようにマークが付いていると一定の基準をクリアしている（＝環境に配慮している）ということに直接結びつきにくい面もあるため、一般消費者にとっては敷居が高いものである可能性もある。

1.4.4. 判断材料になりそうなもの、表示があると良いと思うもの

環境配慮設計された製品の普及のためには、製造業者や第三者機関から製品の環境配慮設計に関する情報提供を行っていくうえで、消費者が求める形で消費者に伝わりやすい情報提供の方法をとることが望ましい。そこで現在行われているも表示や情報提供の方法を中心に、判断材料になりそうなものを選択してもらった。結果を表 1-10、図 1-11 に示す。

表 1-10：判断材料になりそうな表示

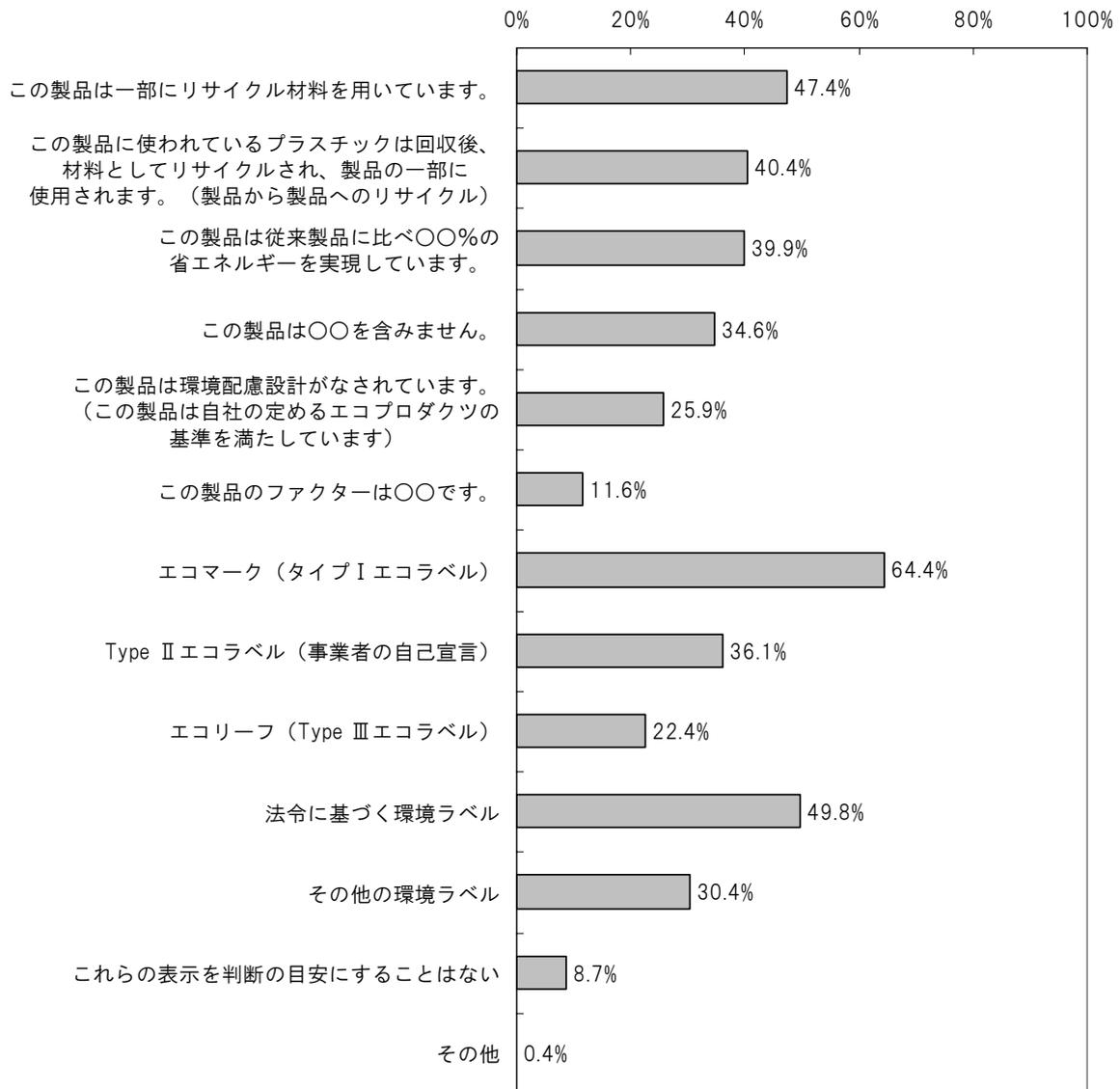
選択肢	回答数	選択率
この製品は一部にリサイクル材料を用いています。	610	47.4%
この製品に使われているプラスチックは回収後、材料としてリサイクルされ、製品の一部に使用されます。(製品から製品へのリサイクル)	520	40.4%
この製品は従来製品に比べ〇〇%の省エネルギーを実現しています。	514	39.9%
この製品は〇〇を含みません。 (注：〇〇には「鉛」「水銀」などが入ります。)	446	34.6%
この製品は環境配慮設計がなされています。 (この製品は自社の定めるエコプロダクツの基準を満たしています)	333	25.9%
この製品のファクターは〇〇です。	150	11.6%
エコマーク (タイプ I エコラベル)	830	64.4%
Type II エコラベル (事業者の自己宣言)	465	36.1%
エコリーフ (Type III エコラベル)	289	22.4%
法令に基づく環境ラベル	641	49.8%
その他の環境ラベル	391	30.4%
これらの表示を判断の目安にすることはしない	112	8.7%
その他	5	0.4%

(回答者数 1,288、複数選択)

判断材料として、エコマーク (タイプ I エコラベル) への期待が 64.4%と、高い割合で求められている。環境関連の情報を公開するタイプ III エコラベルのエコリーフの約 3 倍程度となっている。わかりやすい統合的な評価であることが消費者にとって利用しやすいのではないかと考えられる。

ファクターを見たことがない人が多かったが、選択肢の中では少ないが、11.6%の回答者が判断材料になりそうであると考えている。ファクターは総合的な評価指標であることが浸透していないかもしれないが、エコラベル等の表示によって消費者にとっての「わかりやすさ」とつながれば、一般に浸透する可能性はある。

エコマークのような認定が向いている製品と (環境配慮が進んでいる先進的な製品で、市場の上位 20%程度に入るものが認定対象とするように認定基準が検討される)、そうした認定が向かない製品もあると考えられるため、消費者の判断材料をどのように提供していくかについては課題が残る。



（回答者数 1,288、複数選択）

図 1-11：判断材料になりそうな表示

1.4.5. 環境配慮設計に関する情報提供のレベル

今後の環境配慮設計に関する情報提供についての検討材料とするため、一般消費者は環境配慮設計に関する情報提供が十分になされていると感じているかどうかを聞いた。結果を表 1-11、図 1-12 に示す。

問：環境配慮設計に関する情報が十分に提供されていると思うか

表 1-11：環境配慮設計に関する情報提供は十分か

	はい	いいえ	合計
回答数	264	1,024	1,288
選択率	20.5%	79.5%	100.0%

(回答者数 1,288)

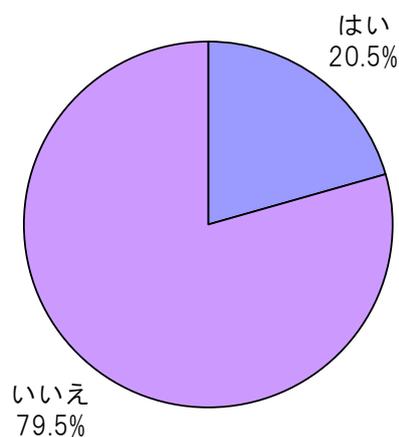


図 1-12：環境配慮設計に関する情報提供は十分か

「はい」という回答は 20.5%であり、この結果からは、情報提供は不十分であると考えている消費者が多いことがわかる。

1.4.6. 期待する情報提供の方法

情報提供について、別の設問では、マークや説明などの内容を聞いているが、ここでは、どのような媒体で情報提供がなされると効果的であるかを検討するため、情報提供の媒体として期待されるものを聞いた。

環境配慮設計に関する情報は、何からどのような形で提供されるとよいと思うかという設問に対し、選択肢と得られた結果を表 1-12、図 1-13 に示す。

表 1-12：期待する情報提供の方法

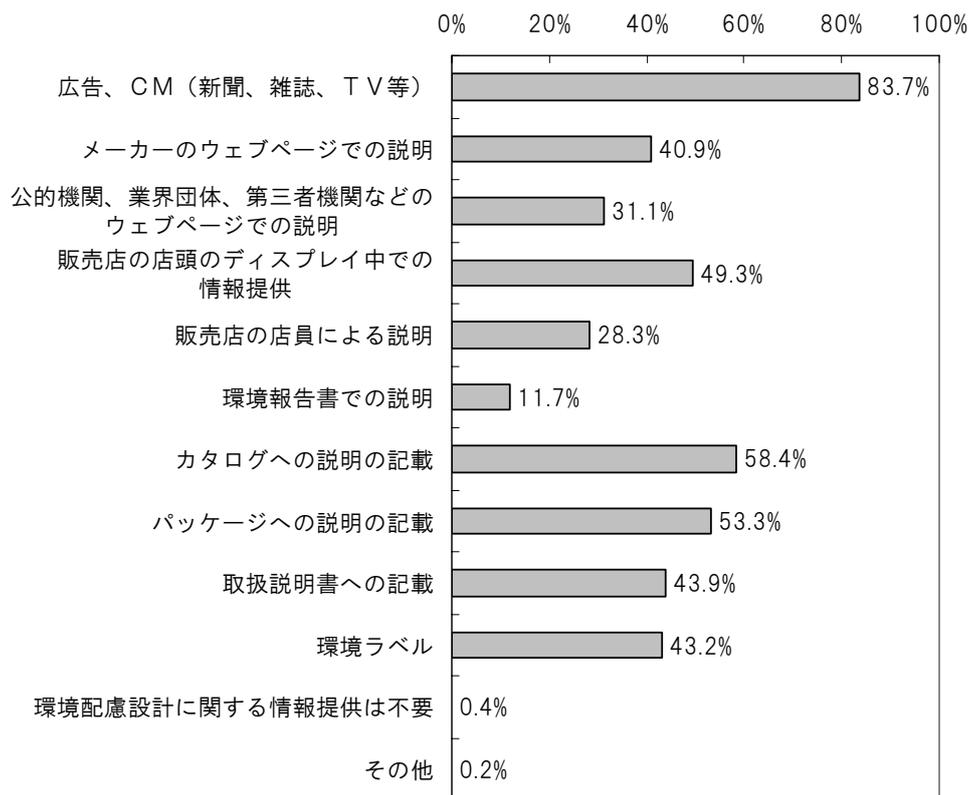
選択肢	回答数	選択率
広告、CM（新聞、雑誌、TV 等）	1,078	83.7%
メーカーのウェブページでの説明	527	40.9%
公的機関、業界団体、第三者機関などのウェブページでの説明	400	31.1%
販売店の店頭のディスプレイ中での情報提供	635	49.3%
販売店の店員による説明	365	28.3%
環境報告書での説明	151	11.7%
カタログへの説明の記載	752	58.4%
パッケージへの説明の記載	687	53.3%
取扱説明書への記載	566	43.9%
環境ラベル	556	43.2%
環境配慮設計に関する情報提供は不要	5	0.4%
その他	2	0.2%

(回答者数 1,288、複数選択)

一般消費者にとって身近な広告や CM での環境配慮設計に関する情報提供に期待が集まっているようである。広告、CM を効果的に利用していくことが重要であろう。

カタログ、パッケージ、取扱説明書による情報提供もメーカーのウェブページによる説明以上に期待が集まっている。本調査がウェブによるアンケートであることを考えると、一般の消費者よりもインターネットに接する機会の多い回答者でウェブページよりもこれらのニーズが高いことを考えると、インターネットに接する機会の少ない一般消費者にとってはより高いニーズがあるのではないかと考えられる。

販売店での情報提供にも一定のニーズがあるようである。ディスプレイ、販売店の店員による説明に加え、カタログ、パッケージも店頭で確認できるものである。環境配慮設計の一つの要望として省エネがあがっているが、省エネマークなどが販売店のディスプレイ等で表示されていることは商品選択の際に有効だろう。



(回答者数 1,288、複数選択)

図 1-13：期待する情報提供の方法

環境報告書は製品購入の際の情報提供の方法として期待されていないようである。メーカーによっては、サステナビリティレポートや環境報告書において環境に関する取り組みとして環境配慮設計について説明しているが、環境報告書は現時点では環境配慮設計に関する情報収集経路として、一般消費者には期待されていないようである

1.5. 法令によるラベルの認知状況

今回のアンケート調査の回答からもわかるが、エコラベルや法令に基づくマークの表示は、一般消費者にとって環境配慮設計に関する情報（もしくはその要素に関する情報）を伝達する方法としては効果的であることから、実際に用いられているマークについて、その浸透度を知るため、マークの認知状況を調べた。

法令に基づく環境ラベル（エコラベル）について、見たことがあるものを選択肢から選択してもらった。選択肢は以下の通りである。

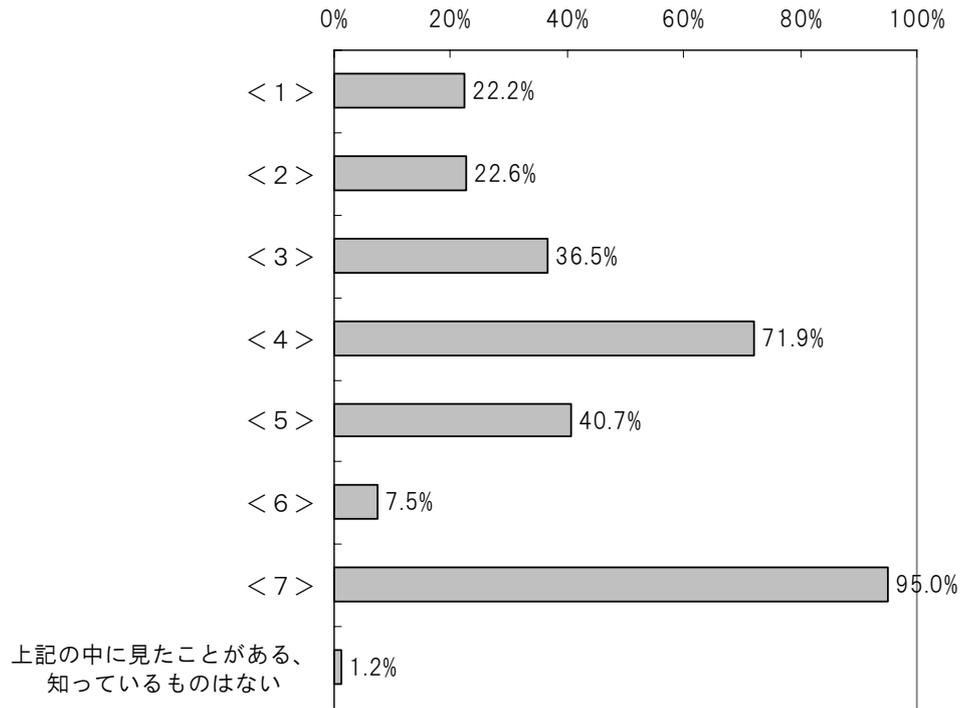


集計結果を表 1-13、図 1-1 4 に示す。

表 1-13：法令によるマークの認知度

選択肢	回答数	選択率
< 1 >	286	22.2%
< 2 >	291	22.6%
< 3 >	470	36.5%
< 4 >	926	71.9%
< 5 >	524	40.7%
< 6 >	97	7.5%
< 7 >	1,223	95.0%
上記の中に見たことがある、知っているものはない	16	1.2%

(回答者数 1,288、複数選択)



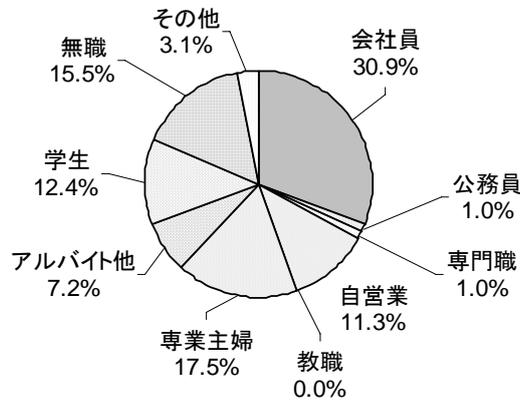
(回答者数 1,288、複数選択)

図 1-14 : 法令によるマークの認知度

マークを見たことがあるだけで、正しく認識されているかどうかはわからない。委員会では、選択肢<1>の省エネのマークを「エコマーク」と認識している可能性もあるのではないかという意見もあった。

<7>の材質表示はかなり浸透しているようである。

J-Moss のマークは 2006 年 7 月から始まったものである。もともと一般消費者向けではないが、見たことがあるという回答が 97 件（全体の 7.5%の回答者数）ある。見たことがあるとした回答者の職業を見てみると、図 1-15 のようになっている。



(N=97)

図 1-15 : J-Moss のマークを選択した回答者の属性

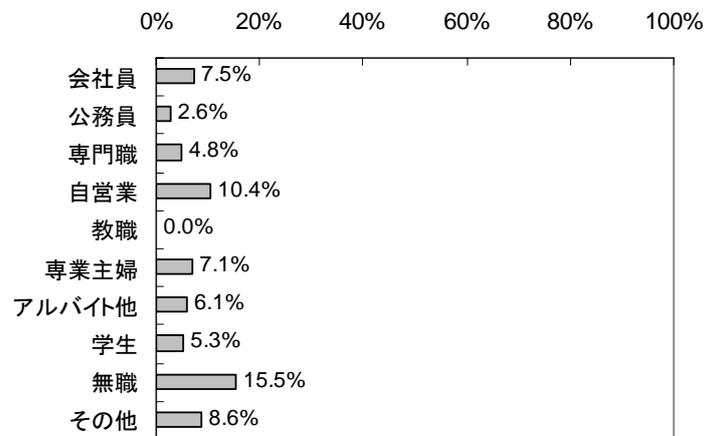


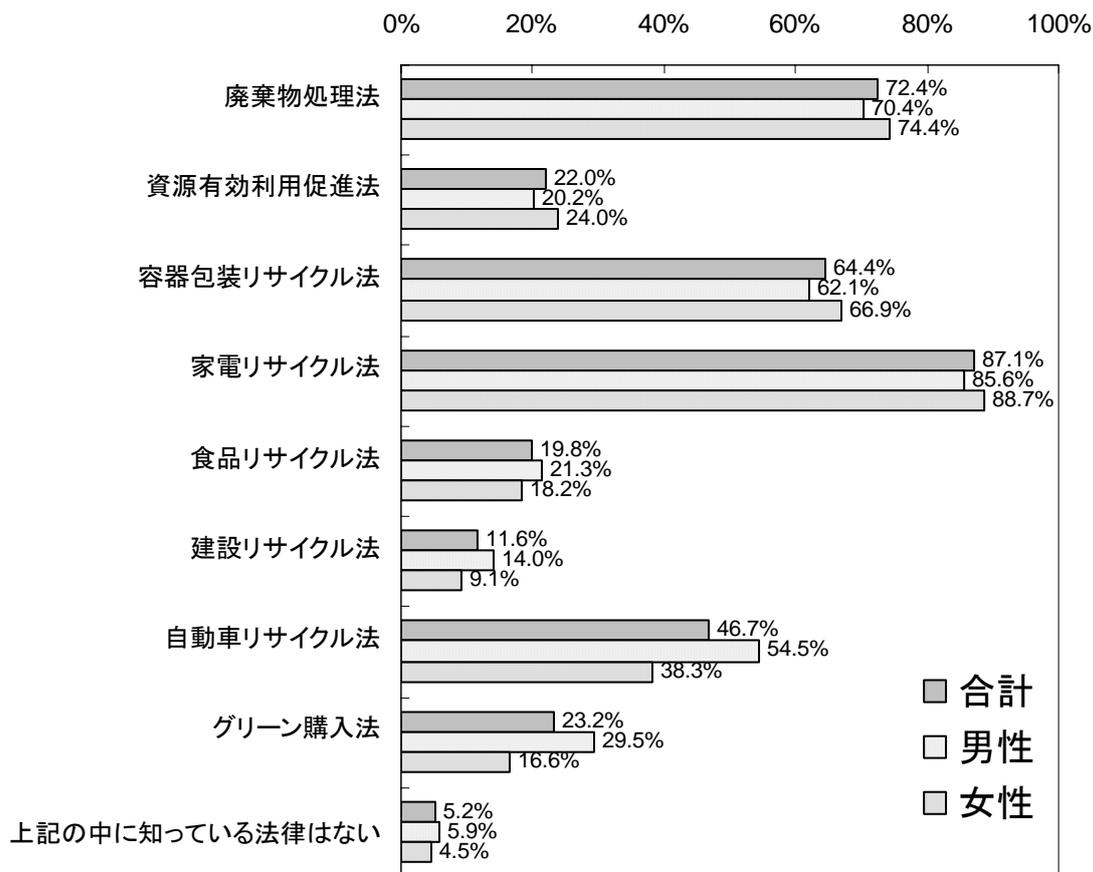
図 1-16 : J-Moss のマークを選択した回答者の職業別の認識率

この集計結果からは、特徴的な要因は読み取れないが、会社員で自分の業務に関連のある場合や、環境関連に興味があり、意識の高い回答者が認識しているのではないかと想定される。

1.6. 3 R 関連の法令の認知状況

1.6.1. 3 R 関連の法令全般

3 R 関連の法令について、一般消費者がどのような認識を持っているかを把握するため、3 R に関連する法律として、知っているものを選択してもらった。図 1-17 に選択肢と集計結果を示す。



(回答数 1,288、男性 662、女性 626、複数選択)

図 1-17 : 知っている 3 R 関連の法令

家電リサイクル法 (87.1%)、廃棄物処理法 (72.4%)、容器包装リサイクル法 (64.4%) についてはほぼ 3 分の 2 以上の回答者から知っているという回答が得られた。自動車リサイクル法は約半分であり、今後認知状況が高まっていくものと想定される。

資源有効利用促進法、グリーン購入法は知っているという回答は 4 人に 1 人程度である。これらの法律は、一般消費者が直接接する機会が少ないものと思われる。

建設リサイクル法、自動車リサイクル法、グリーン購入法では性別による違いが見られる。これらも法律に触れる機会の多寡によるものと想定される。

回答者の職業で認知に違いがあるかどうかを確認するため、それぞれの法律について、職種ごとにその認知状況を集計した結果を示す。職業ごとのそれぞれの数値は、その職業の回答者のうち、知っていると答えた回答者の割合を図 1-18 (1)、(2) に示す。

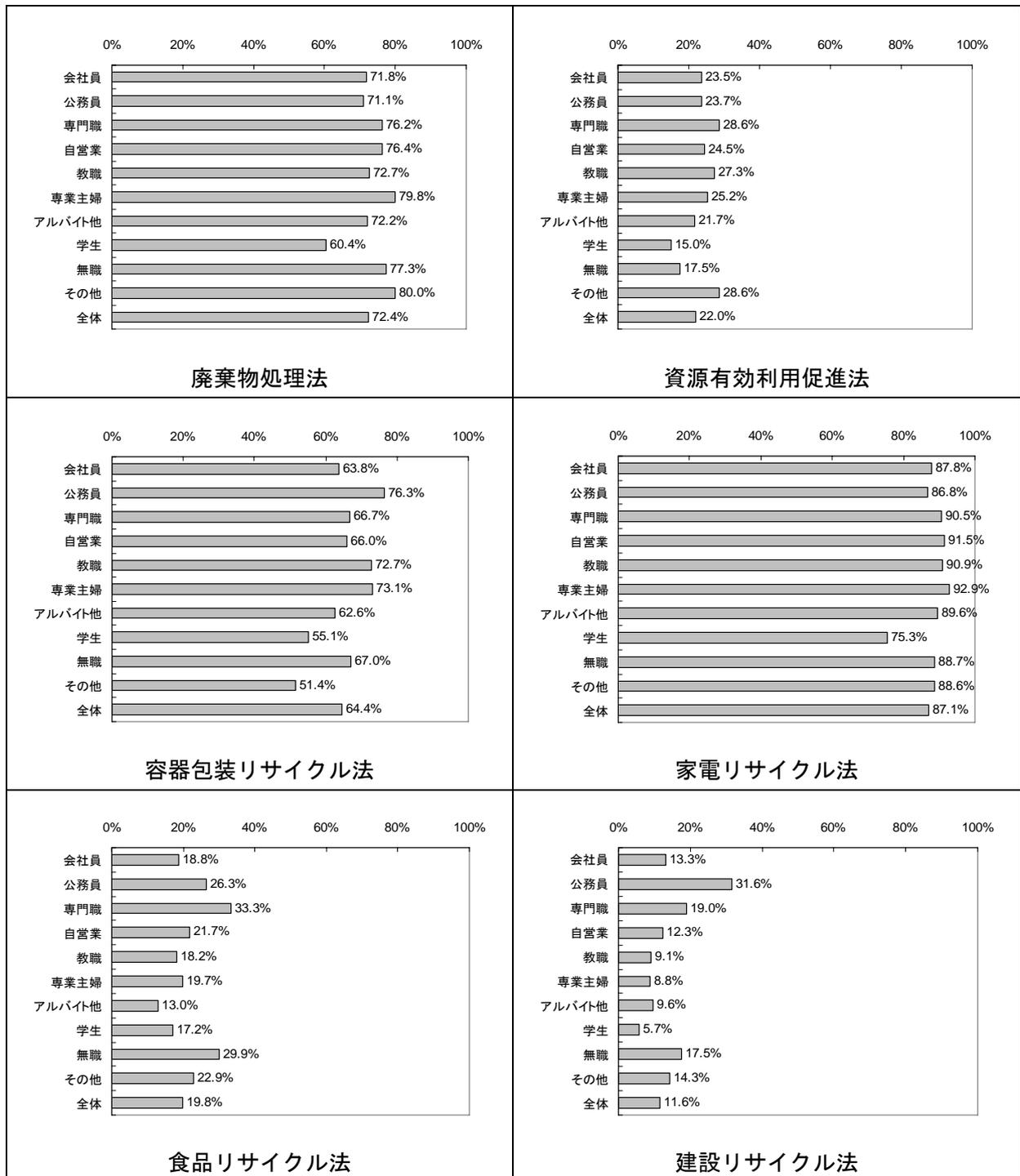


図 1-18 (1) : 法律の認知状況 (職業別)

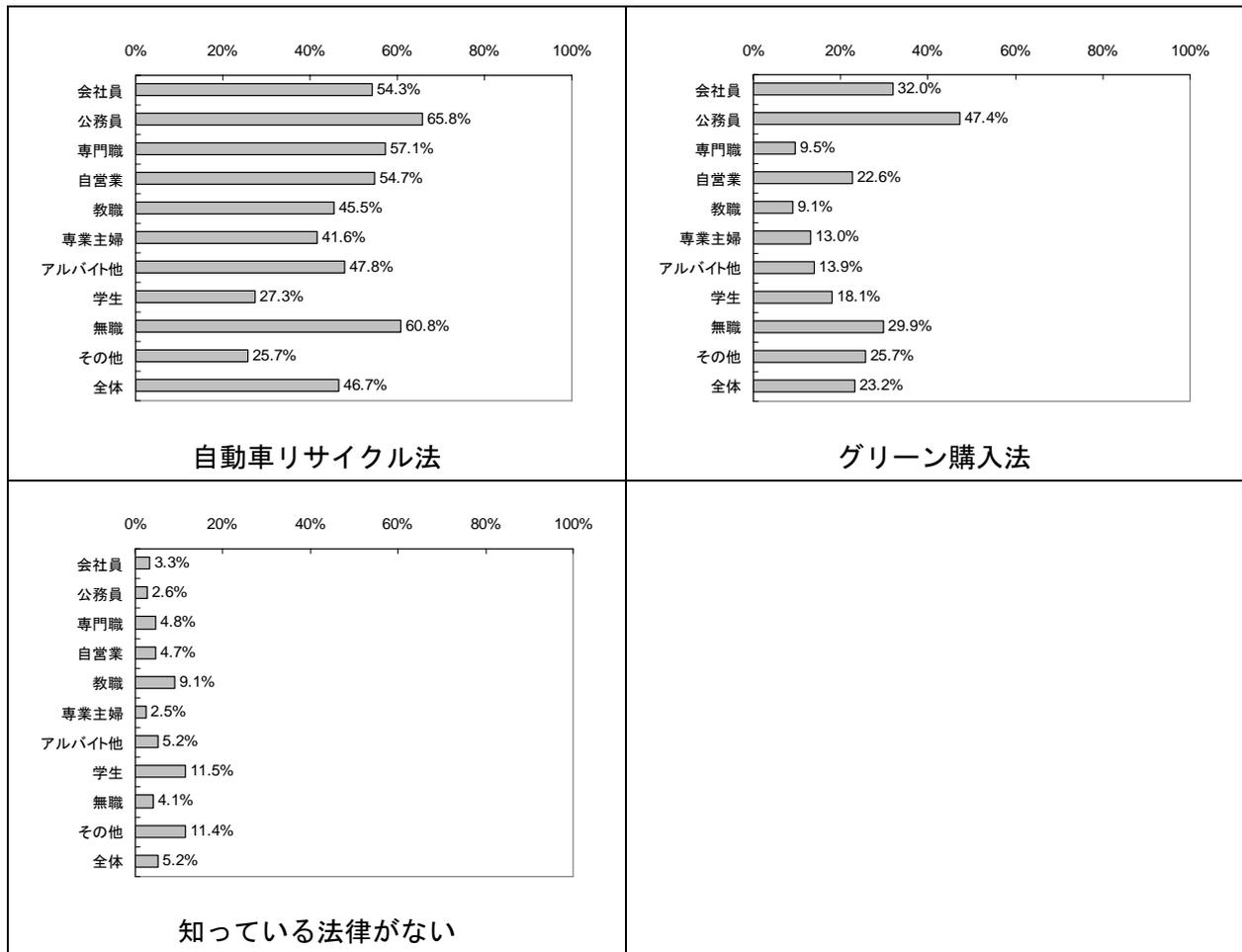


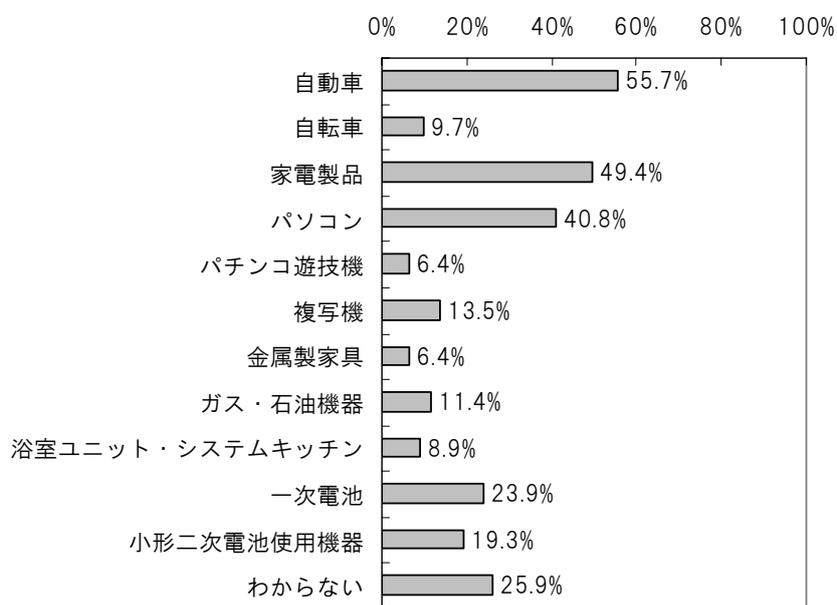
図 1-18 (2) : 法律の認知状況 (職業別)

建設リサイクル法、グリーン購入法で公務員の選択率が高い。これは自身の業務に関連があるためと考えられる。また、学生の選択率が他に比べて低いようである。普段の生活の中で法律に接する機会が少ないことが影響しているのではないかと想定される。これらを除き、それぞれの法律について、回答者の職業による違いはあまり見られないようである。

1.6.2. 資源有効利用促進法の省資源化製品の認知状況

資源有効利用促進法の指定省資源化製品として当てはまると思われるものを選択してもらった。集計結果を図 1-19 に示す。

なお、選択肢のうち省資源化製品として指定されているものは、自動車、パソコン（パーソナルコンピュータ）、家電製品（ユニット形エアコンディショナ、テレビ受像機、電子レンジ、衣類乾燥機、電気冷蔵庫、電気洗濯機）、パチンコ遊技機（ぱちんこ遊技機、回胴式遊技機）、金属製家具（収納家具、棚、事務用机、回転いす）、ガス・石油機器（石油ストーブ、ガスこんろ、ガス瞬間湯沸器、ガスバーナ付ふろがま、給湯器）である。

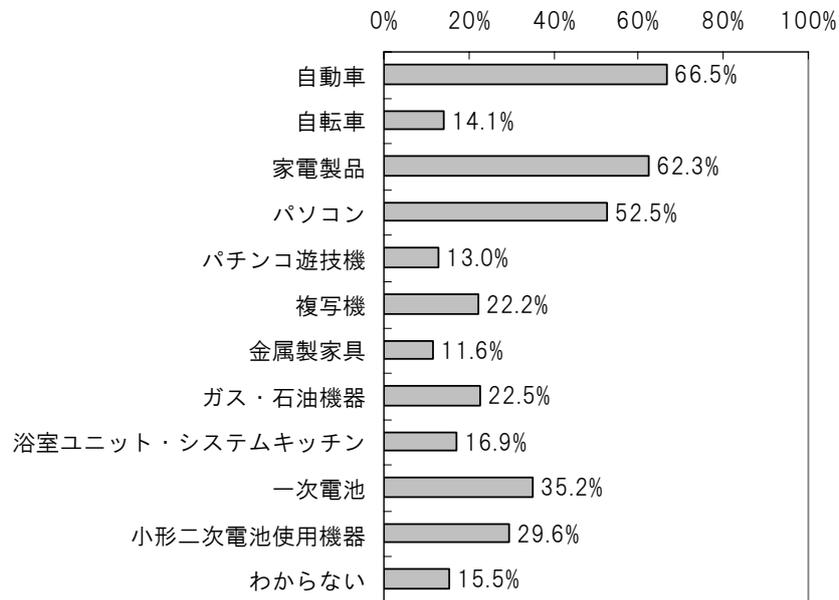


(回答数 1,288)

図 1-19：資源有効利用促進法の省資源化製品の認知状況

普段の生活で購入から使用済み製品の処理までを行う製品については、一次電池を除いて選択されているが、パチンコ遊技機や金属性家具などでの選択が低くなっている。

参考までに、資源有効利用促進法を知っていると答えた回答者（284 人）の本設問の選択状況を図 1-20 に示す。全体の集計よりは正しい選択がなされているようであるが、対象製品以外も選択されている。



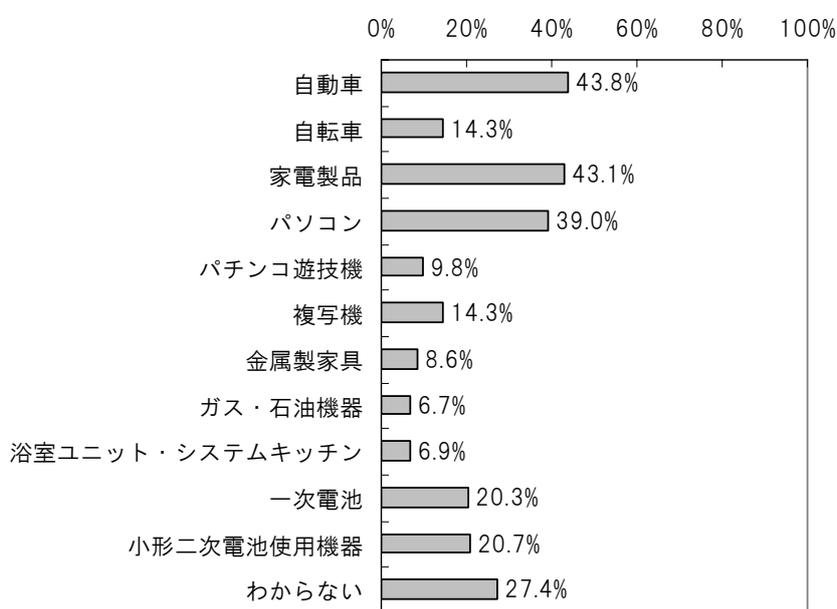
(回答者数 284 人、複数選択)

図 1-20 : 資源有効利用促進法の省資源化製品の認知状況
(資源有効利用促進法を知っていると回答した回答者の回答)

1.6.3. 資源有効利用促進法の再利用促進製品の認知状況

資源有効利用促進法の指定再利用促進製品として当てはまると思われるものを選択してもらった。集計結果を図 1-21 に示す。

なお、選択肢のうち再利用促進製品として指定されているものは、自動車、自転車（ただし、電動機を用いるものに限る）、パソコン（パーソナルコンピュータ）、家電製品（ユニット形エアコンディショナ、テレビ受像機、電子レンジ、衣類乾燥機、電気冷蔵庫、電気洗濯機）、パチンコ遊技機（ぱちんこ遊技機、回胴式遊技機）、複写機、金属製家具（収納家具、棚、事務用机、回転いす）、ガス・石油機器（石油ストーブ、ガスこんろ、ガス瞬間湯沸器、ガスバーナ付ふろがま、給湯器）、浴室ユニット・システムキッチン（浴室ユニット、システムキッチン）、小形二次電池使用機器である。



(回答者数 1,288、複数選択)

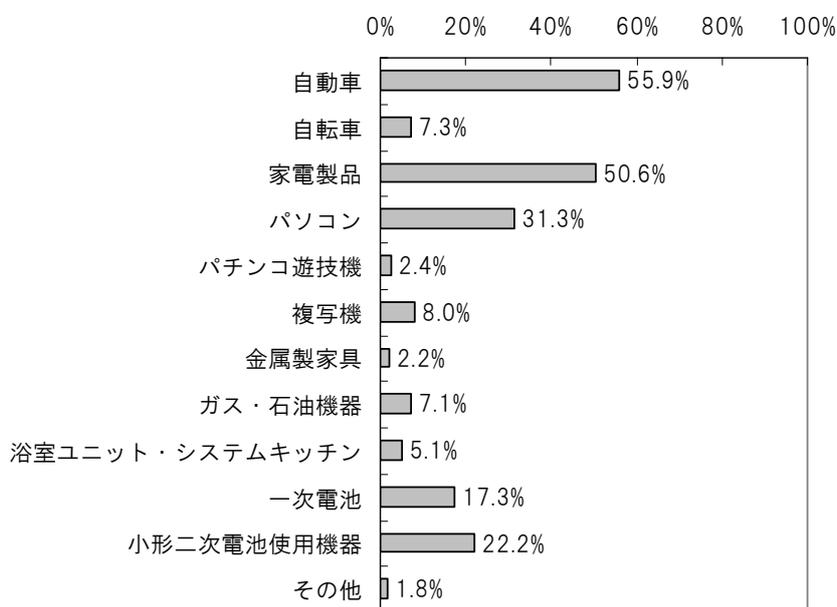
図 1-21 : 資源有効利用促進法の再利用促進製品の認知状況

資源有効利用促進法自体は、もともと消費者が直接触れる機会が多くないものであるため、法律自体の認知度は高くはないと考えられる。指定された製品が何かと言うところまで正確に把握している人は少ない。

一方で、小形二次電池などのマークなどを目にする機会が多いと思われるが、その表示が資源有効利用促進法に基づいて表示されているという関連付けはわからないかもしれない。

1.6.4. 省資源が進んでいると思われる製品

資源有効利用促進法の指定省資源化製品に関連して、省資源が進んでいると思われる製品を選択肢から選んでもらった。集計結果を図 1-22 に示す。



(回答者数 1,288、複数選択)

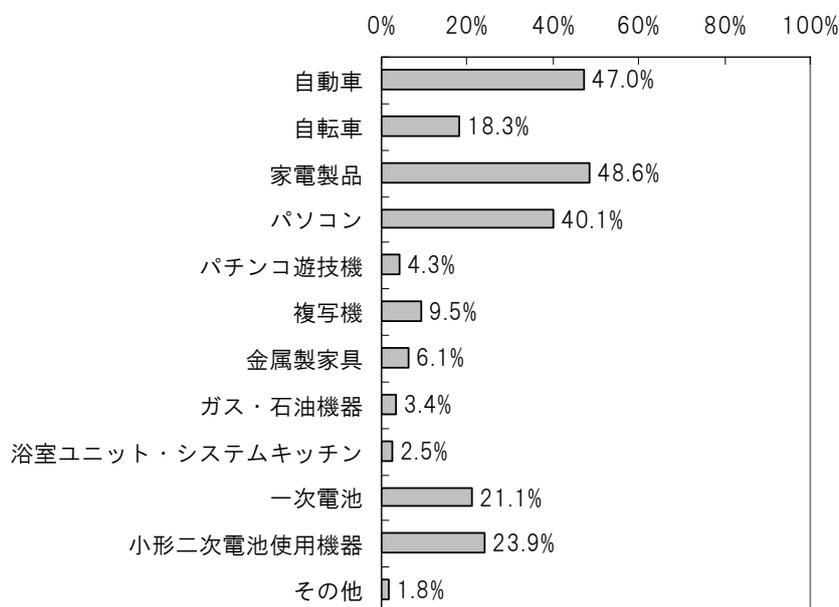
図 1-22 : 省資源が進んでいると思われる製品

自動車、家電製品はそれぞれにリサイクル法が整備されていることもあり、消費者には省資源も進んでいるというイメージがあると考えられる。家電製品、パソコンでは、小型化、軽量化などの取組みも進んでいるため、こうした取組みが消費者に伝わっていることも選択が多かった理由になっていると考えられる。

電池を選択している回答がやや多くなっているが、電池の高性能化が進んでいることが要因となっている可能性もある。一次電池は資源有効利用促進法の対象にはなっていないが、有害物質の排除、ボタン電池等の回収などの業界の取組みも影響しているとも考えられる。

1.6.5. リユース、リサイクルが進んでいると思われる製品

資源有効利用促進法の指定再利用促進製品に関連して、リユース、リサイクルが進んでいると思われる製品を選択肢から選んでもらった。集計結果を図 1-23 に示す。



(回答数 1,288)

図 1-23：リユース、リサイクルが進んでいると思われる製品

自動車、家電製品はそれぞれにリサイクル法が整備されていることもあり、消費者には省資源も進んでいるというイメージがあると考えられる。パソコンもリサイクルシステムができていて、中古市場もあるなどから、リユース・リサイクルが進んでいるイメージがあると考えられる。

一方で、オフィスで使用される複写機は実際にはリユース、リサイクルが高いレベルで進んでいるが、一般消費者のイメージでは選択率が低くなっている。一般消費者が複写機を購入することがないことで、複写機の環境配慮設計に関する情報に触れる機会が少ないことも影響していると考えられる。

電池を選択している回答がやや多くなっている。二次電池の回収の取組みなど、一般消費者の生活の中で関連する情報に触れやすいことが要因となっていることが考えられる。

1.7. まとめ

アンケートにより、一般消費者の環境配慮設計に関する意識を探った。環境配慮設計された製品を購入したいという意向はある。現状、価格や性能を優先するという回答者が多かったが、適切な情報提供を行うことで、環境配慮設計された製品が選択される可能性がある。

環境配慮設計への取組みが進んでいる製品に対しても、情報が伝わっていないため、従来のイメージのままのものがある。消費者はCMや広告のようなものからは情報を得やすいが、能動的にウェブページや環境報告書を見て企業の環境配慮設計への取組みを調べるわけではない。

環境配慮設計に関する情報として、消費者はCMや広告のような容易に入手できるようなものを望んでいるようだ。また、製品購入の検討の際には、製品の属性に関する詳細な情報よりエコラベルや法令に準拠するマークのようなものが判断材料に求められているようである。他の製品との比較が容易なものや、環境への配慮がしっかり行われているということがわかるものが求められていると考えられる。

2. 製造業者における環境配慮設計の状況

調査対象を組立製品に関連する製造業者として、環境配慮設計に関するアンケート調査を行った。このアンケート調査では

- 環境配慮設計のモチベーション
- 環境配慮設計のターゲット
- どのような情報提供を行っているか

を中心に設問を構成し、事業者の規模、製造している製品の分野、サプライチェーンの中での位置づけにより特徴があるかを調べた。

2.1. 調査の概要

2.1.1. 方法、期間

組立製品のサプライヤ、セットメーカーを中心に、工業会や業界団体の会員リストから 1,200 社にアンケート票を郵送した。調査期間は 2007 年 1 月 15 日（月）～2007 年 2 月 7 日（水）である。

2.1.2. 回答者のプロフィール

回答があった 216 社のうち、中小企業（資本金 3 億円以下、従業員数 300 名以下）は 60 社であった。業種ごとの回答者数は表 2-1 のとおりである。

表 2-1 : 回答者の業種

業種	サンプル数	業種	サンプル数
化学品	15	自動車部品	26
家具	6	情報通信機器	15
家電	5	精密機器	5
機械工具	4	電気機械器具	33
機械部品	5	電子部品・デバイス	13
金属製品	3	販売	3
金属素材	7	文房具・事務用品	11
建設機械	10	無機素材	5
工作機械	12	輸送用機械器具	4
工事	3	その他	14
産業機械	16	記入なし	1
自動車	8	合計	224

また、今回の調査では、設計に関する質問に回答を求めており、技術系の部署で回答しているか、環境や CSR 関連の部署で回答しているかで、回答の傾向に違いが出る可能性がある。今回の調査では回答者の所属部署の構成は図 2-1 のようになっている。

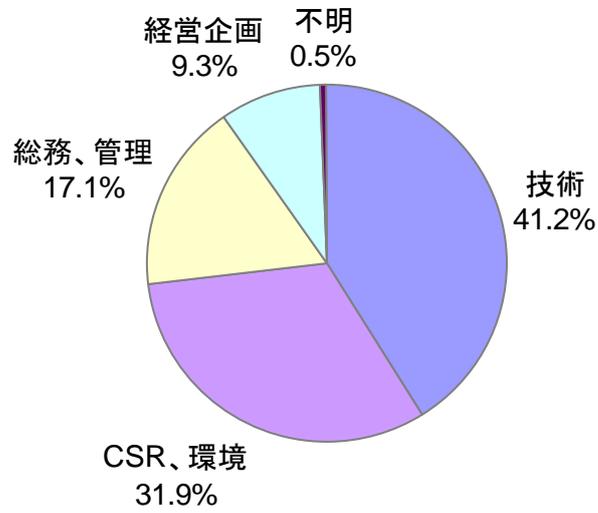
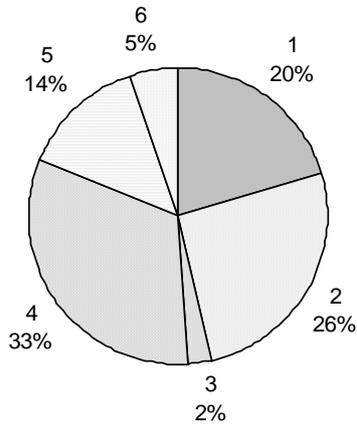
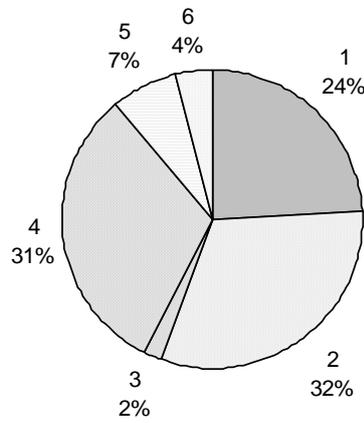


図 2-1 : 回答者の所属部署の構成



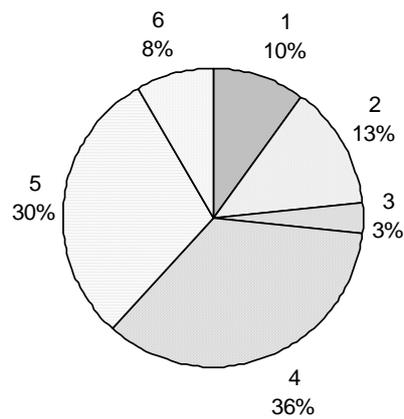
(N=63)

図 2-2 (1) : 目標の設定について (全体)



(N=153)

図 2-2 (2) : 目標の設定について (大企業)



(N=60)

図 2-2 (3) : 目標の設定について (中小企業)

(注 : ラベルの数字は選択肢の番号である。)

- 中小企業に比べ、大企業のほうが全社の環境目標から製品の開発目標を決めているという企業の割合が多い（選択肢 1、2）。
- 中小企業では選択肢 5 を選択している企業の割合が多い。
- 個別の製品の開発目標を積み上げて全社の環境目標を決めるというところは大企業でも中小企業でもほとんどない（選択肢 4）。
- 製品の目標を積み上げて全社的な目標とするところは、全体の 2% と少ない。

全社の環境目標からすべての製品の環境目標までにブレークダウンしているところは、大企業でもまだ少数派となっている。各製品の環境性能からボトムアップで全社の目標を設定するところは、単なる足し合わせになってしまうのであまり実施されていない。また中小企業では、大企業のセットメーカーへ納入しているサプライヤが多く、機能、性能だけでなく、環境特性も仕様の中に定められ、個別製品の環境目標が先に定まることも多いと考えられる。

大企業では個別製品の環境目標が全社目標からブレークダウンされることが多く、中小企業では、全社目標とは別に個別製品の環境目標が決まることが（大企業に比べて）多いようである。

■ 業種ごとの集計

目標設定について、業種ごとの特徴を把握するため、業種ごとに集計した。集計結果を表 2-3、図 2-3 に示す。

表 2-3：目標の設定について（業種ごとの集計）

	選択肢						サンプル数
	1	2	3	4	5	99	
化学品	13.3%	20.0%	0.0%	26.7%	33.3%	6.7%	15
家具	16.7%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	6
家電	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	5
機械工具	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	4
機械部品	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	4
金属製品	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	3
建設機械	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10
工作機械	0.0%	25.0%	0.0%	33.3%	41.7%	0.0%	12
産業機械	0.0%	14.3%	7.1%	35.7%	28.6%	14.3%	14
自動車	62.5%	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	0.0%	8
自動車部品	12.0%	20.0%	0.0%	52.0%	8.0%	8.0%	25
情報通信機器	60.0%	26.7%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	15
精密機器	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	3
電気機械器具	10.7%	46.4%	0.0%	32.1%	7.1%	3.6%	28
電子部品・デバイス	35.7%	7.1%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	14
文房具・事務用品	10.0%	20.0%	10.0%	30.0%	30.0%	0.0%	10
無機素材	20.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	5
輸送用機械器具	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4

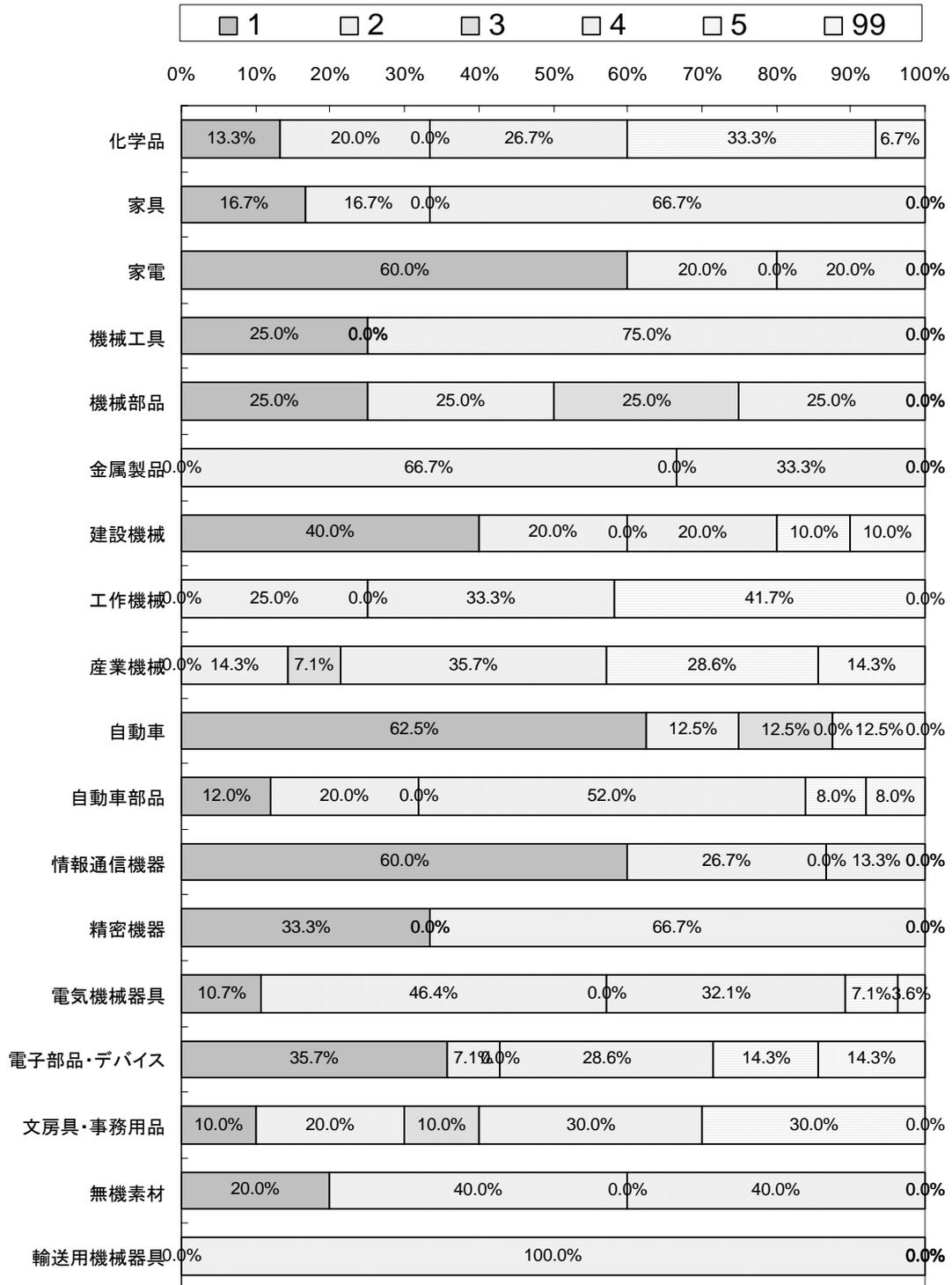
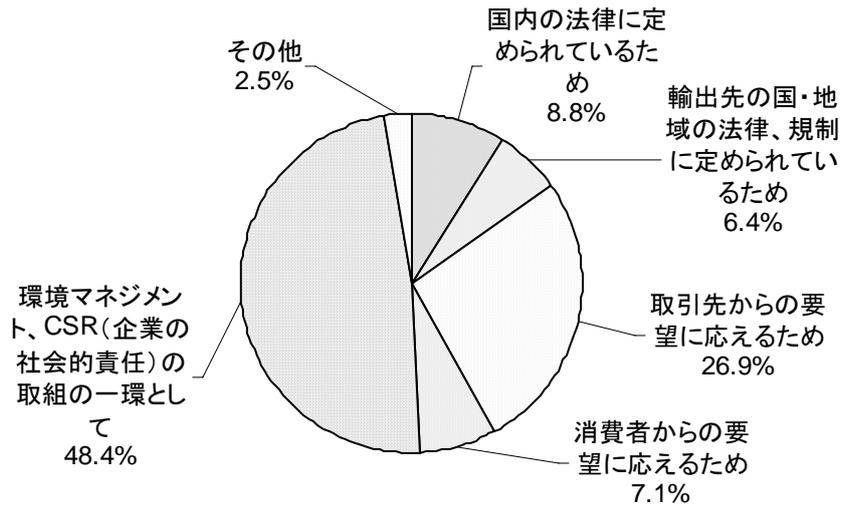


図 2-3：目標の設定について（業種ごとの集計）

家電、自動車、情報通信機器で選択肢 1 の選択が多いなど、業種により目標設定に違いがある。



(回答サンプル数 286)

図 2-4 : 環境配慮設計を進める動機 (全体の集計)

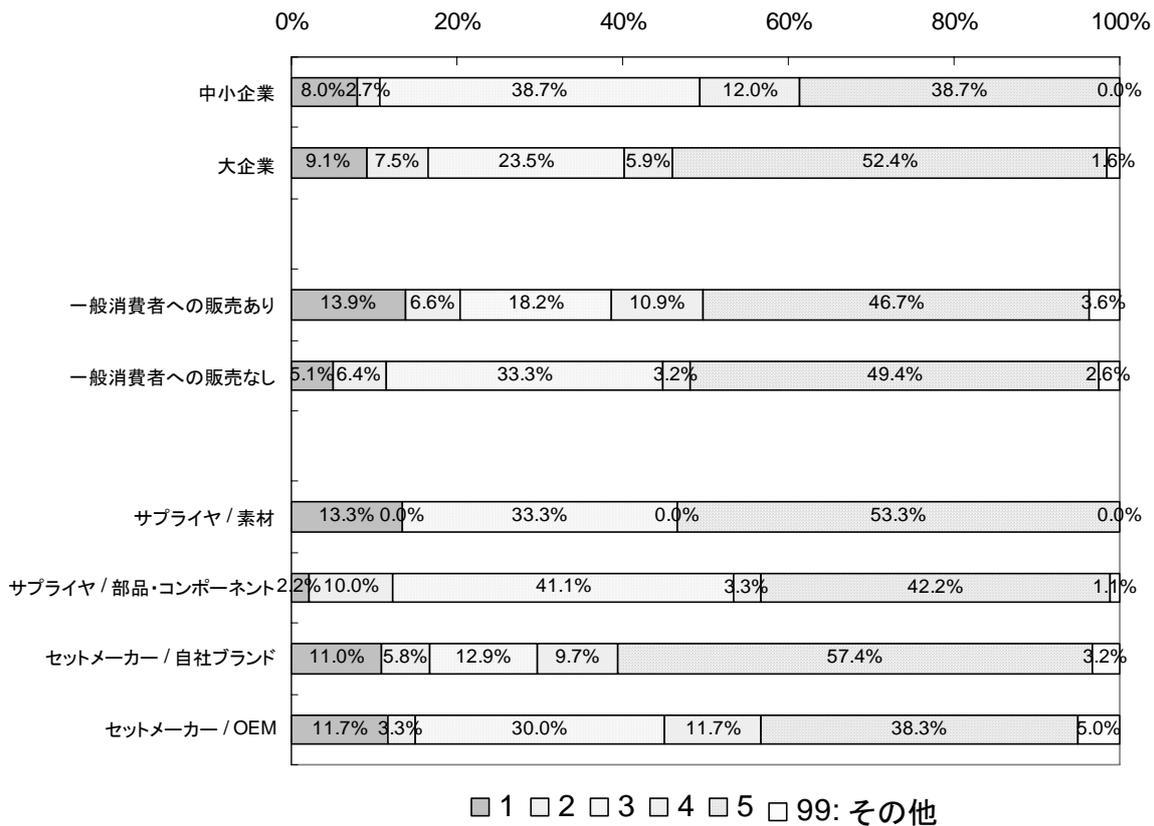


図 2-5 : 環境配慮設計を進める動機 (属性ごとの集計)

結果を見ると、「5. 環境マネジメント、CSR（企業の社会的責任）の取組の一環として」という回答が多い。特に大企業で中小企業に比べて選択肢5を選択している企業が多い。

選択肢2の海外の規制への対応については、グローバル化が進んでいるとはいえ、日本国内の中小企業やサプライヤ（素材）が直接海外のメーカーに輸出する機会が少ないと考えられるため、海外の規制への対応が直接の動機にはなっていないなどの理由が考えられる。

サプライヤでは、選択肢3の取引先からの要望という回答の割合が大きい。サプライヤにおいてはセットメーカーからの要望に応えるためということが主な要因になっているようである。

セットメーカー、サプライヤともに、消費者からの要望（選択肢4）のみを主な理由としての選択の割合は小さい。環境配慮設計の推進は、消費者からの要望を企業としての社会的責任や全体的なマネジメントの中に含み、その一環で行っているということではないかと考えられる。（選択肢5を選択している企業は、その取り組みの中に1~4も含んでいると考えられる。）

■ 業種による集計

業種によって違いがあるか。電気・電子機器、自動車関連で EU の RoHS 指令や ELV 指令の影響が見られるかを確認するため、業種ごとの集計を行った。ここでは図 2-6 に電気・電子関連の業種、自動車関連の業種を示す。

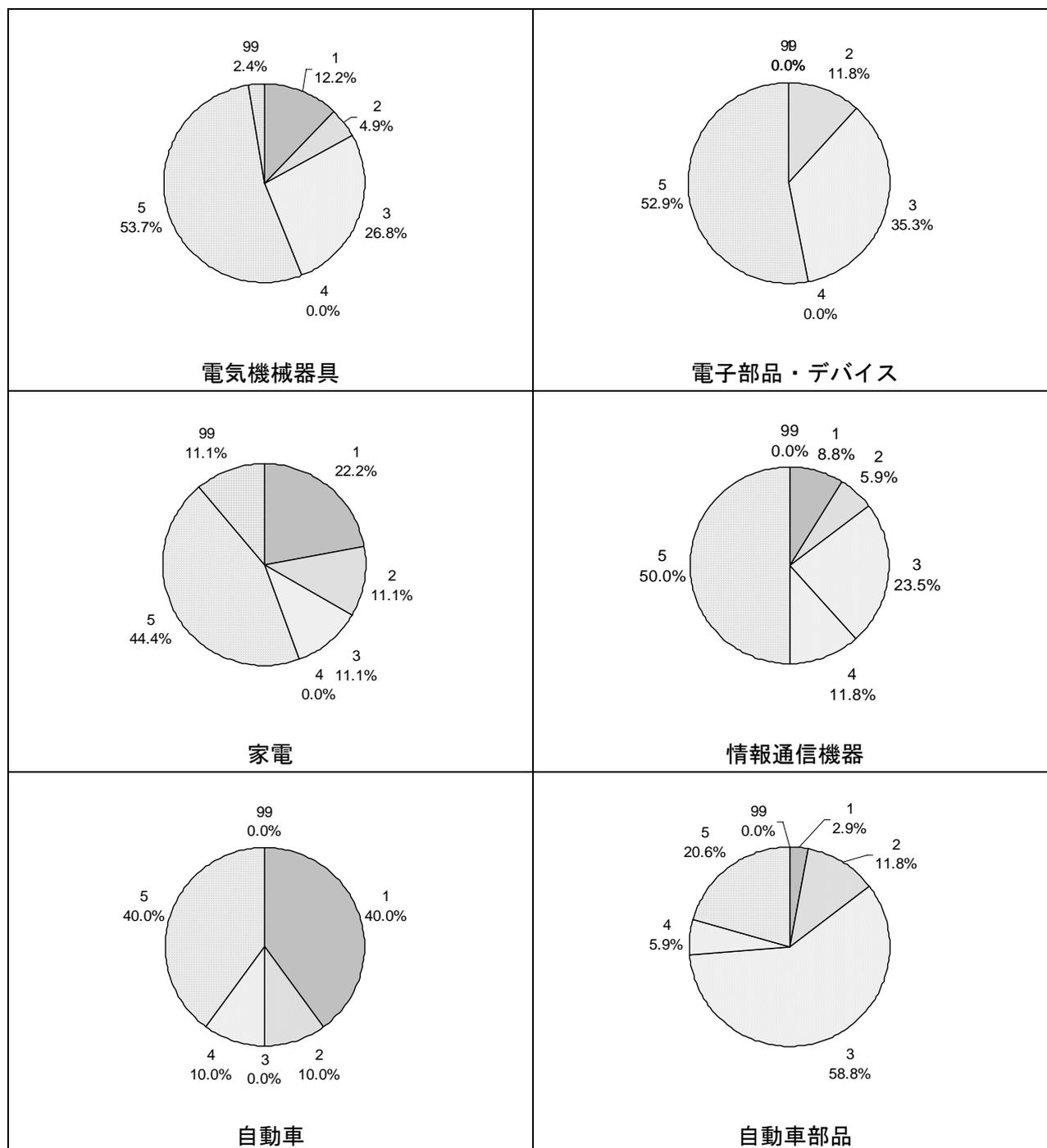


図 2-6：環境配慮設計を進める動機（業種による集計）

電気・電子機器、自動車とも、セットメーカーでの法令への配慮の割合が高いことがわかる。法令順守のための制約は、セットメーカーからサプライヤへ、要求仕様として伝達されると考えられる。

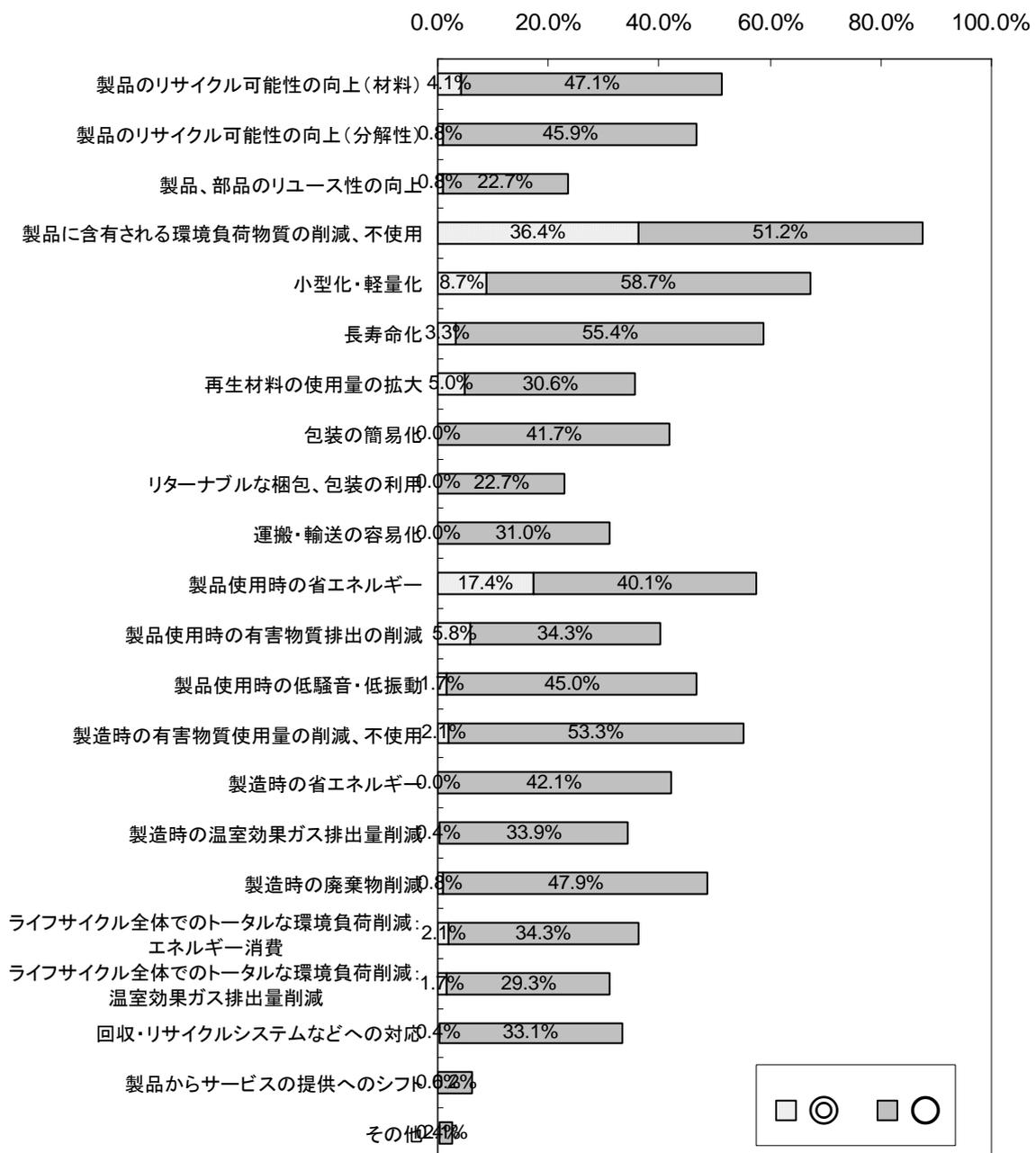
集計結果を表 2-5、図 2-7 に示す。

表 2-5：環境配慮設計のターゲットとなる項目（全体）

選択肢	選択数		選択率	
	◎	○	◎	○
製品のリサイクル可能性の向上（材料）	10	114	4.1%	47.1%
製品のリサイクル可能性の向上（分解性）	2	111	0.8%	45.9%
製品、部品のリユース性の向上	2	55	0.8%	22.7%
製品に含有される環境負荷物質の削減、不使用	88	124	36.4%	51.2%
小型化・軽量化	21	142	8.7%	58.7%
長寿命化	8	134	3.3%	55.4%
再生材料の使用量の拡大	12	74	5.0%	30.6%
包装の簡易化	0	101	0.0%	41.7%
リターナブルな梱包、包装の利用	0	55	0.0%	22.7%
運搬・輸送の容易化	0	75	0.0%	31.0%
製品使用時の省エネルギー	42	97	17.4%	40.1%
製品使用時の有害物質排出の削減	14	83	5.8%	34.3%
製品使用時の低騒音・低振動	4	109	1.7%	45.0%
製造時の有害物質使用量の削減、不使用	5	129	2.1%	53.3%
製造時の省エネルギー	0	102	0.0%	42.1%
製造時の温室効果ガス排出量削減	1	82	0.4%	33.9%
製造時の廃棄物削減	2	116	0.8%	47.9%
ライフサイクル全体でのトータルな環境負荷削減： エネルギー消費	5	83	2.1%	34.3%
ライフサイクル全体でのトータルな環境負荷削減： 温室効果ガス排出量削減	4	71	1.7%	29.3%
回収・リサイクルシステムなどへの対応	1	80	0.4%	33.1%
製品からサービスの提供へのシフト	0	15	0.0%	6.2%
その他	1	5	0.4%	2.1%

製品含有の環境負荷物質に関するターゲットの選択が最も多い。特に配慮されている項目としては、製品含有の環境負荷物質の削減、不使用と製品使用時の省エネルギーの項目が目立っている。

ライフサイクル全体を考慮した評価項目の選択は他の項目と同等のレベルである。「製品からサービスの提供へのシフト」に関しては、ほとんど選択されていない。製造業で個別の製品レベルでのアンケートであり、業態のシフトまでは検討対象としては枠を外れていると考えられる。



(回答数: 242、複数選択)

図 2-7：環境配慮設計のターゲットとなる項目（全体、選択率）

■ サプライチェーンにおける位置づけによる集計

サプライチェーンの区分（サプライヤ、セットメーカー）ごとに、その属性を持つ事業者のうち、ターゲットとなる項目を選択している事業者の割合を図 2-8 に示す。

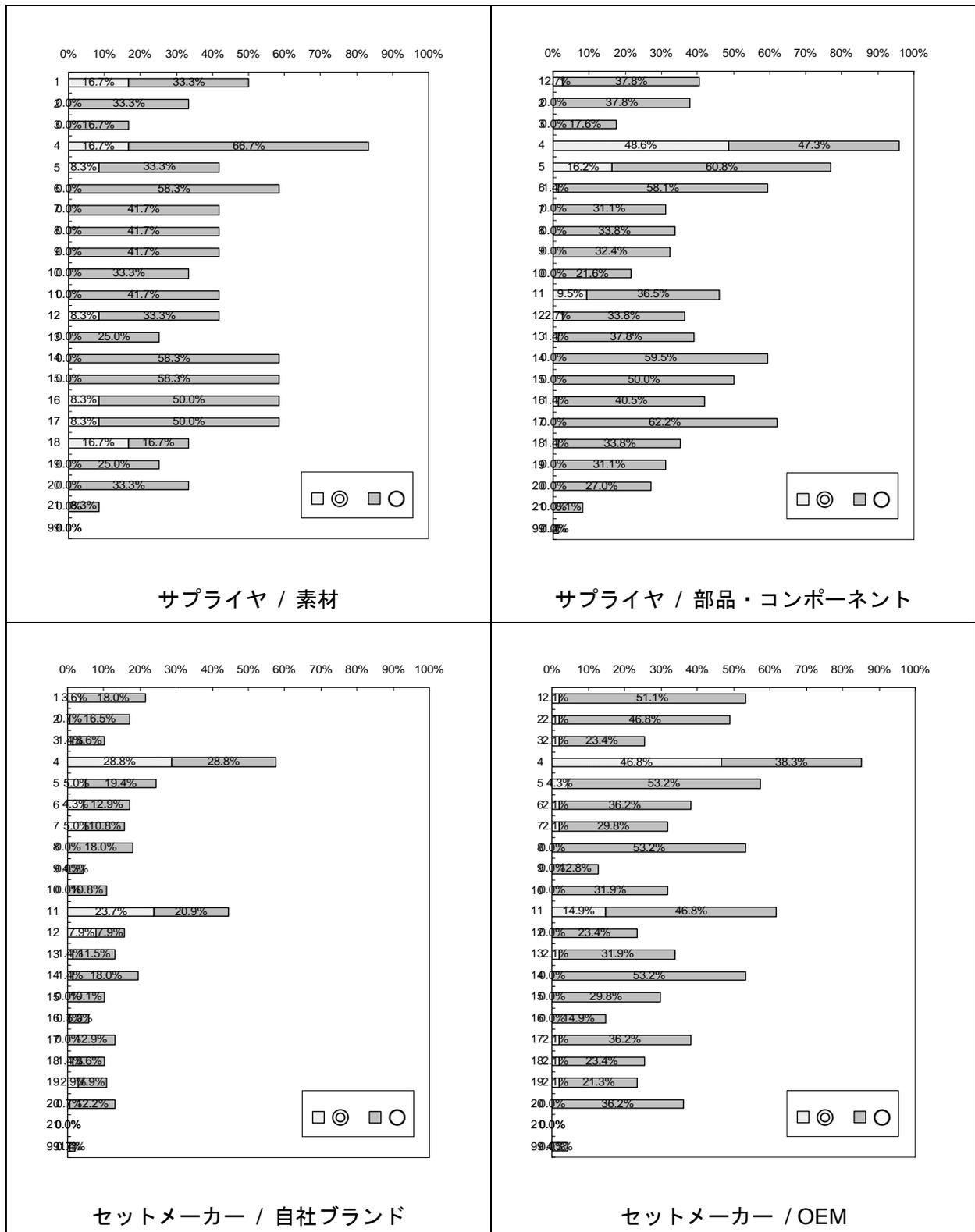


図 2-8：環境配慮設計のターゲットとなる項目（サプライチェーンによる集計）

- 製品含有の環境負荷物質削減、不使用については、セットメーカー、サプライヤの区分を問わずに選択されている。
- セットメーカー（特に自社ブランド）では省エネルギーの項目の選択率が高くなっている。これは消費者からの要望にも近いところにあり、アピールにつながるためと考えられる。
- サプライヤは製造工程のフェーズに対する選択が多いようである。
- サプライヤと「セットメーカー / OEM」は選択する項目の傾向が近いが、サプライヤと「セットメーカー / 自社ブランド」では、選択する項目の傾向に違いが見られる。

■ フェーズに分けた集計（サプライチェーン）

ターゲットをおくフェーズごとに、そのフェーズの項目の少なくとも一つをターゲットとして選択している事業社の割合をサプライチェーンの位置づけごとに集計した結果を表 2-6、図 2-9 に示す。

表 2-6：ターゲットとするフェーズ（サプライチェーンの位置づけによる集計）

	使用済み	製品自体の属性	包装・運搬	使用時	製造時	ライフサイクル全体	リサイクルシステム
サプライヤ / 素材	75.0%	87.5%	37.5%	37.5%	62.5%	25.0%	25.0%
サプライヤ / 部品・コンポーネント	51.9%	98.8%	50.6%	69.1%	71.6%	38.3%	27.2%
セットメーカー / 自社ブランド	76.0%	95.8%	62.0%	85.4%	67.7%	53.6%	42.2%
セットメーカー / OEM	83.7%	98.0%	80.6%	88.8%	78.6%	33.7%	62.2%

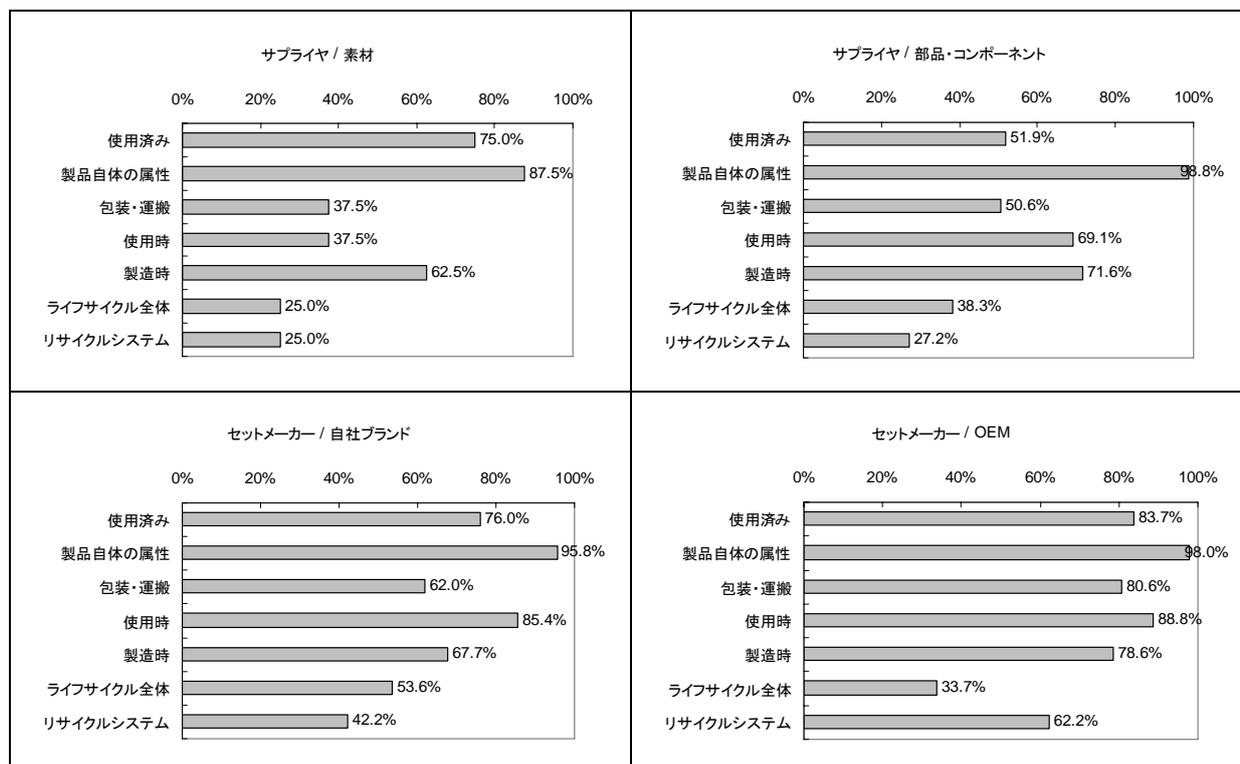


図 2-9：ターゲットとするフェーズ（サプライチェーンの位置づけによる集計）

- サプライヤはライフサイクルやリサイクルシステムにはあまり配慮していない。
- セットメーカー / 自社ブランドが他の区分より大きな割合でライフサイクル全体を考慮している。
- セットメーカー / OEM がセットメーカー / 自社ブランドよりもリサイクルシステムなどへの対応を選択している割合が大きい。
- 包装・運搬についての配慮が最もなされているのは「セットメーカー / OEM」であった。

■ フェーズに分けた集計（業種）

ターゲットをおくフェーズごとに、そのフェーズの項目の少なくとも一つをターゲットとして選択している事業者の割合を、業種ごとに集計した結果を表 2-7 に示す。いくつかの業種については、図 2-10 に選択率のグラフを示す。

表 2-7：ターゲットとするフェーズ（業種による集計）

	使用済み	製品自体の属性	包装・運搬	使用時	製造時	ライフサイクル全体
化学品	66.7%	94.4%	44.4%	61.1%	72.2%	27.8%
家具	66.7%	100.0%	66.7%	66.7%	66.7%	16.7%
家電	87.5%	87.5%	75.0%	100.0%	50.0%	87.5%
機械工具	100.0%	100.0%	100.0%	80.0%	100.0%	20.0%
機械部品	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	75.0%	75.0%
金属製品	0.0%	100.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%
金属素材	57.1%	100.0%	42.9%	57.1%	100.0%	71.4%
建設機械	70.0%	90.0%	10.0%	90.0%	50.0%	60.0%
工作機械	33.3%	91.7%	41.7%	100.0%	50.0%	25.0%
産業機械	53.3%	100.0%	60.0%	93.3%	33.3%	26.7%
自動車	100.0%	100.0%	62.5%	100.0%	62.5%	75.0%
自動車部品	53.8%	92.3%	26.9%	53.8%	65.4%	23.1%
情報通信機器	88.9%	100.0%	85.2%	100.0%	81.5%	51.9%
精密機器	60.0%	100.0%	60.0%	80.0%	60.0%	40.0%
電気機械器具	64.9%	97.3%	62.2%	75.7%	73.0%	43.2%
電子部品・デバイス	23.1%	100.0%	53.8%	69.2%	92.3%	46.2%
文房具・事務用品	53.8%	92.3%	23.1%	23.1%	69.2%	15.4%
無機素材	60.0%	80.0%	80.0%	80.0%	100.0%	40.0%
輸送用機械器具	75.0%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- 結果を見ると、家電、自動車、情報通信機器のようなセットメーカーでは使用時の項目の選択率が高く、サプライヤでは全体や使用済みの段階への配慮が少なくなっている。
- 情報通信機器ではライフサイクル全体の選択は少ない。

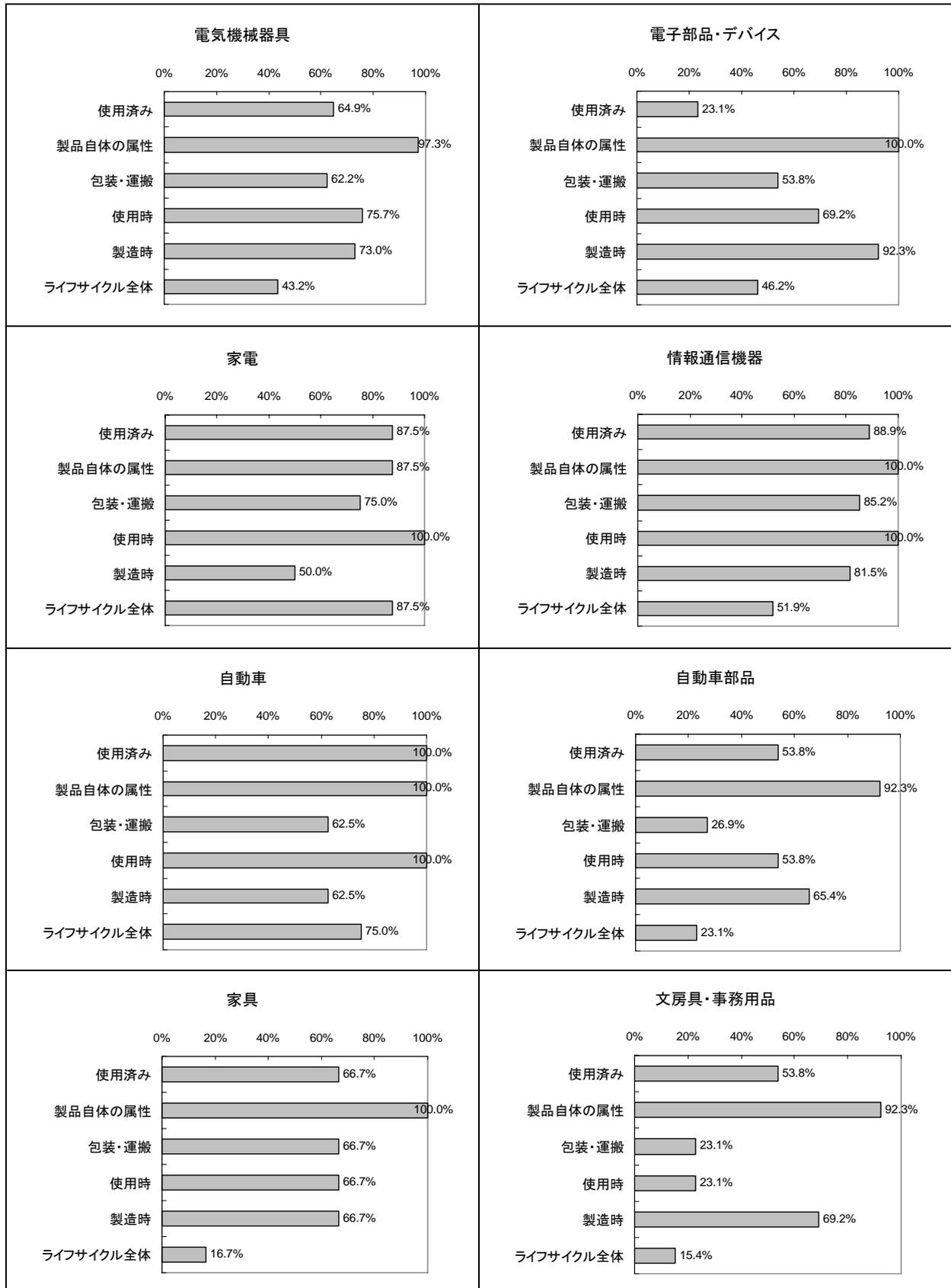


図 2-10：ターゲットとするフェーズ（業種による集計）

2.4. 環境配慮設計のプロセスとツール

2.4.1. 環境配慮設計のプロセス

環境配慮設計のプロセスについて、昨年度の調査などから、環境側面への配慮の有無（さらに数値目標を設定するか）、従来の設計の要求項目に環境側面が含まれるか、デザインレビュー（設計レビュー）における環境側面の扱い、環境に関する配慮を社内のどのような部署で実施するか、などによって特徴付けられるものと想定した。こうしたプロセスの現状を把握するため、次のような問と選択肢を設定した。

どのようなプロセスで環境への配慮を行っていますか。あてはまるものをすべて選択してください。

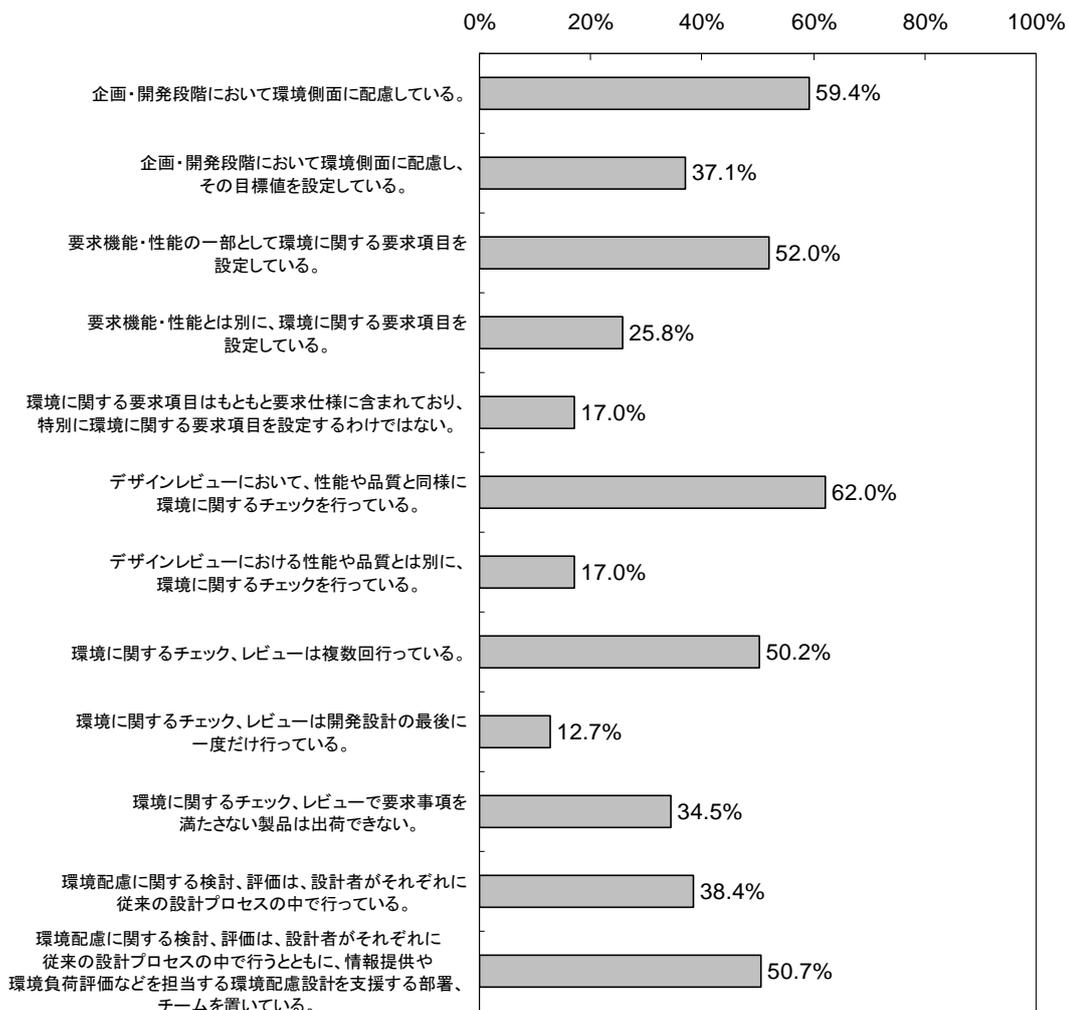
1. 企画・開発段階において環境側面に配慮している。
2. 企画・開発段階において環境側面に配慮し、その目標値を設定している。
3. 要求機能・性能の一部として環境に関する要求項目を設定している。
4. 要求機能・性能とは別に、環境に関する要求項目を設定している。
5. 環境に関する要求項目はもともと要求仕様に含まれており、特別に環境に関する要求項目を設定するわけではない。
6. デザインレビューにおいて、性能や品質と同様に環境に関するチェックを行っている。
7. デザインレビューにおける性能や品質とは別に、環境に関するチェックを行っている。
8. 環境に関するチェック、レビューは複数回行っている。
9. 環境に関するチェック、レビューは開発設計の最後に一度だけ行っている。
10. 環境に関するチェック、レビューで要求事項を満たさない製品は出荷できない。
11. 環境配慮に関する検討、評価は、設計者がそれぞれに従来の設計プロセスの中で行っている。
12. 環境配慮に関する検討、評価は、設計者がそれぞれに従来の設計プロセスの中で行うとともに、情報提供や環境負荷評価などを担当する環境配慮設計を支援する部署、チームを置いている。

回答の集計結果を表 2-8、図 2-11 に示す。

表 2-8：環境配慮設計のプロセス

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
回答数	136	85	119	59	39	142	39	115	29	79	88	116
選択率	59.4%	37.1%	52.0%	25.8%	17.0%	62.0%	17.0%	50.2%	12.7%	34.5%	38.4%	50.7%

(回答サンプル数 229、複数選択)



(回答サンプル数 229、複数選択)

図 2-11：環境配慮設計のプロセス

- デザインレビューで、性能や品質と同様に環境に関するチェックを行っているところが多い。また、環境に関するデザインレビューも複数回実施しているという回答が多い。
- 企画段階での目標設定は、多くの事業者でなされているが、数値目標まで設定するところは3分の1強である。
- 環境に関する要求事項を性能や品質と同列に扱うところも多いようである。これは業種や製品の属性にもよるため、環境への項目を別に扱っているほうがよいというわけではない。たとえば QFDE [QFD (品質機能展開) に環境の要素を入れ、環境への配慮も VOC (顧客要求) の一部として扱う] の考え方をを用いる場合には、品質要求の一部として扱われるだろう。設計レビューでの扱い方も、環境を別に扱うほうがよいというわけでもなく、製品にあった進め方で、結果的に要求される品質・性能に加え、環境に関しての特性もよくなっていることが重要である。
- 環境配慮設計促進のためのチームをおいているという企業が 50%を超えている。近年の環境への意識の高まりの中で、環境マネジメントや環境配慮設計が重要になってきていることが現れていると思われる。

■ サプライチェーンの位置づけによる集計

回答者のサプライチェーンの中での位置づけによって集計した結果を図 2-12 に示す。

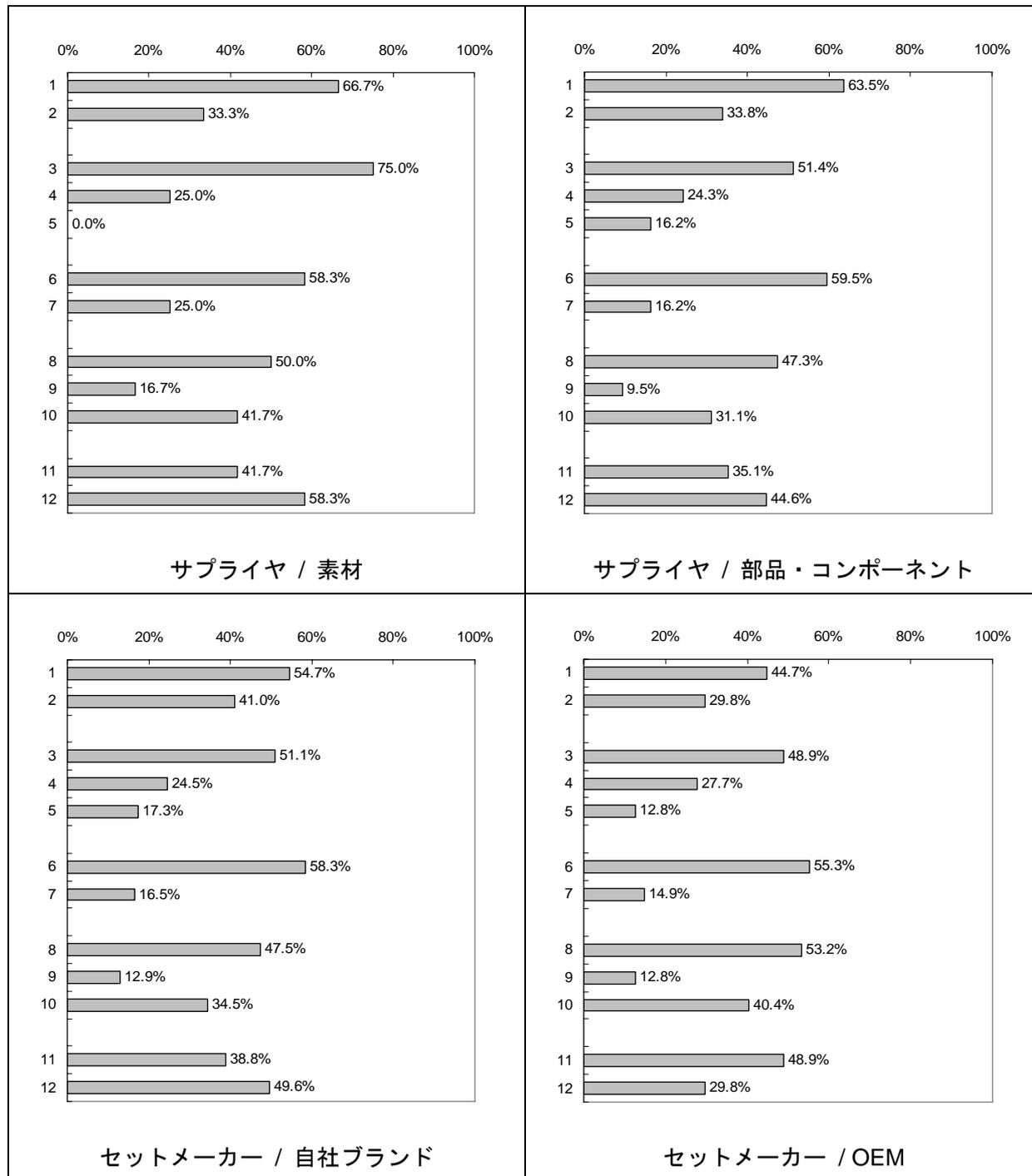


図 2-12 : 環境配慮設計のプロセス (サプライチェーンの位置づけによる集計)

■ 業種ごとの集計

回答者の業種によって集計した結果を表 2-9、図 2-13 に示す。

表 2-9：環境配慮設計のプロセス（業種による集計）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
化学品	58.8%	29.4%	76.5%	29.4%	11.8%	70.6%	17.6%	47.1%	5.9%	52.9%	47.1%	47.1%
家具	83.3%	16.7%	33.3%	33.3%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%
家電	25.0%	62.5%	62.5%	0.0%	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%	25.0%	50.0%	25.0%	62.5%
機械工具	40.0%	20.0%	60.0%	40.0%	20.0%	80.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%	0.0%
機械部品	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%	100.0%	33.3%	100.0%	0.0%	33.3%	33.3%	66.7%
金属製品	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
金属素材	71.4%	28.6%	85.7%	14.3%	0.0%	42.9%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	28.6%	42.9%
建設機械	77.8%	33.3%	44.4%	22.2%	22.2%	55.6%	0.0%	55.6%	0.0%	22.2%	55.6%	22.2%
工作機械	72.7%	9.1%	27.3%	0.0%	9.1%	63.6%	0.0%	9.1%	36.4%	0.0%	72.7%	9.1%
産業機械	46.7%	26.7%	26.7%	20.0%	33.3%	33.3%	26.7%	40.0%	13.3%	20.0%	73.3%	13.3%
自動車	100.0%	100.0%	100.0%	62.5%	25.0%	100.0%	50.0%	87.5%	12.5%	100.0%	37.5%	87.5%
自動車部品	70.8%	20.8%	37.5%	16.7%	20.8%	50.0%	12.5%	41.7%	20.8%	25.0%	37.5%	41.7%
情報通信機器	48.1%	63.0%	63.0%	44.4%	7.4%	74.1%	33.3%	77.8%	11.1%	70.4%	22.2%	88.9%
精密機器	100.0%	0.0%	40.0%	20.0%	40.0%	100.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	100.0%	40.0%
電気機械器具	51.5%	42.4%	45.5%	30.3%	9.1%	63.6%	15.2%	51.5%	12.1%	30.3%	48.5%	24.2%
電子部品・デバイス	46.2%	15.4%	46.2%	23.1%	15.4%	53.8%	15.4%	38.5%	7.7%	46.2%	46.2%	30.8%
文房具・事務用品	45.5%	18.2%	54.5%	18.2%	9.1%	54.5%	0.0%	36.4%	27.3%	9.1%	63.6%	9.1%
無機素材	60.0%	20.0%	60.0%	0.0%	40.0%	100.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%
輸送用機械器具	100.0%	50.0%	100.0%	25.0%	0.0%	75.0%	25.0%	75.0%	0.0%	50.0%	75.0%	75.0%

- 多くの分野で企画・開発段階で環境側面に配慮するものの、数値目標を設定しているという回答が多いのは電気機械器具、情報通信機器、自動車である。
- 電気機械器具、情報通信機器、電子部品・デバイスで、デザインレビューで要求事項を満たさない場合に出荷できないとしているところが多い。

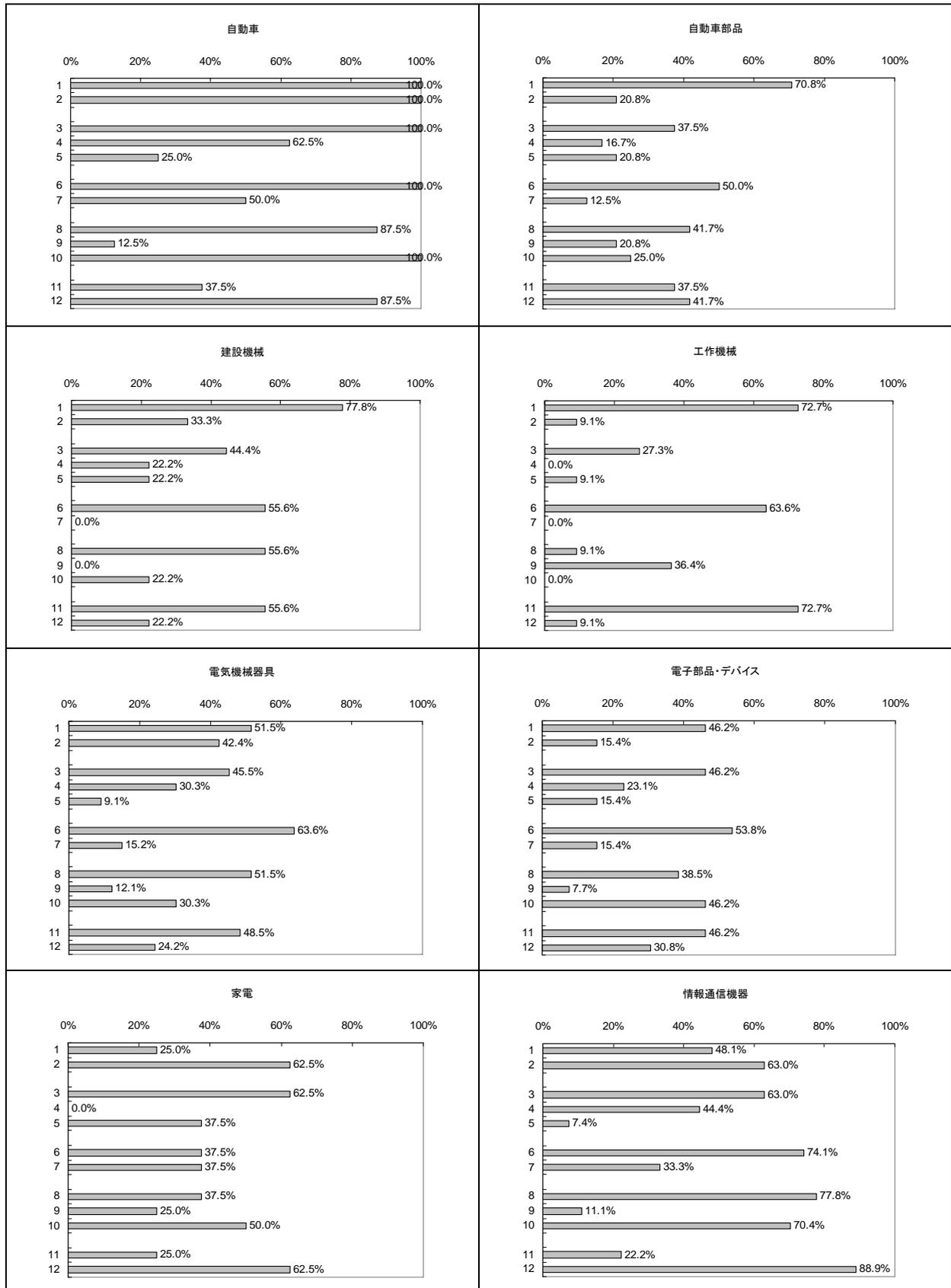


図 2-13：環境配慮設計のプロセス（業種による集計）

2.4.2. 環境配慮設計で用いるツール

環境配慮設計を行う際にはさまざまなツールが利用されている。家電製品やオフィス家具のように製品アセスメントマニュアルを設定している業界がある。また、昨年度のヒアリング調査から先進的な企業では、LCA を積極的に取り入れている。

今回の調査では、環境配慮設計を進めるために、どのようなツールが利用されているかを把握するため、次のような質問を設けた。ツールとしては、昨年度の調査を参考に、製品アセスメントマニュアル、環境配慮設計のためのマニュアル・ガイドライン、ソフトウェア、材料選定のためのデータベース、LCA を選択肢とした。

a-2. 環境配慮設計を行うために、どのようなツールを利用していますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 設計レビューにおいて使用するチェックリストまたは製品アセスメント
(自社で独自に設定したもの)
2. 設計レビューにおいて使用するチェックリストまたは製品アセスメント
(業界のガイドラインに沿ったもの)
3. 設計レビューにおいて使用するチェックリストまたは製品アセスメント
(取引先の要望で設定したもの)

4. 設計者が参照する環境配慮設計マニュアル、ガイドライン
(自社独自のもの)
5. 設計者が参照する環境配慮設計マニュアル、ガイドライン
(業界のガイドラインに沿ったもの)
6. 設計者が参照する環境配慮設計マニュアル、ガイドライン
(取引先の要望で設定したもの)

7. 解体性を評価するツール、ソフトウェア
8. リサイクル性 (材料リサイクル) を評価するツール、ソフトウェア

9. 材料選定のためのデータベース (含有化学物質など)
10. 材料選定のためのデータベース (利用可能なリサイクル材料など)

11. LCA (インベントリ分析まで)
12. LCA (インベントリ分析と影響評価)
13. CAD、PDM、BOM などと連携した LCA

99. その他 (具体的に:)

LCA: Life Cycle Assessment、ライフサイクルアセスメント

CAD: Computer Aided Design、コンピュータ支援設計

PDM: Product Data Management、製品データ管理

BOM: Bill of Materials、部品表、部品構成表

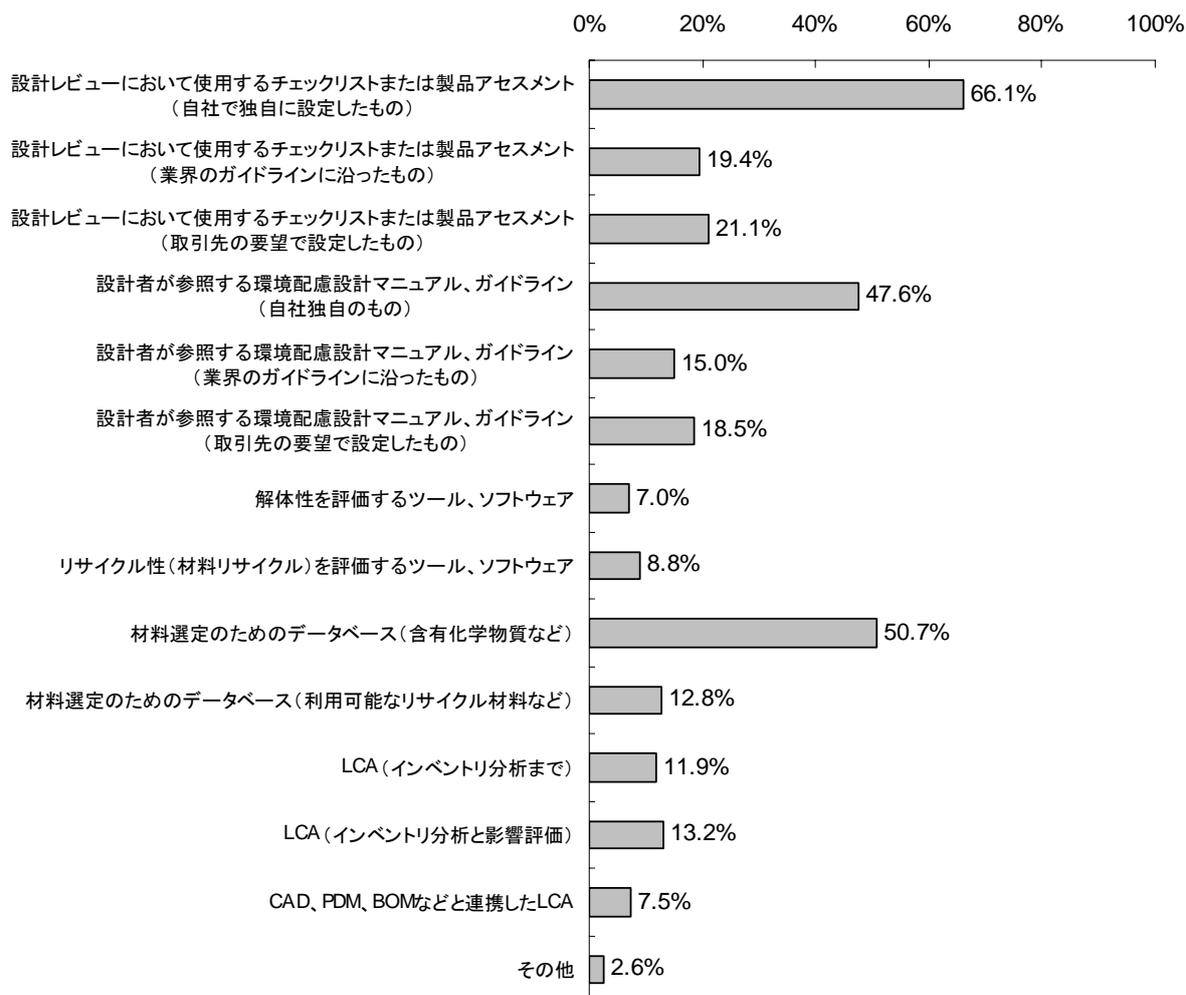
集計結果を表 2-10、図 2-14 に示す。

表 2-10：環境配慮設計のツール

選択肢	回答数	選択率
設計レビューにおいて使用するチェックリストまたは製品アセスメント (自社で独自に設定したもの)	150	66.1%
設計レビューにおいて使用するチェックリストまたは製品アセスメント (業界のガイドラインに沿ったもの)	44	19.4%
設計レビューにおいて使用するチェックリストまたは製品アセスメント (取引先の要望で設定したもの)	48	21.1%
設計者が参照する環境配慮設計マニュアル、ガイドライン (自社独自のもの)	108	47.6%
設計者が参照する環境配慮設計マニュアル、ガイドライン (業界のガイドラインに沿ったもの)	34	15.0%
設計者が参照する環境配慮設計マニュアル、ガイドライン (取引先の要望で設定したもの)	42	18.5%
解体性を評価するツール、ソフトウェア	16	7.0%
リサイクル性(材料リサイクル)を評価するツール、ソフトウェア	20	8.8%
材料選定のためのデータベース(含有化学物質など)	115	50.7%
材料選定のためのデータベース(利用可能なリサイクル材料など)	29	12.8%
LCA(インベントリ分析まで)	27	11.9%
LCA(インベントリ分析と影響評価)	30	13.2%
CAD、PDM、BOMなどと連携したLCA	17	7.5%
その他	6	2.6%

(回答サンプル数 227、複数選択)

- 自社独自の製品アセスメント(66.1%)、自社独自の環境配慮設計マニュアル(47.6%)、含有化学物質データベース(50.7%)の選択が多い。
- 自社のツールを使用しているという回答が多いが、業界のマニュアル・ガイドラインを基に作成しているところもあると考えられる。
- 含有化学物質のデータベースについては、自動車業界のように、部品調達システムと連携している業界もある。多くの業界でグリーン調達を進める上で、重要なツールとなっていると考えられる。
- LCAはツールとしてあまり使用されていないが、部品メーカー、サプライヤでは、ライフサイクル全体の評価は難しく、セットメーカーへのLCAデータの提供を行う場合が多い。



(回答サンプル数 227、複数選択)

図 2-14 : 環境配慮設計のツール

■ 業種ごとの集計（概略）

ツールについて、業種ごとに回答を集計したものを表 2-11、図 2-15 に示す。アセスメント（選択肢：1～3）、マニュアル（選択肢：4～6）のように、ツールをまとめている。

表 2-11：環境配慮設計のツール（業種による集計）

	アセスメント	マニュアル	解体性	リサイクル性	材料 DB	LCA	サンプル数
化学品	82.4%	64.7%	5.9%	17.6%	76.5%	23.5%	17
家具	50.0%	50.0%	0.0%	16.7%	83.3%	16.7%	6
家電	100.0%	100.0%	0.0%	12.5%	50.0%	62.5%	8
機械工具	100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%	25.0%	4
機械部品	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	3
金属製品	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	3
金属素材	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	71.4%	42.9%	7
建設機械	88.9%	66.7%	0.0%	11.1%	33.3%	33.3%	9
工作機械	80.0%	40.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	10
産業機械	73.3%	66.7%	0.0%	6.7%	33.3%	13.3%	15
自動車	87.5%	100.0%	50.0%	50.0%	62.5%	25.0%	8
自動車部品	70.8%	66.7%	0.0%	0.0%	41.7%	8.3%	24
情報通信機器	92.6%	88.9%	29.6%	18.5%	66.7%	40.7%	27
精密機器	100.0%	60.0%	0.0%	0.0%	60.0%	60.0%	5
電気機械器具	91.7%	69.4%	5.6%	5.6%	38.9%	33.3%	36
電子部品・デバイス	71.4%	71.4%	0.0%	7.1%	71.4%	42.9%	14
文房具・事務用品	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	54.5%	18.2%	11
無機素材	100.0%	80.0%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	5
輸送用機械器具	100.0%	75.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	4

- LCA は家電業界で高い割合で使用されている（62.5%）。
- 製品アセスメントの普及・利用については業界で違いが見られる。家電、機械工具、機械部品、精密機器、情報通信機器では高い割合で利用されている。
- 解体性、リサイクル性の評価は業種を問わず、あまり用いられていない。自動車で解体性およびリサイクル性について 50%の選択率が他の業種に比べ突出している。

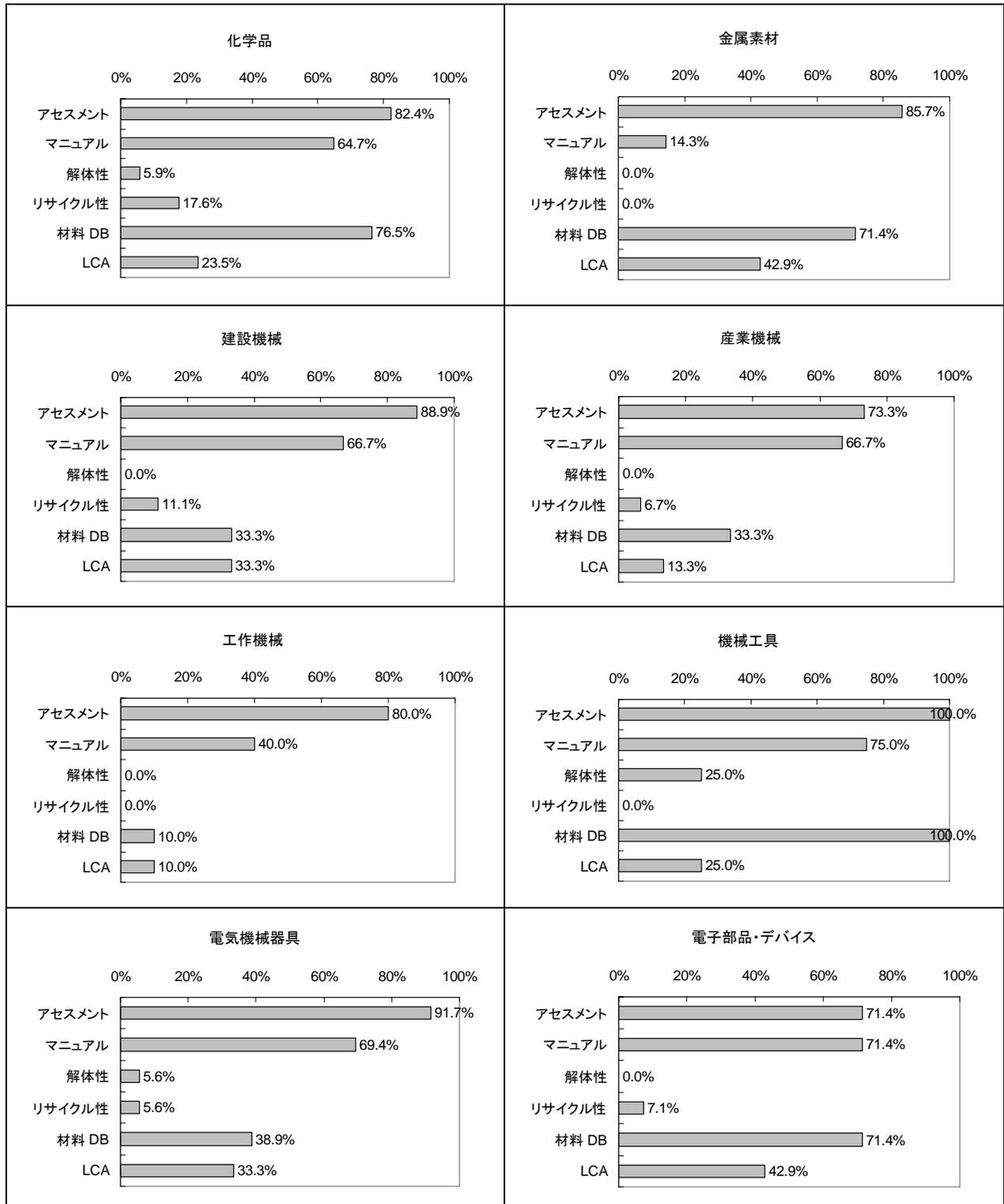


図 2-15 (1) : 業種ごとの集計 (概略)

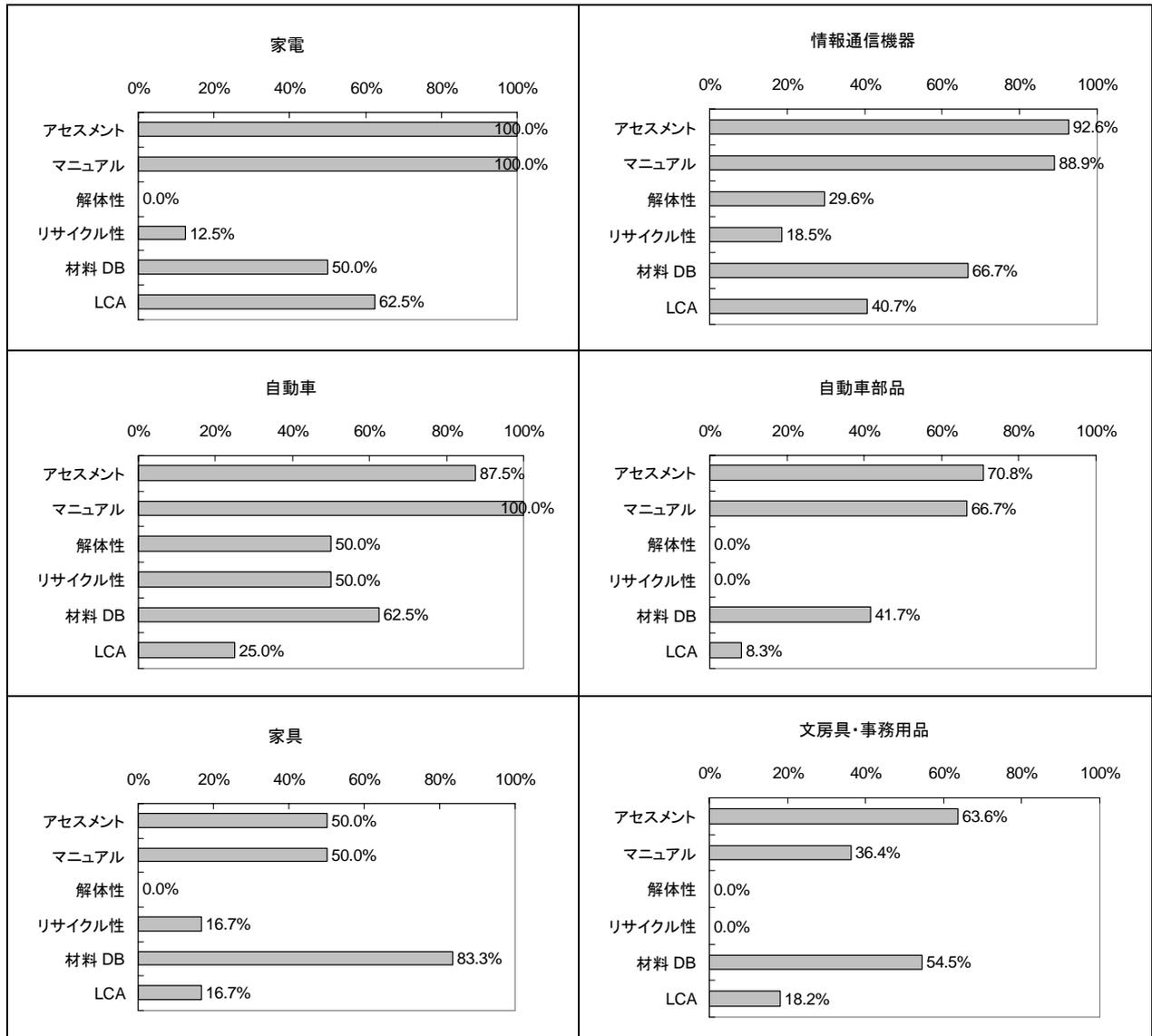


図 2-15 (2) : 業種ごとの集計 (概略)

表 2-12、図 2-16 に集計結果を示す。

表 1-12 : 設計・開発における目標

選択肢	選択数	選択率
リサイクル可能率（マテリアルリサイクル可能な材料の重量比など）	70	30.6%
リサイクル性（分解できる部品重量など）	69	30.1%
分解性	84	36.7%
再利用可能な部品の点数、重量比	37	16.2%
製品に含有される環境負荷物質の量	169	73.8%
体積、重量	132	57.6%
物理的な寿命	102	44.5%
再生材料使用率（製品中の再生材料使用の割合）	60	26.2%
再生材料使用量	43	18.8%
省エネルギー性能、エネルギー利用効率	125	54.6%
製品使用時の有害物質排出量	65	28.4%
包装、梱包資材のリサイクル可能率	36	15.7%
包装、梱包資材の使用量	64	27.9%
包装、梱包資材の再利用率	25	10.9%
製品使用時の騒音、振動	91	39.7%
製造時の有害物質使用量	74	32.3%
製造時のエネルギー消費量	64	27.9%
製造時の温室効果ガス排出量、廃棄物発生量（工場から発生する廃棄物量）	75	32.8%
製造時の副生成物量	21	9.2%
ライフサイクル全体でのトータルなエネルギー消費量	46	20.1%
ライフサイクル全体でのトータルな温室効果ガス排出量削減量	44	19.2%
環境効率、エコエフィシエンシー	23	10.0%
ファクター	15	6.6%
統合評価指標	12	5.2%
その他	10	4.4%

（回答数: 229 件、複数選択）

- 上位 3 項目は環境負荷物質（73.8%）、体積・重量（57.6%）、省エネルギー（54.6%）であった。
- ライフサイクル全体を含んだ目標の設定は少ない。ファクター、統合評価指標については 10% 未満である。製造時や包装、梱包についての選択肢も少なく、環境配慮設計が、製品自体の設計が中心になっていることをうかがわせる。

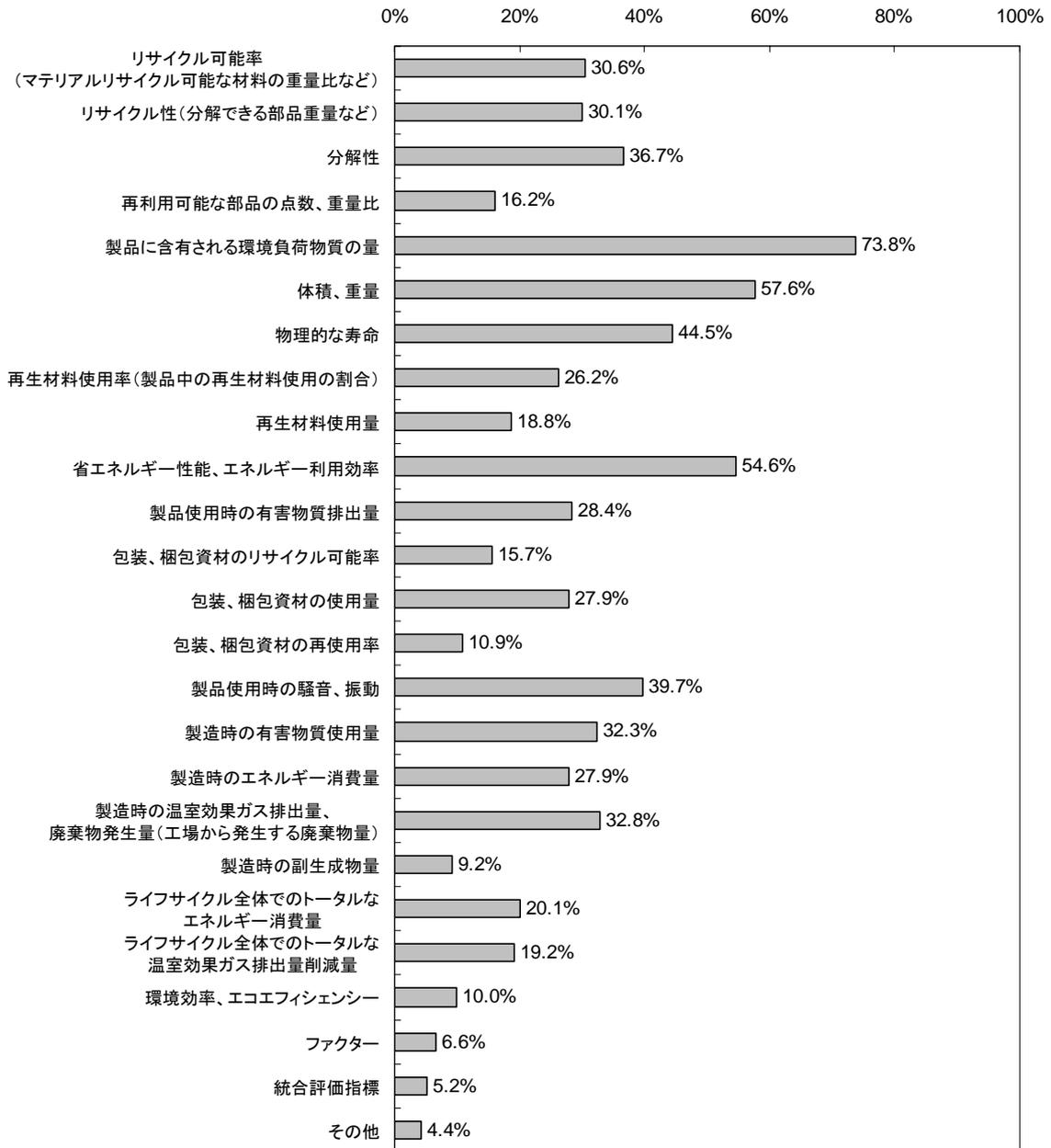


図 16 : 設計・開発における目標

■ サプライチェーンの位置づけによる集計

サプライチェーンにおける位置づけによる集計結果を図 2-17 に示す。「サプライヤ / 素材」で製造時の目標に関しての選択率がセットメーカーに比べて高いが、あまり目立った違いは見られない。

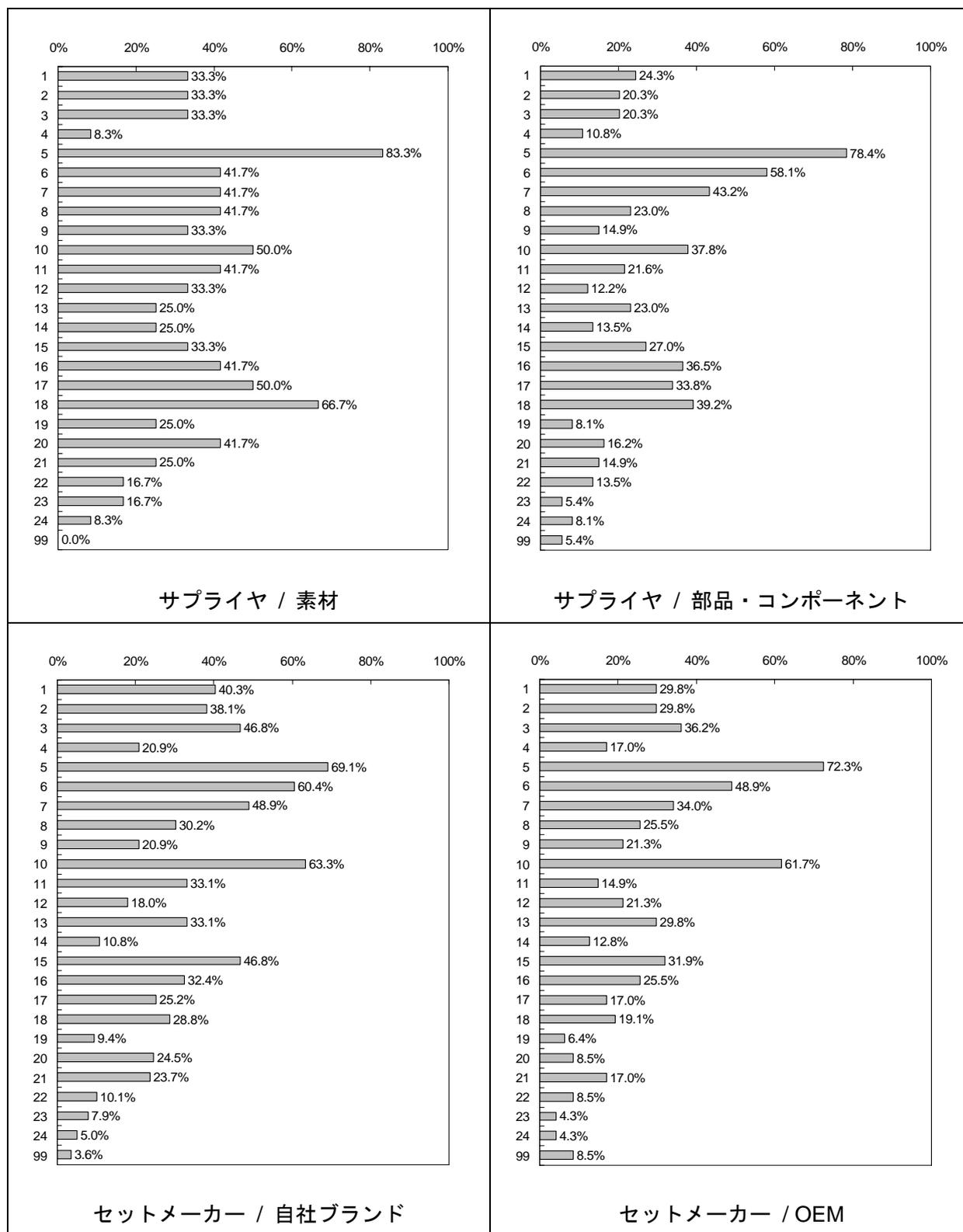


図 2-17：設計・開発における目標（サプライチェーンにおける位置づけ）

■ 業種ごとの集計

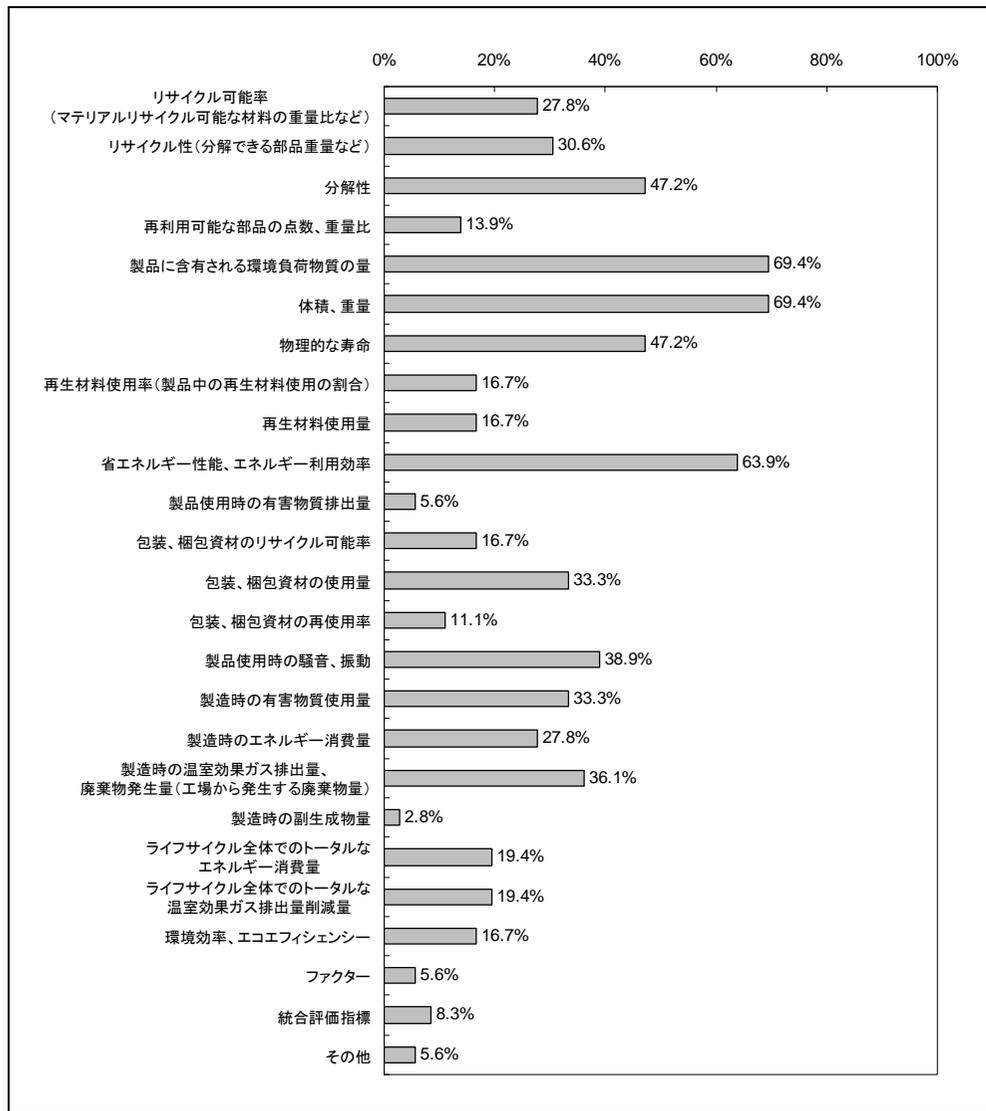
業種ごとの集計結果を表 2-13 に示す。

表 2-13 (1) : 設計・開発における目標 (業種による集計)

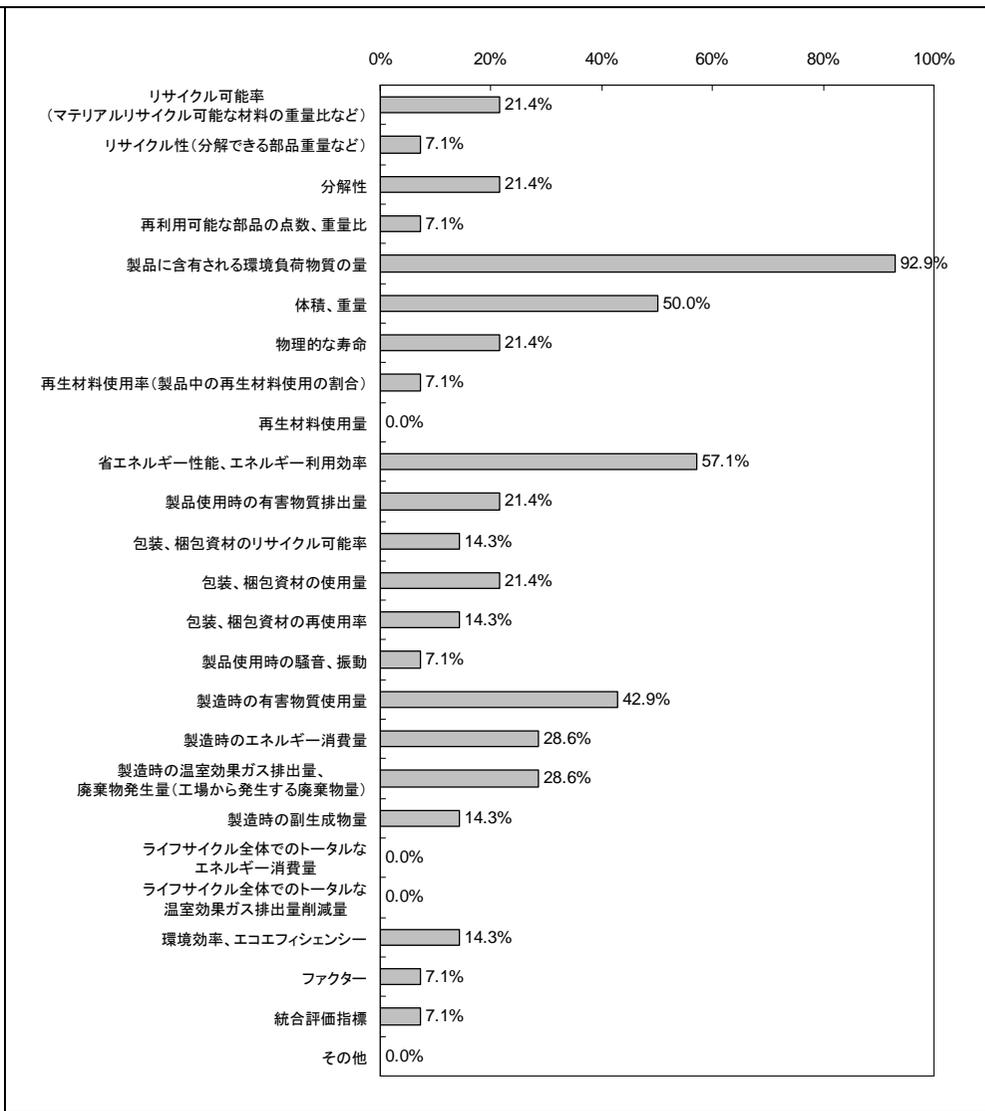
	化学品	家具	家電	機械工具	機械部品	金属製品	金属素材	建設機械	工作機械	産業機械
リサイクル可能率 (マテリアルリサイクル可能な材料の重量比など)	17.6%	33.3%	62.5%	60.0%	0.0%	0.0%	28.6%	44.4%	9.1%	13.3%
リサイクル性 (分解できる部品重量など)	41.2%	50.0%	62.5%	40.0%	0.0%	0.0%	28.6%	22.2%	9.1%	20.0%
分解性	29.4%	16.7%	62.5%	60.0%	33.3%	0.0%	14.3%	22.2%	18.2%	40.0%
再利用可能な部品の点数、重量比	11.8%	0.0%	50.0%	20.0%	33.3%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	13.3%
製品に含有される環境負荷物質の量	82.4%	33.3%	75.0%	100.0%	66.7%	66.7%	85.7%	44.4%	36.4%	53.3%
体積、重量	35.3%	16.7%	75.0%	40.0%	33.3%	33.3%	71.4%	44.4%	36.4%	80.0%
物理的な寿命	52.9%	16.7%	62.5%	60.0%	33.3%	66.7%	42.9%	22.2%	27.3%	66.7%
再生材料使用率 (製品中の再生材料使用の割合)	29.4%	66.7%	62.5%	0.0%	33.3%	0.0%	28.6%	11.1%	0.0%	6.7%
再生材料使用量	23.5%	33.3%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	11.1%	0.0%	0.0%
省エネルギー性能、エネルギー利用効率	41.2%	0.0%	87.5%	60.0%	33.3%	0.0%	42.9%	66.7%	54.5%	80.0%
製品使用時の有害物質排出量	58.8%	50.0%	50.0%	20.0%	33.3%	0.0%	28.6%	66.7%	27.3%	26.7%
包装、梱包資材のリサイクル可能率	23.5%	0.0%	25.0%	80.0%	33.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	6.7%
包装、梱包資材の使用量	29.4%	0.0%	75.0%	40.0%	33.3%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	20.0%
包装、梱包資材の再使用率	5.9%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	13.3%
製品使用時の騒音、振動	35.3%	16.7%	50.0%	80.0%	33.3%	0.0%	28.6%	77.8%	72.7%	60.0%
製造時の有害物質使用量	29.4%	33.3%	37.5%	20.0%	33.3%	0.0%	71.4%	11.1%	9.1%	13.3%
製造時のエネルギー消費量	35.3%	0.0%	50.0%	20.0%	33.3%	0.0%	85.7%	22.2%	9.1%	6.7%
製造時の温室効果ガス排出量、廃棄物発生量 (工場から発生する廃棄物量)	47.1%	0.0%	50.0%	40.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	18.2%	20.0%
製造時の副生成物量	5.9%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	6.7%
ライフサイクル全体でのトータルなエネルギー消費量	17.6%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	33.3%	57.1%	44.4%	18.2%	6.7%
ライフサイクル全体でのトータルな温室効果ガス排出量削減量	17.6%	16.7%	75.0%	0.0%	0.0%	33.3%	28.6%	22.2%	9.1%	0.0%
環境効率、エコエフィシエンシー	17.6%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
ファクター	5.9%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
統合評価指標	17.6%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
サンプル数	17	6	8	5	3	3	7	9	11	15

表 2-13 (2) : 設計・開発における目標 (業種による集計)

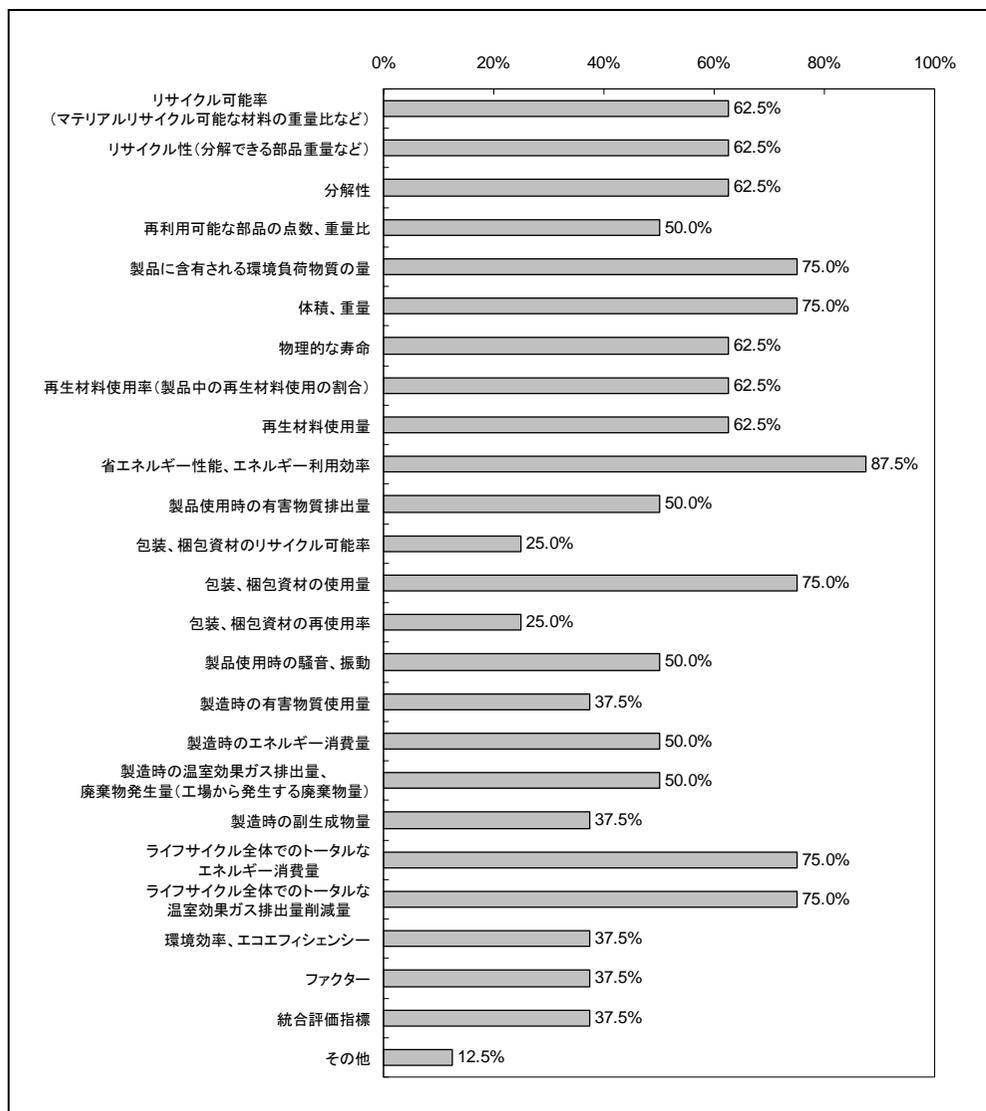
	自動車	自動車部品	情報通信機器	精密機器	電気機械器具	電子部品・デバイス	文房具・事務用品	無機素材	輸送用機械器具
リサイクル可能率 (マテリアルリサイクル可能な材料の重量比など)	100.0%	8.3%	59.3%	0.0%	27.8%	21.4%	18.2%	20.0%	50.0%
リサイクル性 (分解できる部品重量など)	75.0%	20.8%	33.3%	20.0%	30.6%	7.1%	36.4%	20.0%	75.0%
分解性	87.5%	20.8%	59.3%	20.0%	47.2%	21.4%	18.2%	20.0%	75.0%
再利用可能な部品の点数、重量比	25.0%	8.3%	37.0%	40.0%	13.9%	7.1%	9.1%	0.0%	25.0%
製品に含有される環境負荷物質の量	87.5%	75.0%	92.6%	100.0%	69.4%	92.9%	72.7%	80.0%	100.0%
体積、重量	75.0%	58.3%	92.6%	80.0%	69.4%	50.0%	0.0%	40.0%	100.0%
物理的な寿命	62.5%	37.5%	51.9%	20.0%	47.2%	21.4%	27.3%	40.0%	100.0%
再生材料使用率 (製品中の再生材料使用の割合)	75.0%	12.5%	40.7%	20.0%	16.7%	7.1%	63.6%	40.0%	25.0%
再生材料使用量	62.5%	8.3%	44.4%	20.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%
省エネルギー性能、エネルギー利用効率	87.5%	4.2%	92.6%	80.0%	63.9%	57.1%	9.1%	20.0%	100.0%
製品使用時の有害物質排出量	100.0%	8.3%	22.2%	0.0%	5.6%	21.4%	9.1%	40.0%	75.0%
包装、梱包資材のリサイクル可能率	25.0%	4.2%	25.9%	0.0%	16.7%	14.3%	18.2%	20.0%	25.0%
包装、梱包資材の使用量	37.5%	4.2%	59.3%	60.0%	33.3%	21.4%	9.1%	0.0%	25.0%
包装、梱包資材の再使用率	12.5%	4.2%	7.4%	0.0%	11.1%	14.3%	45.5%	40.0%	0.0%
製品使用時の騒音、振動	75.0%	29.2%	51.9%	0.0%	38.9%	7.1%	0.0%	20.0%	75.0%
製造時の有害物質使用量	62.5%	25.0%	33.3%	20.0%	33.3%	42.9%	45.5%	40.0%	100.0%
製造時のエネルギー消費量	62.5%	29.2%	29.6%	20.0%	27.8%	28.6%	0.0%	40.0%	50.0%
製造時の温室効果ガス排出量、廃棄物発生量 (工場から発生する廃棄物量)	62.5%	33.3%	33.3%	0.0%	36.1%	28.6%	36.4%	60.0%	50.0%
製造時の副生成物量	37.5%	8.3%	7.4%	20.0%	2.8%	14.3%	0.0%	20.0%	25.0%
ライフサイクル全体でのトータルなエネルギー消費量	12.5%	4.2%	29.6%	0.0%	19.4%	0.0%	9.1%	40.0%	25.0%
ライフサイクル全体でのトータルな温室効果ガス排出量削減量	12.5%	8.3%	40.7%	40.0%	19.4%	0.0%	0.0%	40.0%	25.0%
環境効率、エコエフィシエンシー	12.5%	0.0%	18.5%	0.0%	16.7%	14.3%	0.0%	0.0%	25.0%
ファクター	0.0%	0.0%	14.8%	0.0%	5.6%	7.1%	0.0%	0.0%	25.0%
統合評価指標	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	8.3%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	4.2%	7.4%	40.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
サンプル数	8	24	27	5	36	14	11	5	4



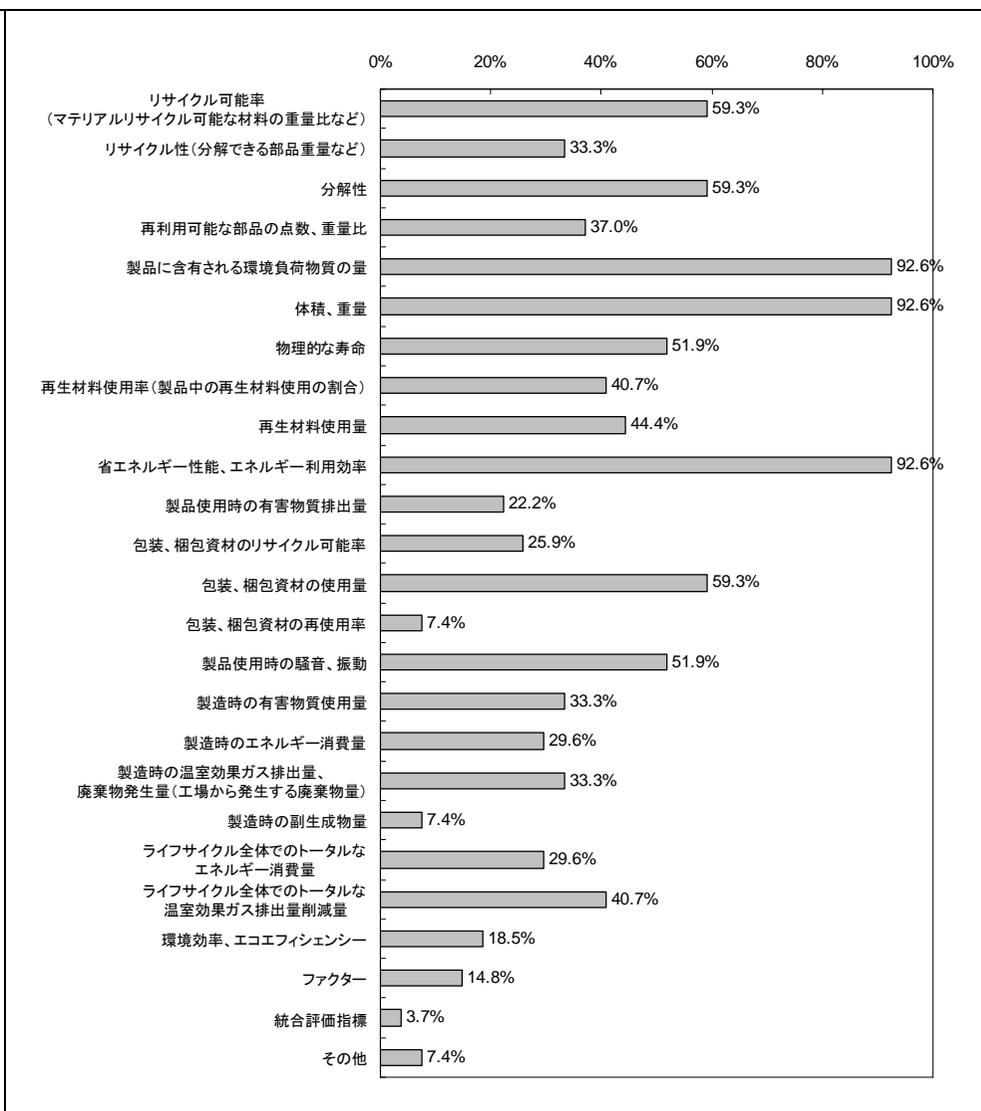
電気機械器具



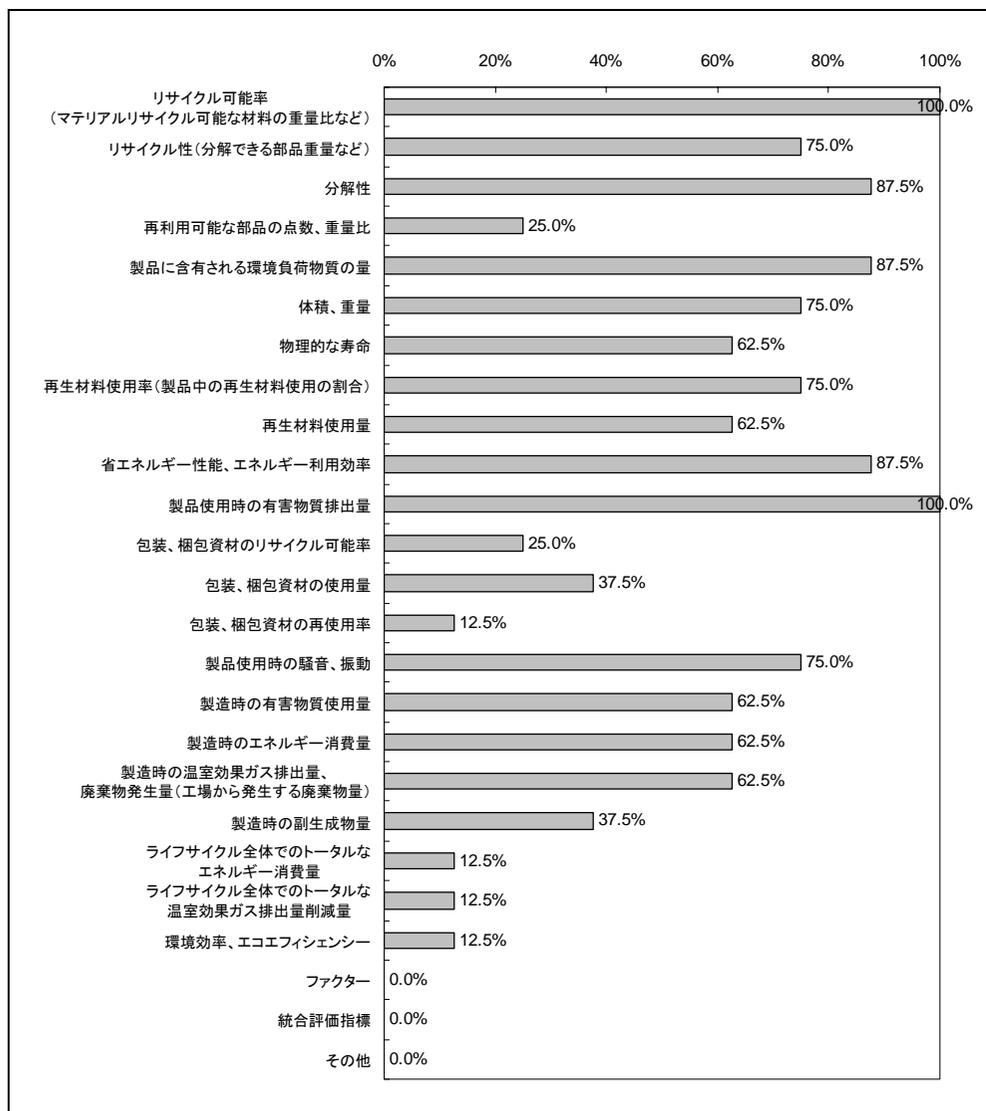
電子部品・デバイス



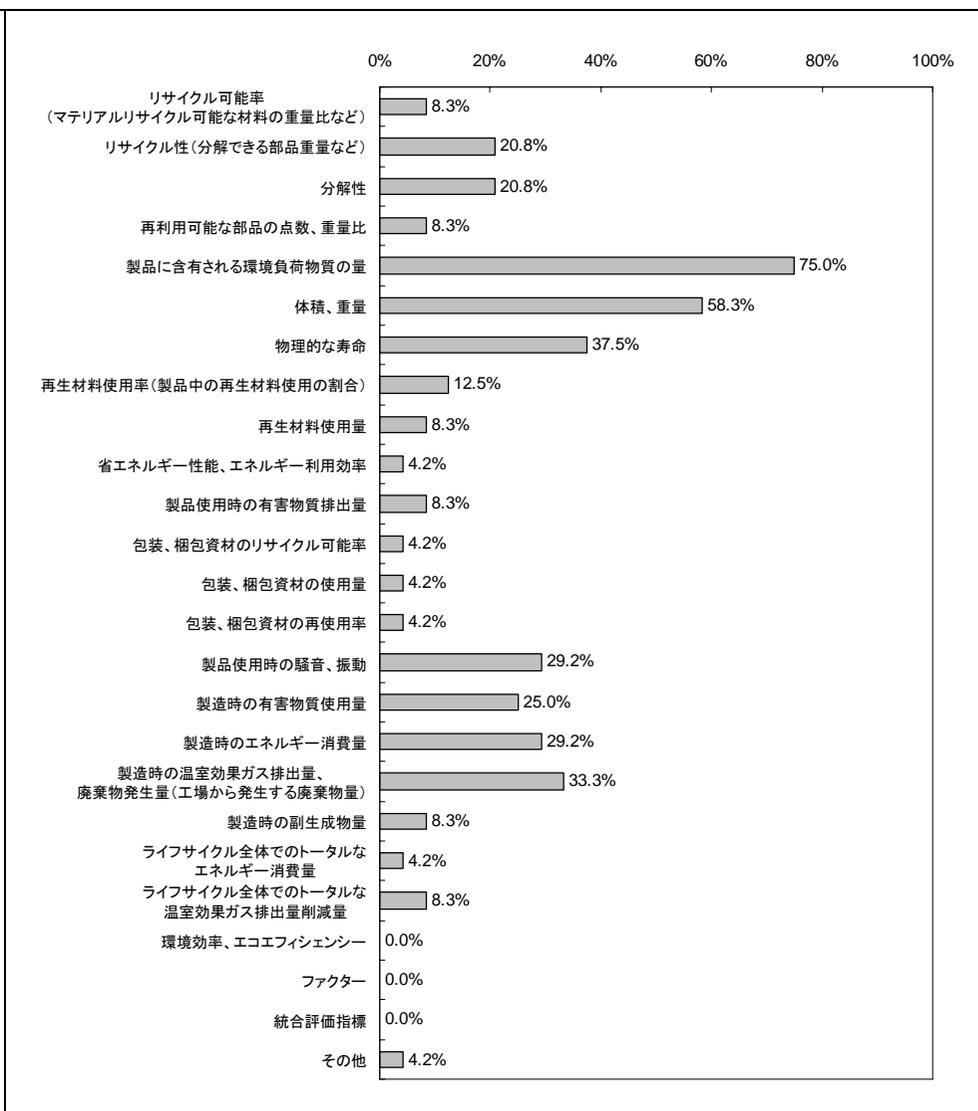
家電



情報通信機器



自動車



自動車部品

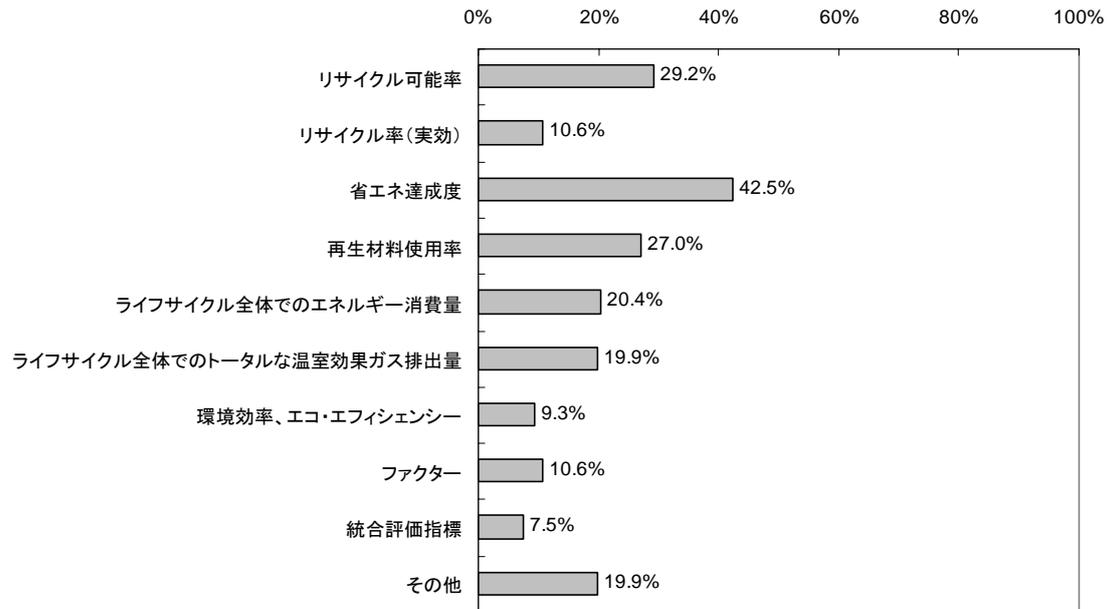


図 2-18：環境配慮設計の効果、成果の評価指標

- 効果の評価について選択率で見ると、2.5.1 の設計段階での評価指標とだいたい一致している。環境配慮設計の取り組みを進めている企業でも、その効果を第三者的に検証している事業者は多くないということであろう。
- リサイクル率を実行値として検証しているところは 10.6%と少ない。ただし、リサイクルされるのは、通常製品が販売されてから数年後のことが多く、将来の評価となるため、リサイクル可能率を用いることで対応している場合が多いだろう。
- 省エネ達成度の選択率をもっとも高くなっている。省エネルギー性能を設計開発における目標にしているところが 54.6%あったが、効果・成果の評価段階では省エネ達成度の選択率は 42.5%となっている。

■ サプライチェーンの位置づけによる集計

サプライチェーンの位置づけによる集計結果を図 2-19 に示す。

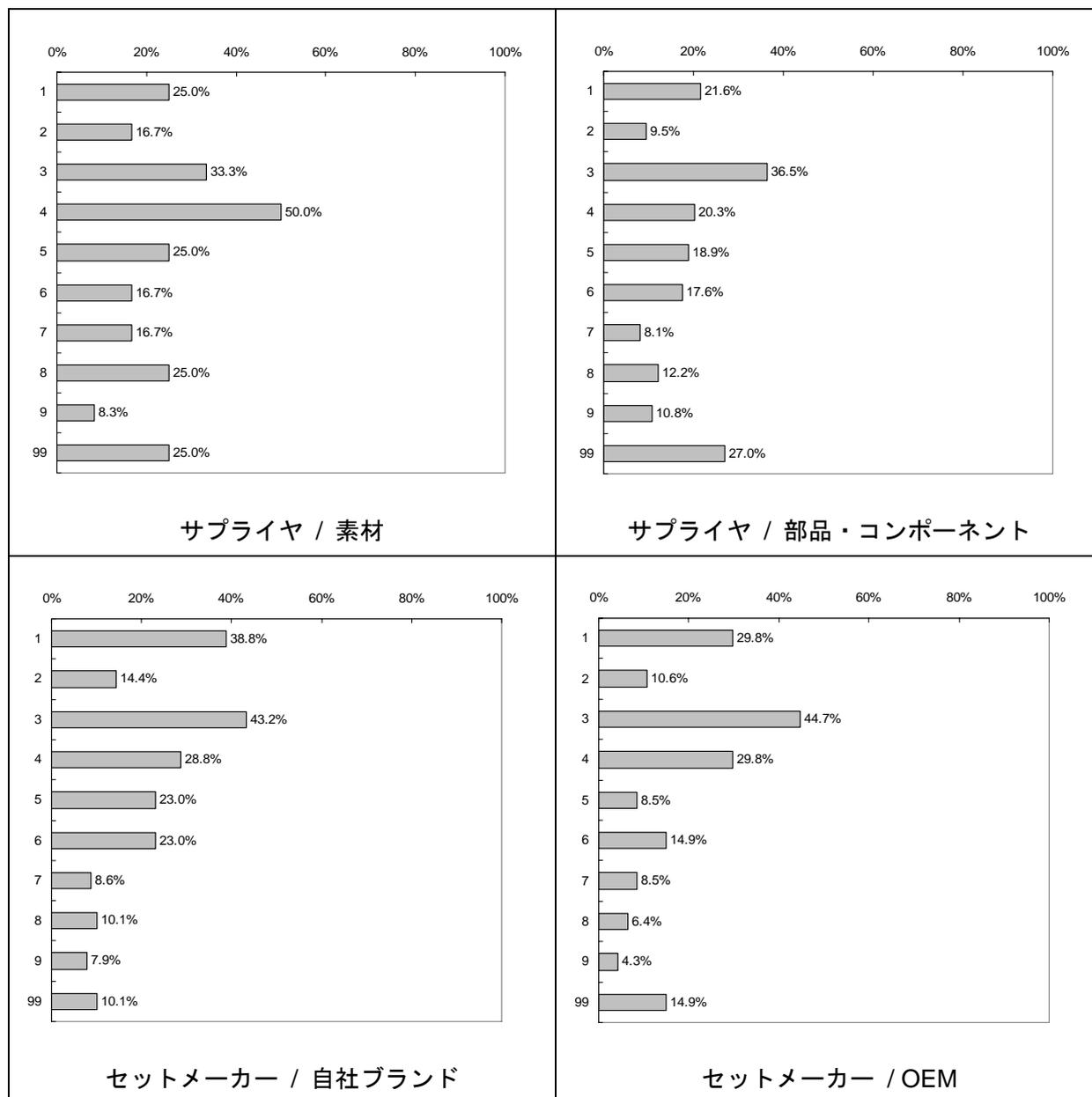


図 2-19：環境配慮設計の効果、成果の評価指標（サプライチェーンの位置づけによる集計）

概観したところ明確な違いが見られないが、サプライヤ（素材）で選択肢 4. 再生材料使用率が高く（50%）、また選択肢 8. のファクターの選択率が他に比べて高い（25%）。再生材料の使用は、素材メーカーとしては重要な要素であると考えられる。

■ 業種による集計

業種ごとの集計結果を表 2-15 に示す。

表 2-15：環境配慮設計の効果、成果の評価指標（業種による集計）

	リサイクル可能率	リサイクル率（実効）	省エネ達成度	再生材料利用率	ライフサイクル全体でのエネルギー消費量	ライフサイクル全体でのトータルな温室効果ガス排出量	環境効率、エコ・エフィシエンシー	ファクター	統合評価指標	その他	サンプル数
化学品	12.5%	12.5%	43.8%	43.8%	18.8%	18.8%	6.3%	6.3%	18.8%	37.5%	16
家具	33.3%	0.0%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	6
家電	57.1%	0.0%	57.1%	28.6%	71.4%	57.1%	14.3%	42.9%	14.3%	0.0%	7
機械工具	60.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	5
機械部品	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	3
金属製品	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	4
金属素材	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	28.6%	42.9%	0.0%	28.6%	7
建設機械	66.7%	0.0%	22.2%	11.1%	22.2%	44.4%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	9
工作機械	10.0%	0.0%	50.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	20.0%	10
産業機械	6.7%	6.7%	53.3%	20.0%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	20.0%	15
自動車	100.0%	62.5%	62.5%	62.5%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	8
自動車部品	17.4%	0.0%	17.4%	13.0%	8.7%	13.0%	0.0%	17.4%	4.3%	43.5%	23
情報通信機器	40.7%	14.8%	85.2%	37.0%	25.9%	40.7%	14.8%	14.8%	0.0%	11.1%	27
精密機器	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	5
電気機械器具	28.1%	21.9%	46.9%	21.9%	21.9%	18.8%	15.6%	9.4%	12.5%	21.9%	32
電子部品・デバイス	23.1%	0.0%	30.8%	15.4%	7.7%	23.1%	0.0%	7.7%	7.7%	38.5%	13
文房具・事務用品	18.2%	0.0%	9.1%	72.7%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11
無機素材	40.0%	20.0%	40.0%	60.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	5
輸送用機械器具	75.0%	25.0%	75.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	4

業種ごとに、省エネ達成度とライフサイクル全体でのエネルギー消費量のどちらの選択率が多いかを見てみると、家電と金属製品を除いては、省エネ達成度の方が選択率が高い。

環境配慮設計の外部評価の方法

環境配慮設計について外部評価を受けているかどうかを把握するため、次のような問を設定した。第三者評価、認証とは、エコマーク取得のための審査や省エネセンターの評価などである。

a-5. 環境配慮設計の効果、評価を外部から評価するため、どのような方法をとっていますか。

1. ユーザアンケート
2. モニター調査
3. 第三者評価、認証機関の利用
99. その他 ()

■ 集計結果

表 2-16、図 2-20 に集計結果を示す。

表 2-16 : 環境配慮設計の外部評価の方法

	全体		サプライチェーンでの集計			
	選択数	選択率	サプライヤ / 素材	サプライヤ / 部品・コンポーネント	セットメーカー / 自社ブランド	セットメーカー / OEM
ユーザアンケート	33	15.4%	25.0%	12.2%	16.5%	14.9%
モニター調査	15	7.0%	0.0%	4.1%	7.9%	6.4%
第三者評価、認証機関の利用	85	39.7%	58.3%	33.8%	33.8%	40.4%
その他	67	31.3%	16.7%	25.7%	28.8%	25.5%
サンプル数	214		12	74	139	47

(回答サンプル数 214、複数選択)

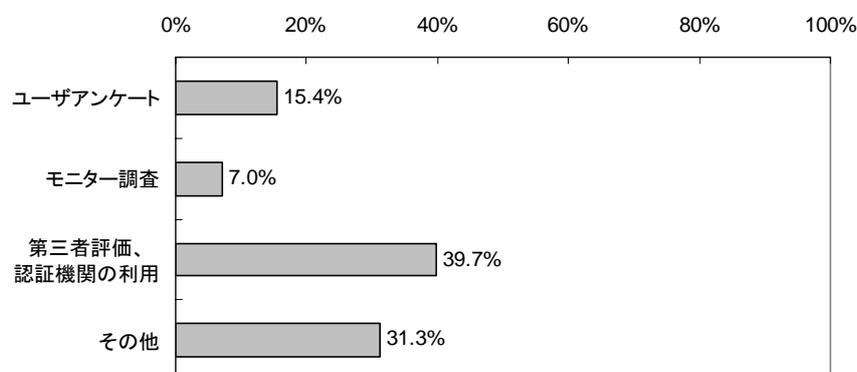


図 2-20 : 環境配慮設計の外部評価の方法

回答のうち、「その他」では、以下のような回答が得られた。業界がわかるほうがよいと判断したものは、[] 内に業界区分を入れてある。

- (特装車) 日本車体工業会から環境基準適合製品の認定を受ける [輸送用機械器具]
- HP への環境適合製品の登録 [建設機械]
- Web 公開
- グループ本社 of 環境部門の審査
- タイプ I 環境ラベル適用認定の取得、環境配慮型製品を対象に実施される表彰制度に応募 [情報通信機器]
- ユーザによる監査
- ラベル [情報通信機器]
- 営業部門による個別調査
- 環境関連物質管理委員会での評価 [電子部品・デバイス]
- 客先の評価を適当な機会に聴取
- 業界 (監督官庁含む) への結果報告 [自動車]
- 顧客の声を伺う
- 市場評価 (主に耐久性、分解性に関するユーザー評価を独自に確認)
- 市場平均値との比較
- 自社および工業会のホームページにおける情報公開 [家電]
- 自社基準による評価および実績の把握による評価
- 自主および業界団体 [電気機械器具]
- 重点顧客満足度調査
- 省エネセンター
- 親会社による監査
- 超硬工具協会 環境委員会に認定依頼
- 通信事業者によるチェック
- 納入先への報告
- 売上
- 要求される性能確認

■ 業種ごとの集計

業種ごとの集計結果を表 2-17 に示す

表 2-17：環境配慮設計の外部評価の方法

	コーザンケート	モニター調査	第三者評価、 認証機関の利用	その他	サンプル数
化学品	20.0%	6.7%	60.0%	33.3%	15
家具	33.3%	0.0%	50.0%	16.7%	6
家電	37.5%	12.5%	12.5%	50.0%	8
機械工具	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	4
機械部品	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	3
金属製品	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	2
金属素材	20.0%	0.0%	80.0%	20.0%	5
建設機械	11.1%	11.1%	44.4%	22.2%	9
工作機械	20.0%	10.0%	10.0%	40.0%	10
産業機械	13.3%	6.7%	26.7%	26.7%	15
自動車	50.0%	50.0%	37.5%	37.5%	8
自動車部品	8.7%	0.0%	34.8%	26.1%	23
情報通信機器	3.8%	0.0%	38.5%	34.6%	26
精密機器	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	5
電気機械器具	15.6%	6.3%	34.4%	40.6%	32
電子部品・デバイス	23.1%	0.0%	23.1%	46.2%	13
文房具・事務用品	0.0%	0.0%	80.0%	10.0%	10
無機素材	20.0%	0.0%	80.0%	0.0%	5
輸送用機械器具	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	4

2.6. 取引先との要望のやり取り

取引先との要望のやり取りは設計上の制約として反映されることになる。具体的にどのような要求事項がやり取りされているかを把握する。

2.6.1. セットメーカーからサプライヤへの要求

セットメーカーからの要求はサプライヤにとって大きな制約条件になる。環境配慮に関してどのような要求があるかを把握するため、次の問と選択肢を設定した。

(セットメーカーに対して)

環境配慮設計に関連して、サプライヤへどのような要求を出していますか？

(サプライヤに対して)

環境配慮設計に関連して、納入先（アセンブリメーカー、セットメーカー）からどのような要求がありますか。

1. 環境負荷物質の不使用（非含有証明書（自己宣言）の提出）
2. 環境負荷物質の不使用（非含有を証明する分析データの提出）
3. 使用材料の成分データの提出
4. 製造工程の LCA データの提出
5. MSDS などの提出
6. ISO 14001、エコアクション 21 などの環境マネジメントシステムの導入
7. 自社の環境配慮設計に関する基準、ガイドラインへの適合
99. その他

集計結果を表 2-18、図 2-21 に示す。

表 2-18 : セットメーカーからサプライヤへの要求

		環境負荷物質の不使用 (非含有証明書(自己宣言)の提出)	環境負荷物質の不使用 (非含有を証明する分析データの提出)	使用材料の成分データの提出	製造工程の LCA データの提出	MSDS などの提出	ISO 14001、エコアクション 21 などの 環境マネジメントシステムの導入	自社の環境配慮設計に関する基準、 ガイドラインへの適合	その他
セットメーカー (回答数 : 159)	合計	102	80	77	6	101	67	57	11
	選択率	64.2%	50.3%	48.4%	3.8%	63.5%	42.1%	35.8%	6.9%
サプライヤ (回答数 : 93)	合計	75	76	68	20	55	61	34	3
	選択率	80.6%	81.7%	73.1%	21.5%	59.1%	65.6%	36.6%	3.2%

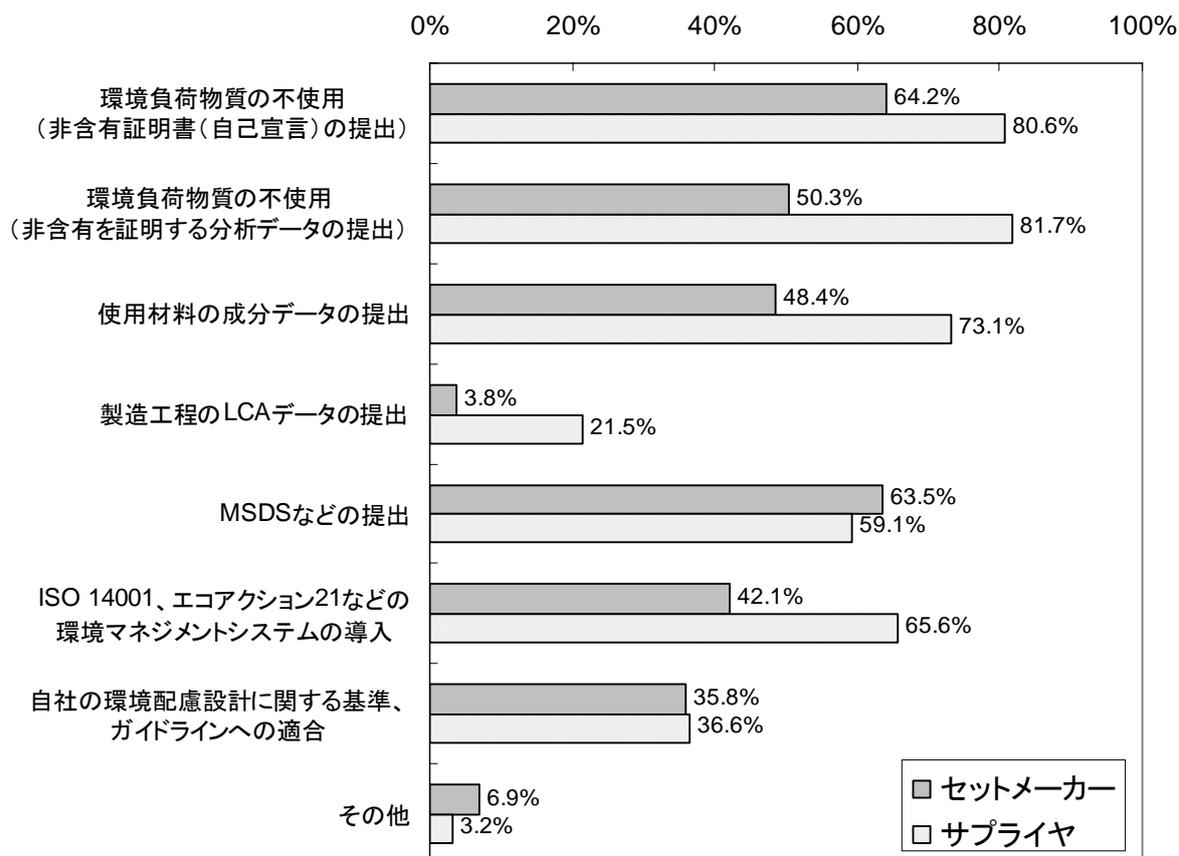


図 2-21 : セットメーカーからサプライヤへの要求

回答選択率からは、全般的にセットメーカーが認識しているサプライヤへの要求よりも、サプライヤがセットメーカーから要求されていると認識している割合のほうが大きいようである。

■ 業種別の集計

業種別の集計結果を表 2-19 に示す。

表 2-19 (1) : セットメーカーからサプライヤへの要求 (セットメーカーの回答、業種別)

	環境負荷物質の不使用 (非含有証明書 (自己宣言) の提出)	環境負荷物質の不使用 (非含有を証明する分析データの提出)	使用材料の成分データの提出	製造工程の LCA データの提出	MSDS などの提出	ISO 14001、エコアクション 21 などの 環境マネジメントシステムの導入	自社の環境配慮設計に関する基準、 ガイドラインへの適合	その他	サンプル数
化学品	75.0%	50.0%	75.0%	25.0%	100.0%	50.0%	50.0%	25.0%	4
家具	60.0%	60.0%	60.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	5
家電	62.5%	75.0%	62.5%	12.5%	75.0%	87.5%	37.5%	12.5%	8
機械工具	100.0%	25.0%	75.0%	0.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%	4
機械部品	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	2
金属製品	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
金属素材	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	3
建設機械	50.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	10
工作機械	16.7%	16.7%	25.0%	0.0%	25.0%	16.7%	25.0%	16.7%	12
産業機械	64.3%	35.7%	28.6%	0.0%	57.1%	7.1%	7.1%	14.3%	14
自動車	87.5%	37.5%	75.0%	12.5%	87.5%	100.0%	37.5%	0.0%	8
自動車部品	50.0%	100.0%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	4
情報通信機器	85.2%	81.5%	40.7%	3.7%	55.6%	70.4%	66.7%	3.7%	27
精密機器	60.0%	80.0%	80.0%	0.0%	100.0%	60.0%	80.0%	0.0%	5
電気機械器具	69.2%	53.8%	50.0%	0.0%	69.2%	42.3%	26.9%	7.7%	26
電子部品・デバイス	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	25.0%	50.0%	0.0%	4
文房具・事務用品	50.0%	30.0%	50.0%	0.0%	90.0%	0.0%	30.0%	0.0%	10
輸送用機械器具	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	75.0%	50.0%	50.0%	0.0%	4

表 2-19 (2) : セットメーカーからサプライヤへの要求 (サプライヤの回答、業種別)

	環境負荷物質の不使用 (非含有証明書 (自己宣言) の提出)	環境負荷物質の不使用 (非含有を証明する分析データの提出)	使用材料の成分データの提出	製造工程の LCA データの提出	MSDS などの提出	ISO 14001、エコアクション21などの 環境マネジメントシステムの導入	自社の環境配慮設計に関する基準、 ガイドラインへの適合	その他	サンプル数
化学品	75.0%	81.3%	81.3%	18.8%	87.5%	81.3%	18.8%	0.0%	16
家電	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	2
機械工具	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
機械部品	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	2
金属製品	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	2
金属素材	100.0%	100.0%	75.0%	50.0%	100.0%	75.0%	75.0%	0.0%	4
産業機械	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	2
自動車	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
自動車部品	71.4%	81.0%	71.4%	19.0%	42.9%	61.9%	28.6%	4.8%	21
情報通信機器	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	2
精密機器	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	1
電気機械器具	87.5%	75.0%	62.5%	18.8%	50.0%	62.5%	37.5%	6.3%	16
電子部品・デバイス	100.0%	100.0%	90.9%	36.4%	54.5%	72.7%	45.5%	0.0%	11
文房具・事務用品	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	1
無機素材	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	75.0%	50.0%	0.0%	4
輸送用機械器具	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1

2.6.2. セットメーカーからサプライヤへの要望で達成されにくいもの

セットメーカーからサプライヤへの要望が達成されているかどうかを検討するため、セットメーカー、サプライヤそれぞれに聞いた。

(セットメーカーに対して)

サプライヤへの要望で達成されにくいものはありますか。

(サプライヤに対して)

納入先からの要望で達成が困難なものはありますか。

1. 環境負荷物質の不使用（非含有証明書（自己宣言）の提出）
2. 環境負荷物質の不使用（非含有を証明する分析データの提出）
3. 使用材料の成分データの提出
4. 製造工程の LCA データの提出
5. MSDS などの提出
6. ISO 14001、エコアクション 21 などの環境マネジメントシステムの導入
7. 自社の環境配慮設計に関する基準、ガイドラインへの適合
99. その他

■ 集計結果（全体）

集計結果を表 2-20、図 2-22 に示す。

表 2-20：セットメーカーからサプライヤへの要望で達成されにくいもの、しにくいもの

		環境負荷物質の不使用 (非含有証明書（自己宣言）の提出)	環境負荷物質の不使用 (非含有を証明する分析データの提出)	使用材料の成分データの提出	製造工程の LCA データの提出	MSDS などの提出	ISO 14001、エコアクション 21 などの 環境マネジメントシステムの導入	自社の環境配慮設計に関する基準、 ガイドラインへの適合	その他
セットメーカー (148)	合計	27	84	55	27	10	22	15	9
	選択率	18.2%	56.8%	37.2%	18.2%	6.8%	14.9%	10.1%	6.1%
サプライヤ (84)	合計	5	20	27	25	2	1	7	9
	選択率	6.0%	23.8%	32.1%	29.8%	2.4%	1.2%	8.3%	10.7%

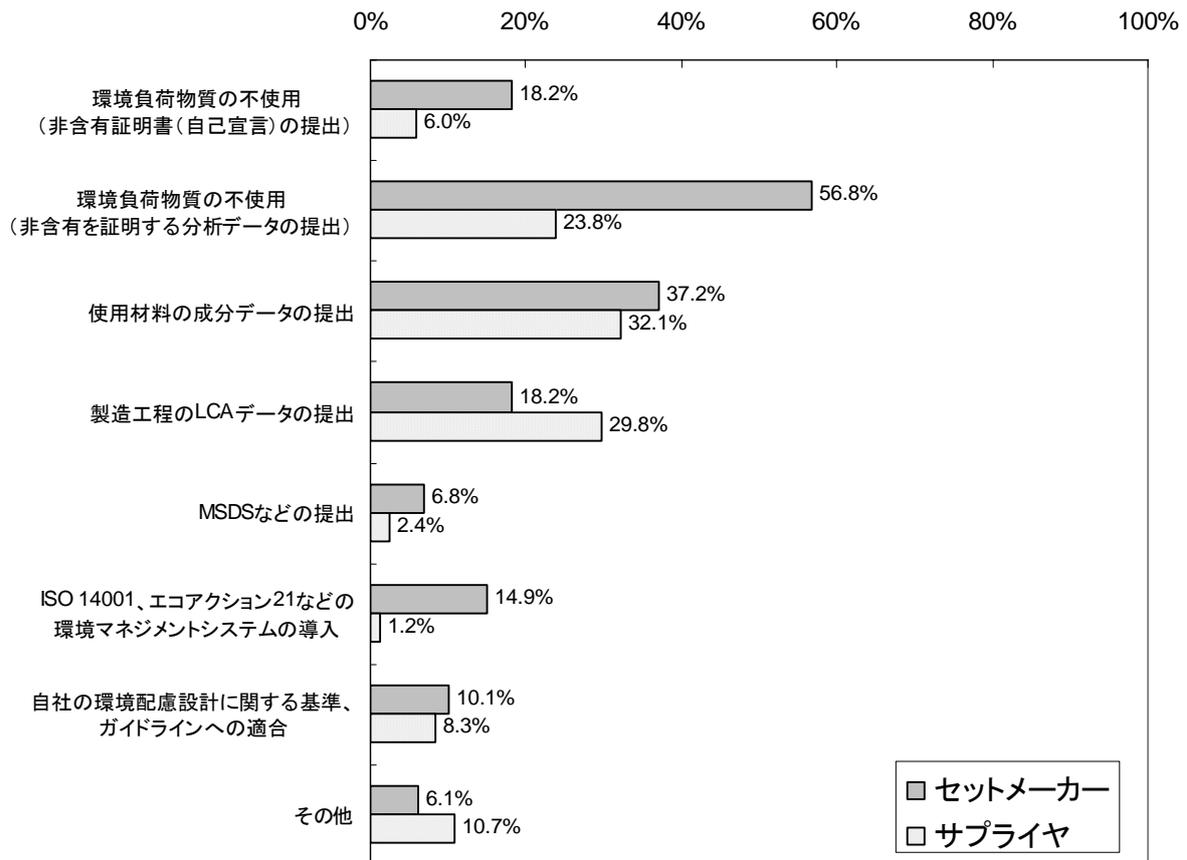


図 2-22 : セットメーカーからサプライヤへの要望で達成されにくいもの、しにくいもの

- 製品含有の環境負荷物質に関する要望に関するものが多いことがわかるが、要求事項への対応状況の認識にセットメーカーとサプライヤでずれがあるようである。
- LCA については、セットメーカーの期待するレベル以上にサプライヤが対応しているということか。

■ 業種別の集計

業種別の集計結果を表 2-21 に示す。

表 2-21：セットメーカーからサプライヤへの要望で達成されにくいもの、しにくいもの
(業種別、セットメーカー)

	環境負荷物質の不使用 (非含有証明書(自己宣言)の提出)	環境負荷物質の不使用 (非含有を証明する分析データの提出)	使用材料の成分データの提出	製造工程の LCA データの提出	MSDS などの提出	ISO 14001、エコアクション 21 などの 環境マネジメントシステムの導入	自社の環境配慮設計に関する基準、 ガイドラインへの適合	その他	サンプル数
化学品	0.0%	50.0%	75.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	4
家具	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	4
家電	12.5%	87.5%	37.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	8
機械工具	50.0%	50.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4
機械部品	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	2
金属製品	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
金属素材	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	3
建設機械	12.5%	12.5%	0.0%	25.0%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%	8
工作機械	18.2%	36.4%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	11
産業機械	28.6%	57.1%	28.6%	21.4%	7.1%	21.4%	14.3%	14.3%	14
自動車	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	7
自動車部品	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	4
情報通信機器	7.7%	80.8%	42.3%	7.7%	0.0%	15.4%	19.2%	0.0%	26
精密機器	40.0%	60.0%	100.0%	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	5
電気機械器具	26.1%	69.6%	43.5%	13.0%	13.0%	13.0%	4.3%	8.7%	23
電子部品・デバイス	25.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	4
文房具・事務用品	0.0%	55.6%	22.2%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9
輸送用機械器具	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	4

表 2-22 : セットメーカーからサプライヤへの要望で達成されにくいもの、しにくいもの
(業種別、サプライヤ)

	環境負荷物質の不使用 (非含有証明書(自己宣言)の提出)	環境負荷物質の不使用 (非含有を証明する分析データの提出)	使用材料の成分データの提出	製造工程のLCAデータの提出	MSDSなどの提出	ISO 14001、エコアクション21などの 環境マネジメントシステムの導入	自社の環境配慮設計に関する基準、 ガイドラインへの適合	その他	サンプル数
化学品	0.0%	37.5%	43.8%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	16
家電	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
機械部品	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
金属製品	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
金属素材	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	1
産業機械	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
自動車	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
自動車部品	0.0%	10.0%	15.0%	10.0%	5.0%	0.0%	5.0%	25.0%	20
情報通信機器	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2
精密機器	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
電気機械器具	6.3%	25.0%	37.5%	50.0%	6.3%	0.0%	12.5%	6.3%	16
電子部品・デバイス	10.0%	30.0%	30.0%	30.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10
文房具・事務用品	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	1
無機素材	0.0%	25.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	4
輸送用機械器具	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1

2.6.3. サプライヤからセットメーカーへの要望、提案の有無

セットメーカーからサプライヤへの一方的なものなのか、サプライチェーン全体での環境配慮推進の可能性があるかを把握するため、サプライヤからセットメーカーへの要望、提案があるかを聞いた。

- a-3. サプライヤから環境配慮設計の要望や提案を受けることはありますか。ある場合には、その内容をご記入ください。
- b-3. 納入先（アセンブリメーカー、セットメーカー）に対し、要望や提案を出すことはありますか。ある場合には、内容をご記入ください。

■ 集計

サプライヤからセットメーカーへの要望、提案の有無の集計結果を表 2-23、図 2-23 に示す。

表 2-23 : サプライヤからセットメーカーへの要望、提案の有無

回答	セットメーカー		サプライヤ	
	回答数	選択率	回答数	選択率
ある	43	28.5%	22	24.2%
ない	88	58.3%	53	58.2%
(記入なし)	20	13.2%	16	17.6%
合計	151		91	

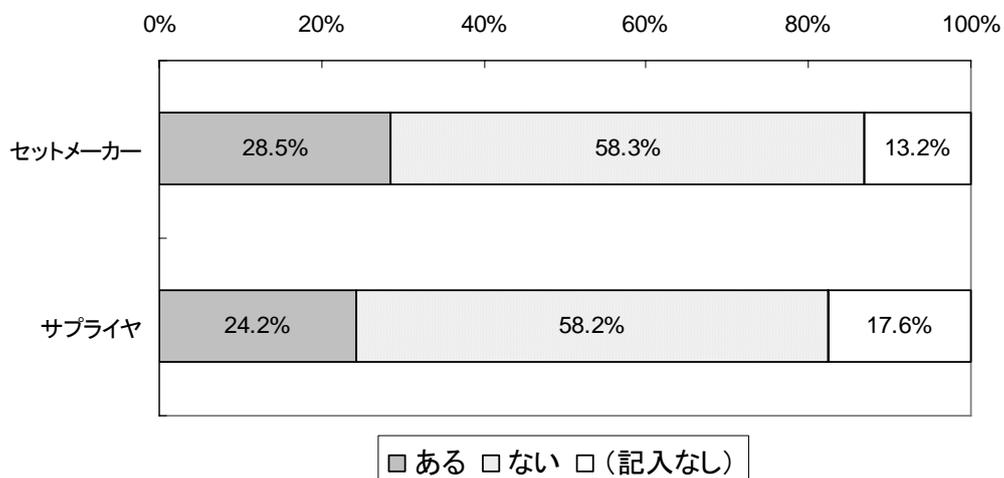


図 2-23 : サプライヤからセットメーカーへの要望、提案の有無

■ 提案内容

提案、要望の具体的な内容について、ここでは環境負荷物質の含有調査関連以外のものを記載する。

(セットメーカーの回答)

- 有害物質の廃止
- 環境負荷の少ない材料の採用（例：6価クロムフリーのボルト採用、鉛フリーの塗料）
- 環境配慮型設計に関する情報、ツール、教育の提供
- 環境負荷低減材料の紹介
- 部品などの代替を求められる。
- 環境負荷物質の不使用、環境法規制への対応（情報開示、表示等）
- 代替品の情報提供を求められることがある。
- 装備品内のうち、電気機器でのヨーロッパ規制の対応状況の説明
- 省エネに関する提案
- 6価クロムめっきから3価クロムめっきへの切り替え要求
- 鉛の使用量削減（ロー付けラジエターのアルミ化）
- 有害物質不使用のため材料・製法の変更
- 樹脂成形品の材料表示等
- 調達コストへの反映
- 省燃費、省エネルギー技術に関する提案（部品/ユニット） etc.
- 環境負荷物質の先行削減提案
- 自動車等での使用部品・共通製造工程での部品の変更提案等
- 低消費電力部品、RoHS 対応部品等の提案
- 省エネ仕様の採用、材料、梱包仕様の改善
- ノンアスベスト材への変更、防錆処理の変更（非6価クロム化）
- 環境負荷物質を含まない部品の提案等。（ISO14001,他の取り組み協力を要望するなど）

(サプライヤの回答)

- 高効率、省エネタイプの提案
- 納入先の国内と海外法人との要求事項に対する整合化
- 市場動向に依る、新規の環境配慮材料、部品の提案
- VA 提案
- 基本的に受注ありきだが、選択肢の中で環境配慮設計型のアイデアを盛り込んで選んで頂くように提案活動している。また、当社の製造上の都合などで摺り合わせて頂くように要望することもある。
- 関連する法規が改正あるいは制定された場合にその対応方法についての提案や要望
- 環境に配慮したサービスの提案（環境配慮型印刷サービス）
- 環境低負荷材の VE 提案
- 環境負荷物質製品排除のため、材質、材料変更申請

2.7. 情報提供

環境配慮設計に関する情報提供の有無、その内容（項目）、方法について、現状、事業者からどのような情報提供があるのかを把握する。

2.7.1. 取引先への情報提供

(1) 情報提供の有無

取引先への環境配慮設計に関する情報提供の有無の集計結果を表 2-24、図 2-24 に示す。

表 2-24：取引先への情報提供

		情報提供の有無			合計
		あり	なし	(回答なし)	
全体	回答数	185	41	12	238
	割合	77.7%	17.2%	5.0%	
サプライヤ / 素材	回答数	12	0	0	12
	割合	100.0%	0.0%	0.0%	
サプライヤ / 部品・コンポーネント	回答数	63	8	2	73
	割合	86.3%	11.0%	2.7%	
セットメーカー / 自社ブランド	回答数	101	25	8	134
	割合	75.4%	18.7%	6.0%	
セットメーカー / OEM	回答数	38	4	1	43
	割合	88.4%	9.3%	2.3%	

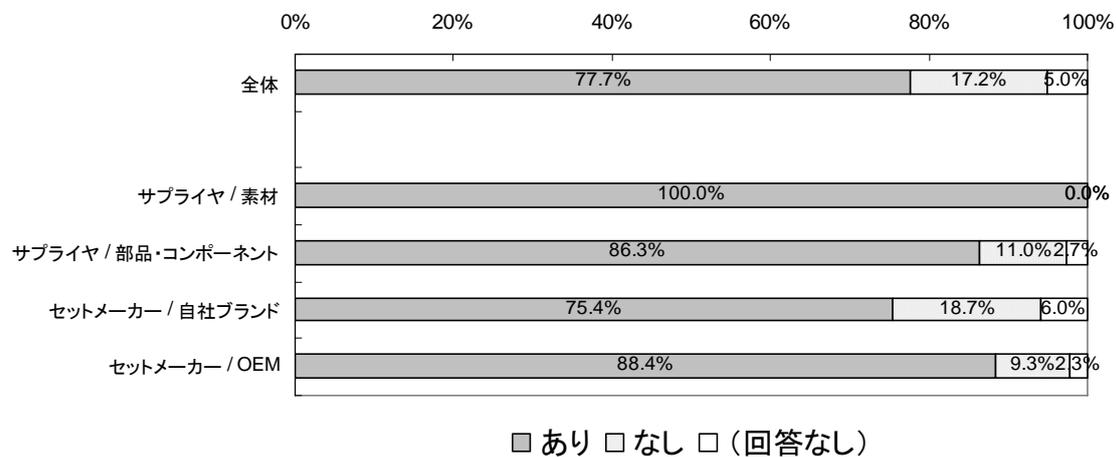


図 2-24：取引先への情報提供

部品やコンポーネントを供給するサプライヤ、製品を相手先ブランドで生産する OEM では取引先への情報提供をしているという回答が多い。

2.7.2. 一般消費者への情報提供

(1) 情報提供の有無

一般消費者への情報提供の有無についての集計結果を表 2-25、図 2-25 に示す。

表 2-25：一般消費者への情報提供

		情報提供の有無			合計
		あり	なし	(回答なし)	
全体	回答数	104	119	12	235
	割合	44.3%	50.6%	5.1%	
サプライヤ / 素材	回答数	3	9	0	12
	割合	25.0%	75.0%	0.0%	
サプライヤ / 部品・コンポーネント	回答数	24	43	4	71
	割合	33.8%	60.6%	5.6%	
セットメーカー / 自社ブランド	回答数	82	46	5	133
	割合	61.7%	34.6%	3.8%	
セットメーカー / OEM	回答数	21	19	3	43
	割合	48.8%	44.2%	7.0%	

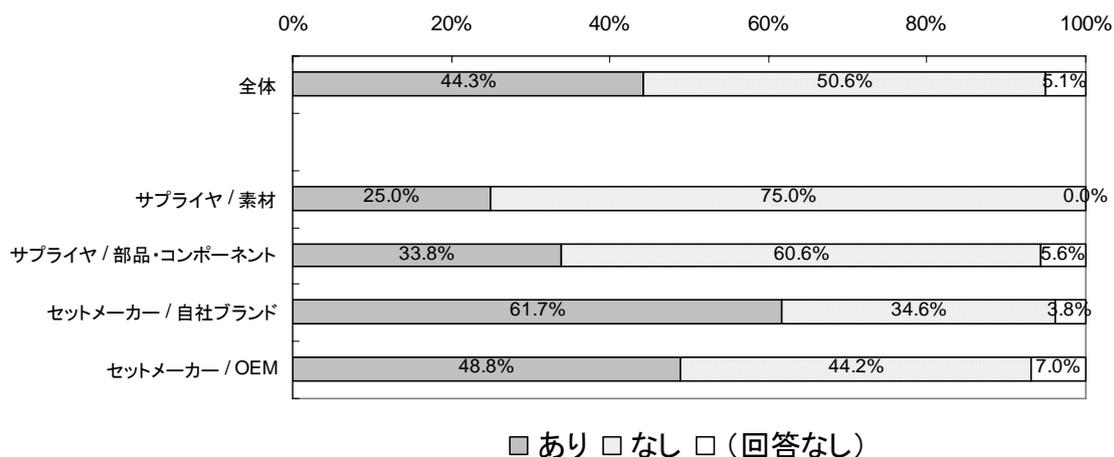


図 2-25：一般消費者への情報提供

- 自社ブランドで製造しているセットメーカーでは、一般消費者への情報提供をしていると回答している事業者の割合が大きいが、それでも 61.7%にとどまる。

(2) 情報提供の内容、方法、媒体

■ 内容

一般消費者への情報提供の内容について表 2-26、図 2-25 に示す。

表 2-26：一般消費者への情報提供（内容）

選択肢	回答数	選択率
(選択なし)	8	7.7%
リサイクル可能率	12	11.5%
製品含有の有害物質、材料の構成成分	52	50.0%
体積、重量の削減量	25	24.0%
物理的な寿命	18	17.3%
再生材料使用率	16	15.4%
省エネルギー性能、エネルギー利用効率	57	54.8%
製品使用時の環境負荷（有害物質排出など）	28	26.9%
製造時の環境負荷（有害物質使用量、エネルギー消費量など）	24	23.1%
ライフサイクル全体でのエネルギー消費量、温室効果ガス排出量・削減量	21	20.2%
修理・アップグレードの方法	23	22.1%
回収・リサイクルの方法	35	33.7%
その他	14	13.5%

(集計に用いたサンプル数 104)

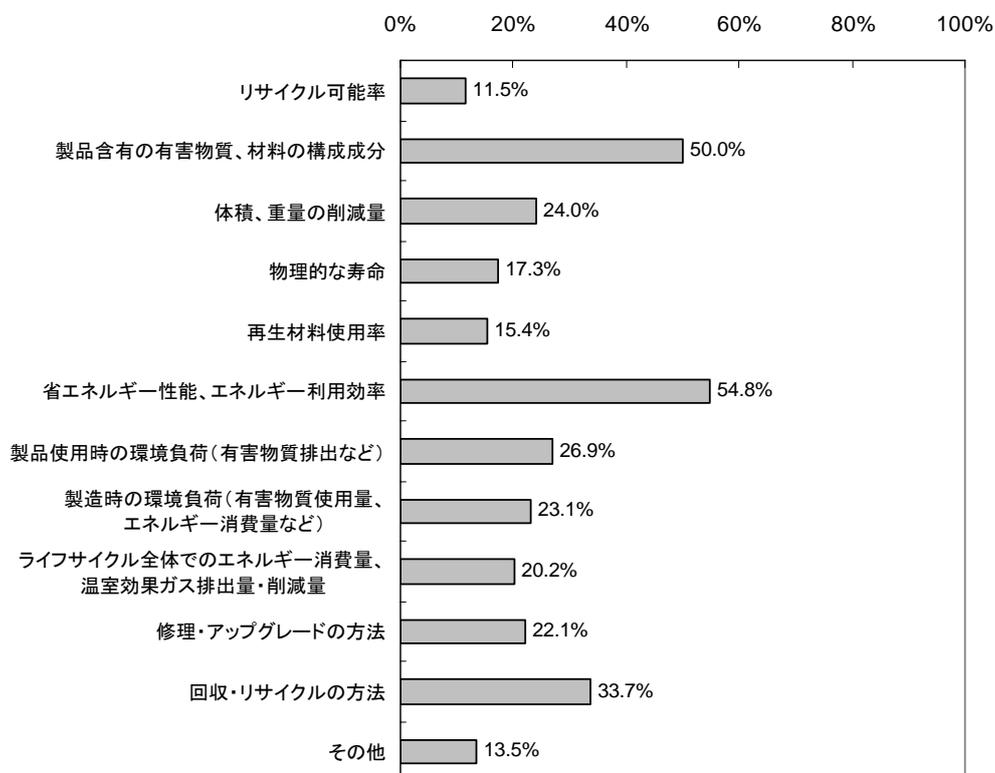


図 2-26：一般消費者への情報提供（内容）

有害物質、省エネルギーに関する情報提供が多い。ただし、こうした情報が一般消費者が求めている情報と完全に一致しているわけではない。

■ 方法

一般消費者への情報提供のほうほうについて、集計結果を表 2-27、図 2-27 に示す。

表 2-27：一般消費者への情報提供（方法）

選択肢	回答数	選択率
項目、数値の記載	61	58.7%
環境ラベル（エコラベル）の取得と表示	34	32.7%
法令に従ったマークの表示	36	34.6%
業界基準、標準規格などに従ったマークの表示	33	31.7%
第三者の証明書、認定書の添付	8	7.7%
MSDS	4	3.8%
自己宣言	34	32.7%
その他	11	10.6%

（集計に用いたサンプル数 104）

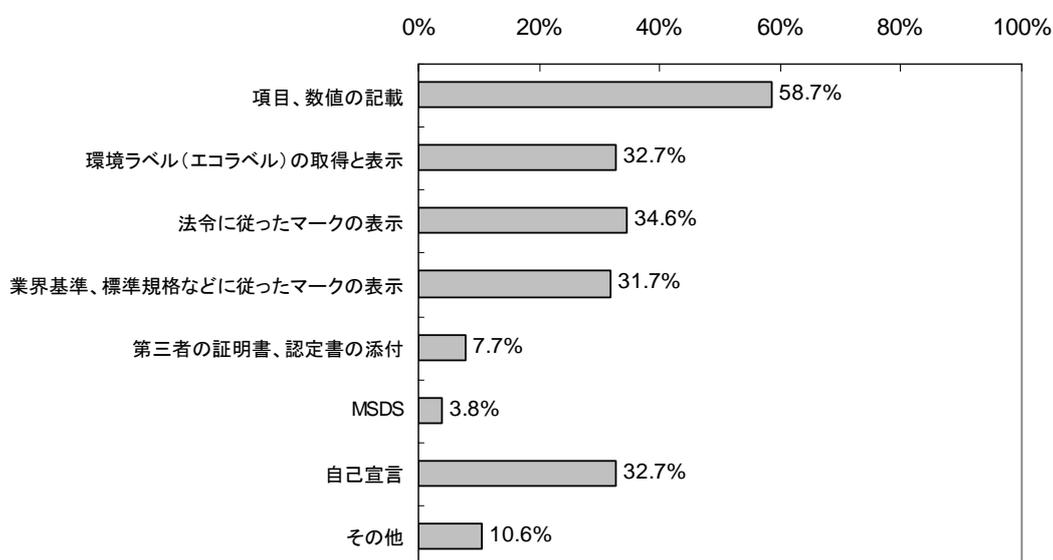


図 2-27：一般消費者への情報提供（方法）

項目や数値を直接記載する人が多いようである。また、環境ラベル、法令に従ったマークなどの利用も 1/3 の割合で選択されている。

■ 媒体

一般消費者への情報提供の媒体について表 2-28、図 2-28 に示す。

表 2-28：一般消費者への情報提供（媒体）

選択肢	回答数	選択率
環境報告書（CSR 報告書、サステナビリティレポート）	50	48.1%
製品カタログ	59	56.7%
自社ウェブページ	67	64.4%
広告（雑誌、新聞、ウェブサイトなど）	12	11.5%
CM（TV、ラジオ）	3	2.9%
製品本体（ラベルの表示）	31	29.8%
包装、パッケージ	19	18.3%
製品付属の取扱説明書	29	27.9%
その他	8	7.7%

（集計に用いたサンプル数 104）

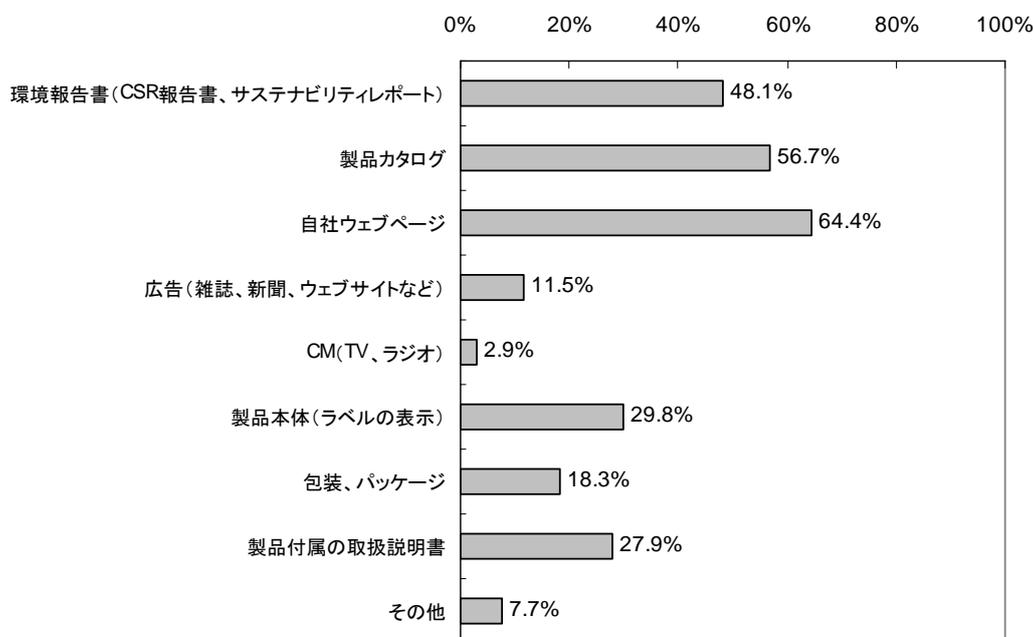


図 2-28：一般消費者への情報提供（媒体）

ウェブページ、カタログ、環境報告書を利用しているが、広告や CM は用いられていないようである。これは一般消費者の求めている媒体とずれている。

2.7.3. 回収・リサイクル業者への情報提供

(1) 情報提供の有無

回収・リサイクル業者への情報提供の有無についての集計結果を表 2-29、図 2-29 に示す。

表 2-29 : 回収・リサイクル業者への情報提供

		情報提供の有無			合計
		あり	なし	(回答なし)	
全体	回答数	92	150	24	266
	割合	34.6%	56.4%	9.0%	
サプライヤ / 素材	回答数	7	5	0	12
	割合	58.3%	41.7%	0.0%	
サプライヤ / 部品・コンポーネント	回答数	19	46	4	69
	割合	27.5%	66.7%	5.8%	
セットメーカー / 自社ブランド	回答数	50	69	15	134
	割合	37.3%	51.5%	11.2%	
セットメーカー / OEM	回答数	15	24	4	43
	割合	34.9%	55.8%	9.3%	

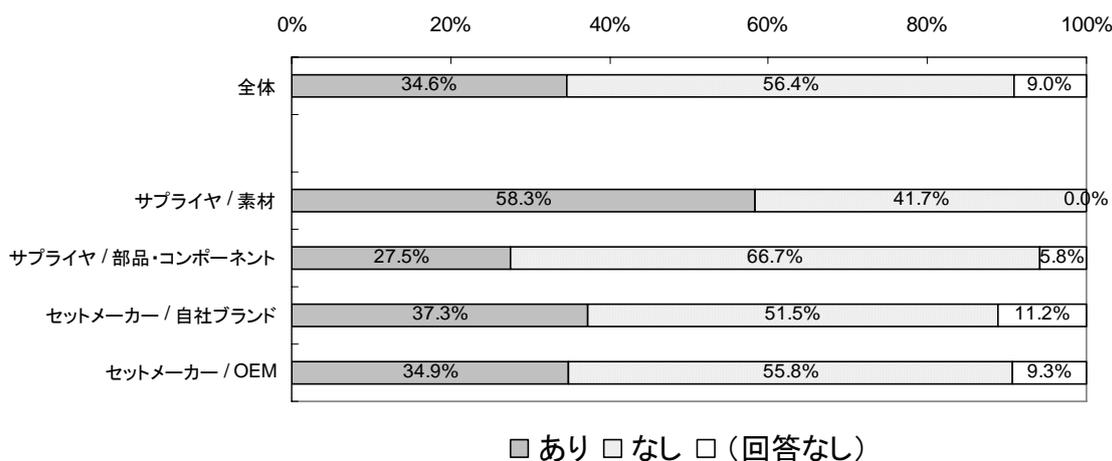


図 2-29 : 回収・リサイクル業者への情報提供

リサイクル業者へはあまり情報提供がなされていない。「サプライヤ / 素材」は他の区分に比べて情報提供をしているという回答が高い比率であるが、組立関連のメーカーでの環境配慮設計に関する回収・リサイクル業者への情報提供は、リサイクルの効率化、資源の有効利用のため、J-Moss や材質表示などの有効利用も含め、今後より積極的に取り組むべき課題であろう。

2.7.4. 従業員への情報提供

(1) 情報提供の有無

従業員への情報提供の有無についての集計結果を表 2-30、図 2-30 に示す。

表 2-30：従業員への情報提供

		情報提供の有無			合計
		あり	なし	(回答なし)	
全体	回答数	161	85	17	263
	割合	61.2%	32.3%	6.5%	
サプライヤ / 素材	回答数	8	3	0	11
	割合	72.7%	27.3%	0.0%	
サプライヤ / 部品・コンポーネント	回答数	40	27	3	70
	割合	57.1%	38.6%	4.3%	
セットメーカー / 自社ブランド	回答数	86	35	11	132
	割合	65.2%	26.5%	8.3%	
セットメーカー / OEM	回答数	23	16	3	42
	割合	54.8%	38.1%	7.1%	

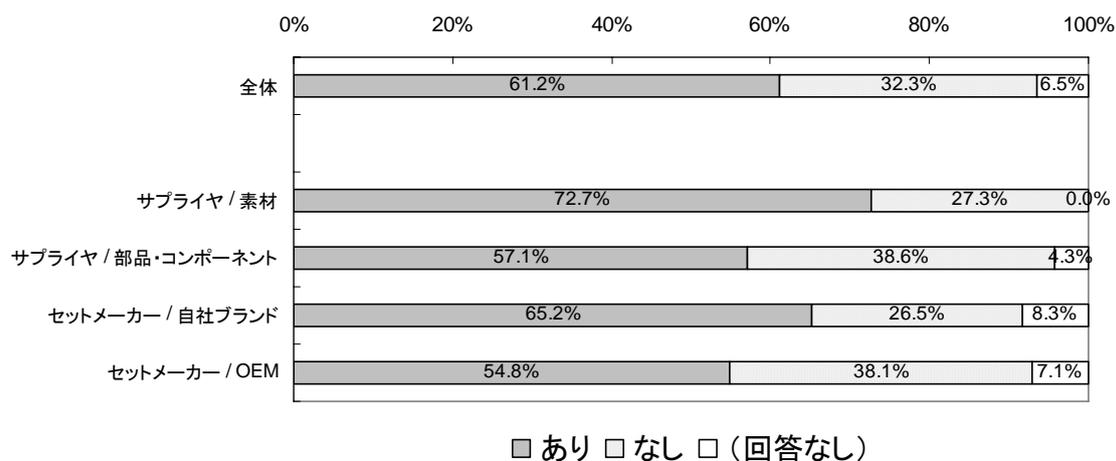


図 2-30：従業員への情報提供

2.8. 環境配慮設計を行っていない場合

2.8.1. 環境配慮設計を行っていない理由

環境配慮設計を行っていない事業者に対し、その理由を聞いた。

環境配慮設計を行わない理由としてあてはまるものを選択してください。

1. 必要性を感じないから。
2. 仕様どおりに製造するため、環境の入り込む余地がない。
3. コストの制約から、環境の入り込む余地がない。
4. 環境よりも性能や意匠面が重視される。
99. その他 ()

集計結果を表 2-31 に示す。

表 2-31：環境配慮設計を行っていない理由

選択肢	回答数	選択率
必要性を感じないから。	4	25.0%
仕様どおりに製造するため、環境の入り込む余地がない。	4	25.0%
コストの制約から、環境の入り込む余地がない。	3	18.8%
環境よりも性能や意匠面が重視される。	3	18.8%
その他	3	18.8%
回答者数	16	

環境配慮設計を行っていないと回答した事業者数（16）は、今回のアンケート調査の回答者数（224）の 7.1%である。その他のうち 1 件は「環境配慮設計の取り組みを始めたばかり」と回答している。全般的に環境配慮設計は進んでいると考えることができる。

環境配慮設計を行っていない理由として、特に目立つものはない。また、環境配慮設計を行っていない事業者が特定の業種に偏っているわけでもなかった。

2.8.2. どのようなメリットがあれば環境配慮設計に取り組むか

環境配慮設計を行っていない事業者に対し、取り組むためのインセンティブとなりうるメリットについて聞いた。

どのようなメリットがあれば環境配慮設計に取り組みますか。

1. 環境への取り組みが消費者の購買動機となる。
2. 環境への取り組みを行うことにより税制優遇措置がある。
3. 環境への取り組みによって価格が上乗せできる。
99. その他 ()

集計結果を表 2-32 に示す。

表 2-32：どのようなメリットがあれば環境配慮設計に取り組むか

選択肢	回答数	選択率
環境への取り組みが消費者の購買動機となる。	6	42.9%
環境への取り組みを行うことにより税制優遇措置がある。	4	28.6%
環境への取り組みによって価格が上乗せできる。	4	28.6%
その他	2	14.3%
回答者数	14	

消費者の購買の動機となれば取り組むとしている事業者が 42.9%である。事業者の立場から見て、環境配慮設計が一般消費者の購買動機の大きな要素になっていないと考えているところがあるという見方ができる。

昨年度のヒアリングでは、業界で一斉に取組みを始めないと取り組んでいるところがコスト的に不利になるのではないかというコメントもあったが、製品のタイプによっては環境配慮設計の取組みが販売増に結びつかないものもある。そのような場合には、環境負荷を低減していくためには、社会的な仕組みが必要になると考えられる。

2.9. まとめ

環境配慮設計の目標設定やプロセスは、サプライチェーンの位置づけでも違いが見られるが、業種とそこでのセットメーカー、サプライヤの区分によってより大きな違いが見られる。調査対象を組立製品としたが、最終製品では目標設定で自由度があり、家電や自動車などのセットメーカーではライフサイクル全体をとらえての目標設定、評価指標の設定が行われている。

素材、部品系のメーカーでは、製造時の環境負荷への配慮もなされているが、セットメーカーでは製造時よりも使用時やライフサイクル全体への配慮がより大きな割合を占めるようである。但し、使用時にエネルギーを使わない家具や文房具では、製造時への配慮がなされている。セットメーカーが設定する環境配慮設計のターゲットや法令による規制をもとにした要求仕様がサプライヤに伝えられ、サプライヤは要求仕様としてその要求を満たすことで最終製品での環境負荷低減に寄与しているという構図になっているようであり、環境配慮設計の自由度が限定されている。

ツールに関しては、多くの業種で製品アセスメントが用いられている。また、RoHS 指令や資源有効利用促進法の省令改正と J-Moss から材料の含有化学物質のデータベースも広く用いられている。ライフサイクルアセスメントは、家電や情報機器の分野での利用の割合が他の業種に比べて大きいですが、全体的には十分に利用されていないようである。

一般消費者への情報提供については、目標とした評価指標の数値や説明をウェブページ、カタログ、環境報告書を中心に提供している。製品含有の化学物質、省エネルギー性能などを中心に情報を提供している。回収やリサイクルの方法も情報提供し、資源循環の促進に貢献している。

3. 環境配慮設計に関する情報共有

消費者、製造業者へのアンケート調査により、環境配慮設計、製品の環境特性について、一般消費者がどのような情報を求め、また製造業者がどのような情報提供を行っているかを調べた。

情報提供の内容については、製品の省エネルギー性能については消費者の要望と製造業者の提供が一致している。事業者はこのほかに製品含有の環境負荷物質についても積極的に情報提供を行っているが、一般消費者はこの点にはあまり配慮していないようである。消費者は製品にもよるが、エコマークのようなエコラベルやマークの表示を判断基準と考えているようであるが、これらの情報が製造業者から十分に提供されているとは限らない。

情報提供の方法については、一般消費者は CM や広告による情報提供を求めているが、製造業者はウェブページ、カタログ、環境報告書を中心に考えており、現状情報提供の方法、媒体にずれがある。消費者が CM や広告でのイメージだけではなく、もう一步踏み込んで製品の環境配慮設計に関する情報を得るようになることが望まれる。一方で製造業者は消費者が製品購買時に求めている内容、提供方法を検討することも必要であろう。

第 II 部 環境配慮設計に関するキーワード の使用状況

1. 環境配慮設計に関連するキーワード

以下のキーワードの出現状況を調べる。

キーワード
環境配慮設計
環境調和設計
エコデザイン
DfE、Design for Environment
ECD、Environmentally Conscious Design
ライフサイクル設計
ライフサイクルデザイン
ライフサイクルシンキング
環境配慮製品（商品）
環境配慮型製品（商品）
エコプロダクト、エコプロダクツ
グリーンプロダクト、グリーンプロダクツ
ライフサイクルアセスメント
Life Cycle Assessment、LCA
エコ・エフィシェンシー、環境効率
ファクター（ファクターXなど）
エコラベル
エコマーク
エコリーフ
J-Moss
EuP 指令
RoHS 指令
WEEE 指令

2. 環境報告書におけるキーワード出現状況

インターネットで公開している企業の報告書でキーワードの使用の有無を調べた。環境報告書、社会環境報告書、CSR報告書、サステナビリティレポートなど、環境に関する活動が記載されている報告書を対象とし、「環境報告書プラザ¹」、「社会・環境報告書データベース²」に掲載されているものを検索対象とした。また、過去の調査のデータも利用し、2004年度、2005年度、2006年度の各報告書でのキーワード使用状況をまとめる。

2.1. 概況

調査対象のプロフィール

環境報告書（CSR報告書、サステナビリティ報告書、社会・環境報告書などを含む。サンプル数 525）におけるキーワードの出現状況を調査した。表 2-1 にサンプルの業種の構成を示す。

表 2-1：調査対象の業種

業種	サンプル数	業種	サンプル数
農業	4	製造業	1
林業	3	電気機械器具製造業	25
漁業	0	輸送用機械器具製造業	32
鉱業	3	家具・装備品製造業	9
建設業	33	飲料・たばこ・飼料製造業	17
電気・ガス・熱供給・水道業	19	情報通信機械器具製造業	20
情報通信業	17	金属製品製造業	14
運輸業	17	食料品製造業	30
卸売・小売業	31	精密機械器具製造業	24
金融・保険業	10	化学工業	77
不動産業	3	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	5
飲食店・宿泊業	3	鉄鋼業	10
医療、福祉	0	ゴム製品製造業	5
教育、学習支援行	1	窯業・土石製品製造業	13
複合サービス事業	3	木材・木製品製造業(家具を除く)	2
サービス業(他に分類されないもの)	8	衣服・その他の繊維製品製造業	5
公務(他に分類されないもの)	2	一般機械器具製造業	26
独立行政法人	1	その他の製造業	7
分類不能の産業	1	電子部品・デバイス製造業	26
		印刷・同関連業	8
		非鉄金属製造業	6
		パルプ・紙・紙加工品製造業	8
		繊維工業(衣服、その他の繊維製品を除く)	4
		石油製品・石炭製品製造業	4
		合計	537

(注) サンプル数は 525 であるが、複数の業種に属する企業があるため、合計値はサンプル数より大きくなっている

¹ <http://www.ecosearch.jp/kankyoplz/top.html>

² <http://www.ecorepo.com/>

2.2. キーワード出現状況

2006年度の環境報告書のキーワード出現状況（出現率）の概況を図2-1に示す。

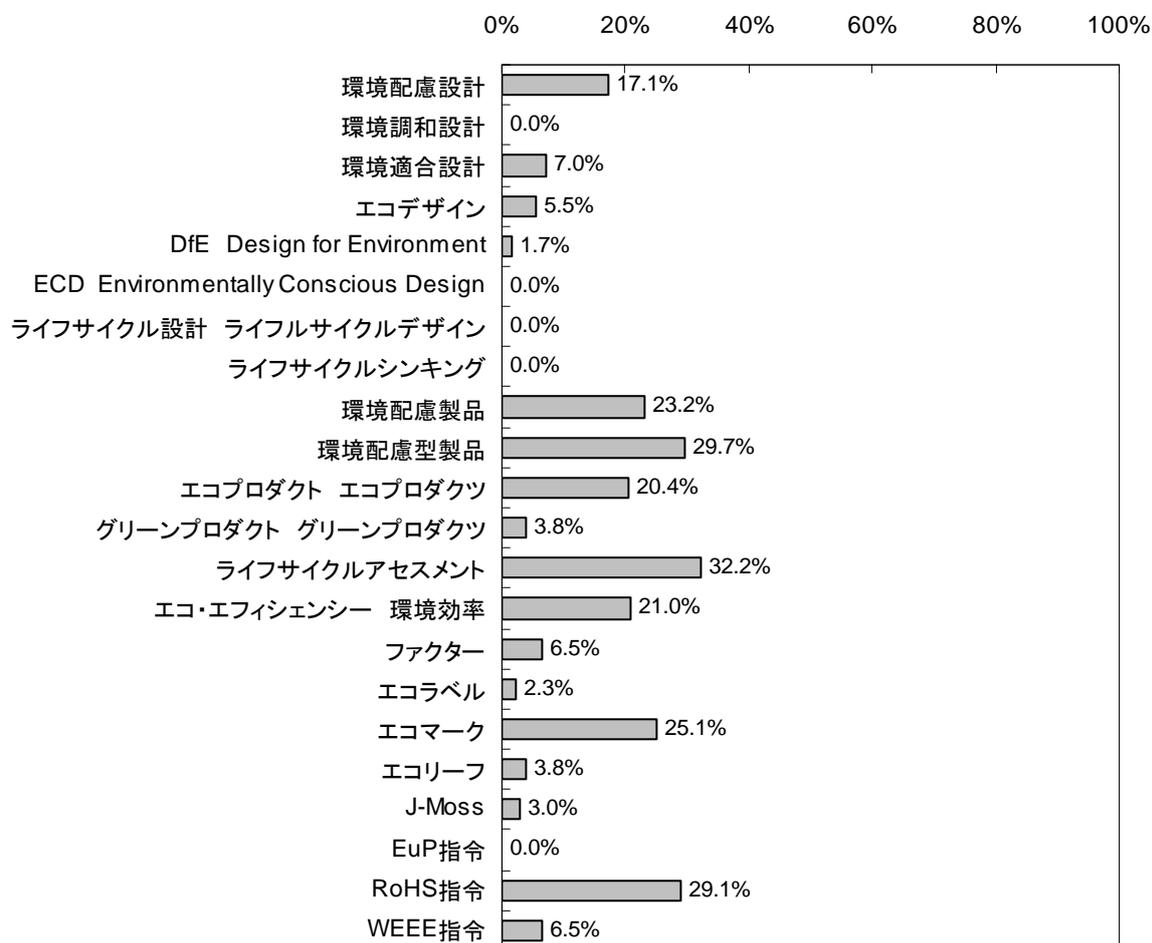


図2-1：2006年度の環境報告書のキーワード出現状況（出現率）

環境配慮設計（環境調和設計、環境適合設計、エコデザイン）、環境配慮型製品（環境配慮製品、エコプロダクツ）は用語が統一されていないが、同様の内容を示すものと考え、多くの環境報告書等でキーワードとして使用されている。

ライフサイクルアセスメント、RoHS指令、エコマークも使用されている。RoHS指令はその規制への対応がグリーン調達などで要求されており、多くの企業で環境報告書に記載していると考えられる。

ライフサイクル設計、ライフサイクルシンキングについては、環境報告書等での記載はなかった。環境配慮設計の延長上にライフサイクル設計があるわけではないが、製品のライフサイクル全体を配慮し、ライフサイクル全体を設計し、場合によっては製品からサービスへのシフトをも取り込むような検討を行い、総合的に環境負荷の低減、資源利用効率の向上を目指すというようなライフサイクル設計についても、そのコンセプトや手法の普及が望まれる。

2.3. 事業内容による違い

2006年度の環境報告書のキーワード出現状況を事業内容によって分類して集計した結果を表2-2（非製造業）、表2-3（製造業）に示す。また、図2-2は非製造業と製造業のキーワードの出現率を並べて示したものである。

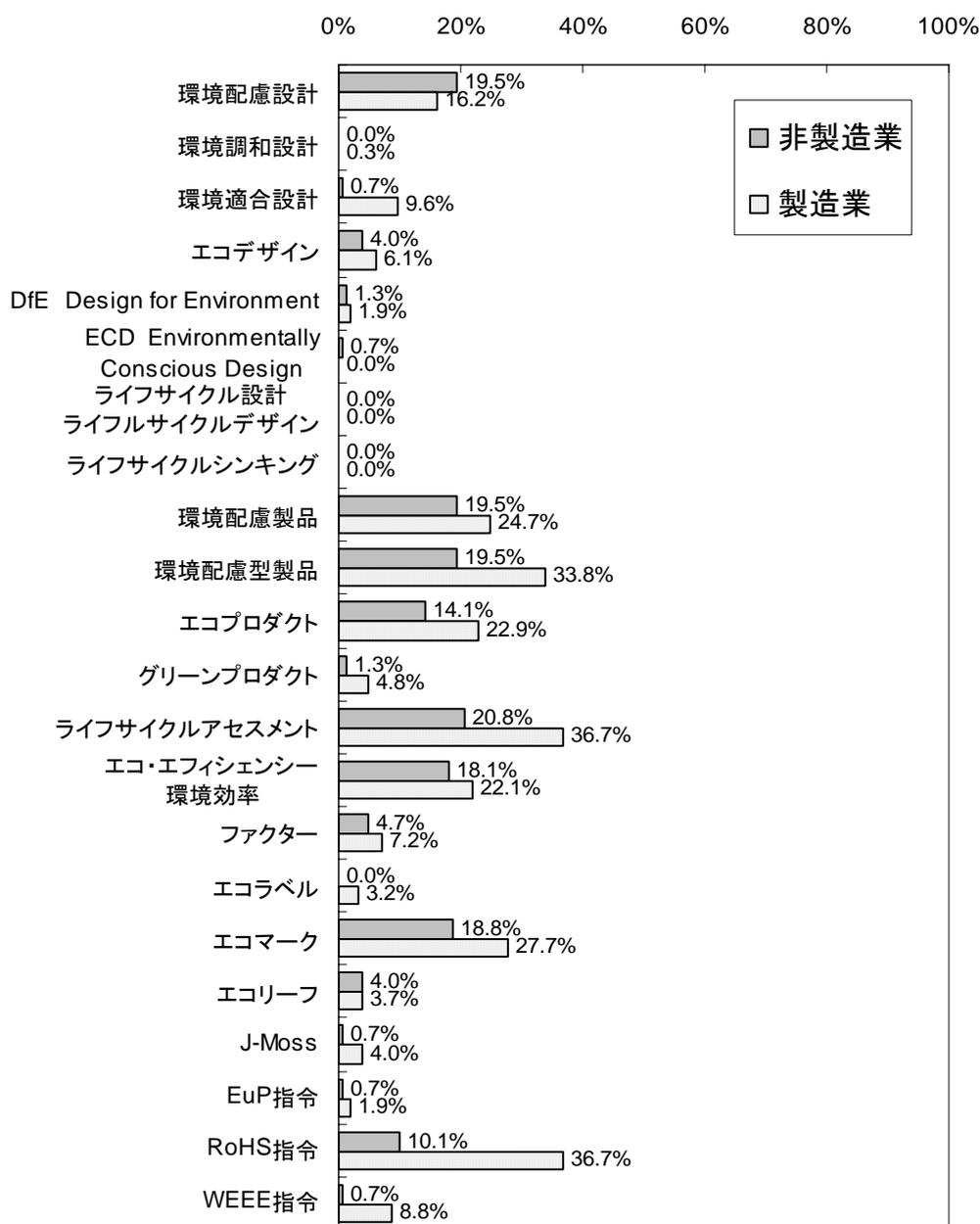


図2-2：キーワードの出現状況（2006年、製造業と非製造業）

非製造業でも製造業より出現率は低いですが、キーワードが用いられていることがわかる。「環境配慮設計」については非製造業のほうが出現率が高くなっている。

表 2-2：事業内容ごとのキーワード出現状況の集計（非製造業、2006年）

	サンプル数	環境配慮設計	環境調和設計	環境適合設計	エコデザイン	DfE Design for Environment	EOD Environmentally Conscious Design	ライフサイクル設計	ライフサイクルシンキング	環境配慮製品	環境配慮型製品	エコプロダクト	グリーンプロダクト	ライフサイクルアセスメント	エコ・エフィシエンシー	ファクター	エコラベル	エコマーク	エコリーフ	J-Moss	EuP指令	RoHS指令	WEEE指令
農業	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
林業	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
鉱業	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%
建設業	33	66.7%	0.0%	3.0%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.2%	0.0%	6.1%	0.0%	18.2%	15.2%	3.0%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	19	5.3%	0.0%	0.0%	15.8%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	15.8%	42.1%	5.3%	5.3%	36.8%	47.4%	5.3%	0.0%	15.8%	15.8%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%
情報通信業	17	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	23.5%	23.5%	5.9%	35.3%	29.4%	11.8%	0.0%	17.6%	5.9%	5.9%	5.9%	29.4%	5.9%
運輸業	17	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	11.8%	23.5%	0.0%	11.8%	23.5%	17.6%	0.0%	23.5%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
卸売・小売業	31	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	45.2%	35.5%	6.5%	0.0%	9.7%	6.5%	0.0%	0.0%	38.7%	3.2%	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%
金融・保険業	10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	30.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%
不動産業	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
飲食店、宿泊業	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
教育、学習支援行	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
複合サービス事業	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
サービス業 (他に分類されないもの)	8	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%
公務 (他に分類されないもの)	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
独立行政法人	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
分類できない産業	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
非製造業全体	149	19.5%	0.0%	0.7%	4.0%	1.3%	0.7%	0.0%	0.0%	19.5%	19.5%	14.1%	1.3%	20.8%	18.1%	4.7%	0.0%	18.8%	4.0%	0.7%	0.7%	10.1%	0.7%

表 2-3：事業内容ごとのキーワード出現状況の集計（製造業、2006 年）

	サンプル数	環境配慮設計	環境調和設計	環境適合設計	エコデザイン	DFE Design for Environment	ECD Environmentally Conscious Design	ライフサイクル設計	ライフサイクルシンキング	環境配慮製品	環境配慮型製品	エコプロダクト	グリーンプロダクト	ライフサイクルアセスメント	エコ・エフ・アイエンスシー	ファクター	エコラベル	エコマーク	エコリーフ	J-Moss	EUP指令	RoHS指令	WEEE指令
電気機械器具製造業	25	24.0%	0.0%	16.0%	24.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.0%	56.0%	32.0%	16.0%	60.0%	36.0%	36.0%	12.0%	20.0%	16.0%	28.0%	12.0%	68.0%	28.0%
輸送用機械器具製造業	32	18.8%	0.0%	12.5%	6.3%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	15.6%	3.1%	62.5%	28.1%	9.4%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	3.1%	12.5%	3.1%
家具・装備品製造業	9	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	55.6%	44.4%	0.0%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%
飲料・たばこ・飼料製造業	17	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.6%	23.5%	29.4%	0.0%	29.4%	17.6%	5.9%	0.0%	23.5%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
情報通信機械器具製造業	20	35.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.0%	50.0%	35.0%	30.0%	50.0%	25.0%	5.0%	10.0%	25.0%	20.0%	15.0%	10.0%	95.0%	25.0%
金属製品製造業	14	14.3%	0.0%	28.6%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	35.7%	7.1%	57.1%	28.6%	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	7.1%	0.0%	50.0%	7.1%
食料品製造業	30	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	10.0%	13.3%	0.0%	16.7%	10.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
精密機械器具製造業	24	29.2%	4.2%	8.3%	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	29.2%	37.5%	33.3%	8.3%	45.8%	33.3%	4.2%	12.5%	58.3%	8.3%	4.2%	0.0%	70.8%	37.5%
化学工業	77	7.8%	0.0%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	23.4%	32.5%	14.3%	2.6%	22.1%	14.3%	5.2%	1.3%	28.6%	1.3%	1.3%	1.3%	11.7%	1.3%
プラスチック製品製造業 (別掲を除く)	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%
鉄鋼業	10	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	30.0%	0.0%	30.0%	10.0%	0.0%	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	30.0%	0.0%
ゴム製品製造業	5	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	100.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%
窯業・土石製品製造業	13	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	30.8%	30.8%	23.1%	7.7%	30.8%	23.1%	0.0%	0.0%	30.8%	0.0%	7.7%	0.0%	46.2%	23.1%
木材・木製品製造業 (家具を除く)	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
衣服・その他の繊維製品 製造業	5	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
一般機械器具製造業	26	23.1%	0.0%	23.1%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	30.8%	26.9%	3.8%	34.6%	19.2%	3.8%	7.7%	26.9%	3.8%	0.0%	0.0%	53.8%	11.5%
その他の製造業	7	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	28.6%
電子部品・デバイス製造業	26	34.6%	0.0%	19.2%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	38.5%	57.7%	11.5%	0.0%	42.3%	26.9%	15.4%	0.0%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	69.2%	3.8%

	サンプル数	環境配慮設計	環境調和設計	環境適合設計	エコデザイン	DFE Design for Environment	ECD Environmentally Conscious Design	ライフサイクル設計	ライフサイクルシンキング	環境配慮製品	環境配慮型製品	エコプロダクト	グリーンプロダクト	ライフサイクルアセスメント	エコ・エフィジェンシー	ファクター	エコラベル	エコマーク	エコリーフ	J-Moss	EuP指令	RoHS指令	WEEE指令
印刷・同関連業	8	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	25.0%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	0.0%
非鉄金属製造業	6	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	33.3%	0.0%	50.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	83.3%	0.0%
パルプ・紙・紙加工品製造業	8	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
繊維工業（衣服、その他の繊維製品を除く）	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
石油製品・石炭製品製造業	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
製造業全体	376	16.2%	0.3%	9.6%	6.1%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	24.7%	33.8%	22.9%	4.8%	36.7%	22.1%	7.2%	3.2%	27.7%	3.7%	4.0%	1.9%	36.7%	8.8%

2.4. キーワード出現状況の推移

2004 年度版から 2006 年度版がそろっている企業・団体について、キーワードの出現状況の推移を調べた。

■ 調査対象のプロフィール

サンプル数：421

業種の構成：表 2-4 のとおりである。

表 2-4：サンプルの構成

業種	サンプル数	業種	サンプル数
農業	3	電気機械器具製造業	19
林業	2	輸送用機械器具製造業	30
漁業	0	家具・装備品製造業	7
鉱業	2	飲料・たばこ・飼料製造業	11
建設業ト	25	情報通信機械器具製造業	18
電気・ガス・熱供給・水道業	15	金属製品製造業	11
情報通信業	12	食料品製造業	22
運輸業	15	精密機械器具製造業	23
卸売・小売業	20	化学工業	73
金融・保険業	5	プラスチック製品製造業(別掲を除く)	2
不動産業	2	鉄鋼業	10
飲食店、宿泊業	2	ゴム製品製造業	4
医療、福祉	0	窯業・土石製品製造業	12
教育、学習支援行	0	木材・木製品製造業(家具を除く)	1
複合サービス事業	1	衣服・その他の繊維製品製造業	1
サービス業(他に分類されないもの)	5	一般機械器具製造業	21
公務(他に分類されないもの)	1	その他の製造業	6
独立行政法人	1	電子部品・デバイス製造業	21
分類不能の産業	1	印刷・同関連業	7
		非鉄金属製造業	6
		パルプ・紙・紙加工品製造業	8
		繊維工業(衣服、その他の繊維製品を除く)	1
		石油製品・石炭製品製造業	3

■ キーワード出現状況

キーワードの出現状況の推移を図 2-3 に示す。

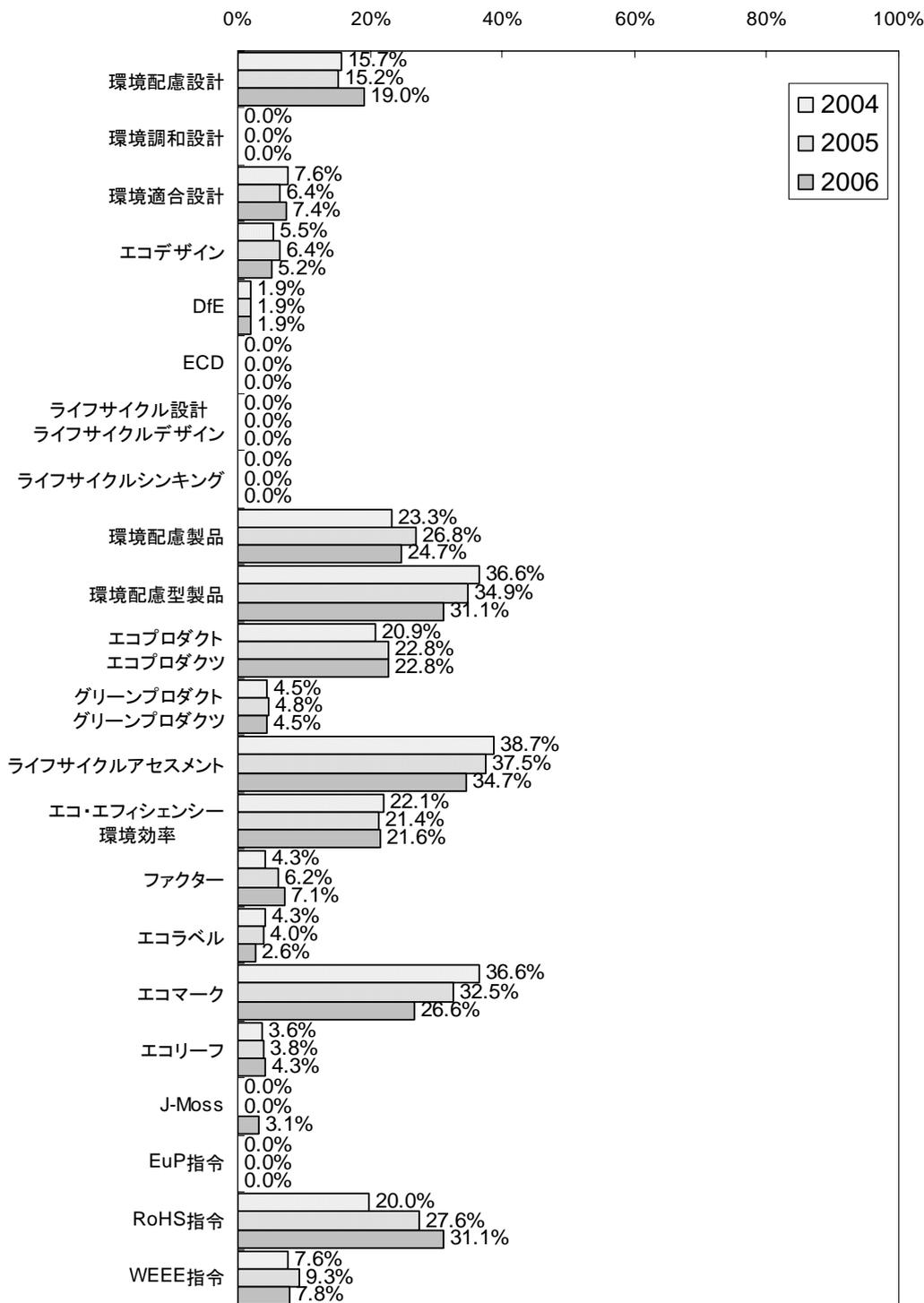


図 2-3 : キーワードの出現状況の推移

図 2-3 より、傾向をまとめると以下のようになる。

- 環境配慮製品、環境配慮型製品のように、製品についてのキーワードの出現率が高い。
- ライフサイクルアセスメント、エコマークというキーワードの出現率は減少傾向にある。
- RoHS 指令については出現率が高くなっている。これは RoHS 指令が 2006 年 7 月から動き出していることを反映したものであると想定される。これに関連するものとしては、日本国内でも資源有効利用促進法の指定再利用促進製品の判断基準省令の改正によって、J-Moss に基づく特定の化学物質の含有表示が始まっているが、2004 年、2005 年には見られなかった「J-Moss」も出てきている。

3. 新聞におけるキーワード出現状況

3.1. 調査対象紙

以下の新聞の記事におけるキーワードの出現状況をオンラインのデータベースの記事検索により調査した。

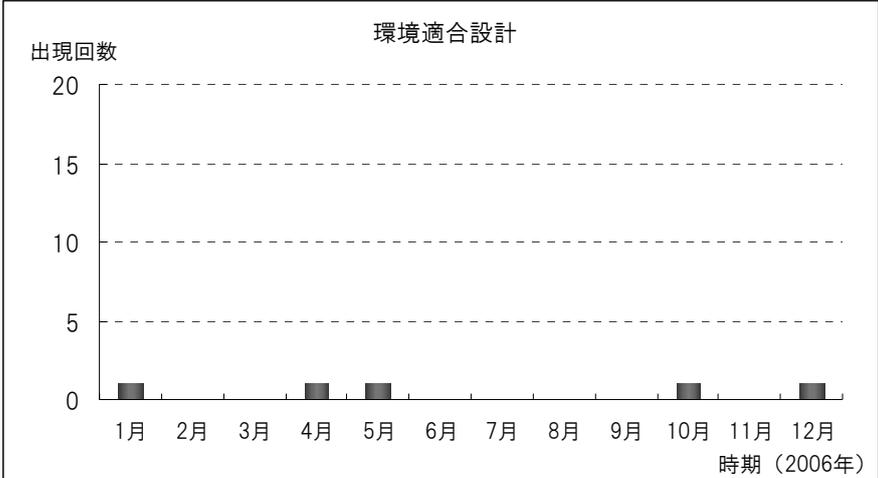
- 朝日新聞
- 産経新聞
- 日本経済新聞
- 毎日新聞
- 読売新聞
- 日刊工業新聞
- 日経産業新聞

3.2. キーワード出現状況

キーワードごとに、出現状況を示す。

キーワード	環境配慮設計																																																																																										
出現回数	16																																																																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 日刊工業新聞での出現頻度が高い。 ● 一般紙では読売新聞のみで用いられている。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日本経済新聞												1		1	読売新聞					1						1		1	3	日刊工業新聞	1		2	1	1		2	1				1	2	11	日経産業新聞												1		1	計		1	0	2	1	2	0	2	1	0	1	3	3	16
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																													
日本経済新聞												1		1																																																																													
読売新聞					1						1		1	3																																																																													
日刊工業新聞	1		2	1	1		2	1				1	2	11																																																																													
日経産業新聞												1		1																																																																													
計		1	0	2	1	2	0	2	1	0	1	3	3	16																																																																													

キーワード	環境調和設計
出現回数	0

キーワード	環境適合設計																																																																						
出現回数	5																																																																						
状況	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮設計に比べて使用頻度は低い。 <table border="1" data-bbox="518 504 1284 660"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読売新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	読売新聞					1					1			2	日刊工業新聞	1			1									2	日経産業新聞												1	1	計	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	5
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																										
読売新聞					1					1			2																																																										
日刊工業新聞	1			1									2																																																										
日経産業新聞												1	1																																																										
計	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	5																																																										

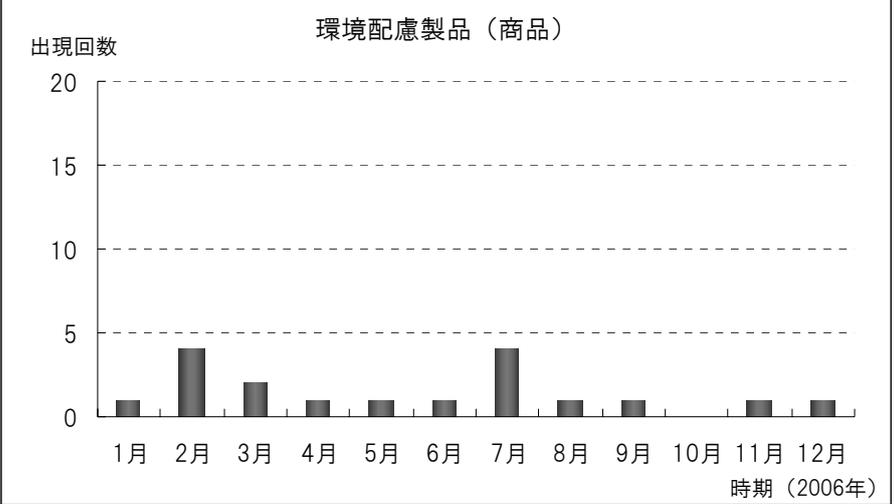
キーワード	エコデザイン																																																																																																																																																								
出現回数	51																																																																																																																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般紙でも用いられている。 <table border="1" data-bbox="518 403 1284 705"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>産経新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>毎日新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td></td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="459 739 1337 1220"> <p style="text-align: center;">エコデザイン</p> <table border="1" data-bbox="459 739 1337 1220"> <caption>エコデザイン 出現回数 (2006年)</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>出現回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>4</td></tr> <tr><td>2月</td><td>3</td></tr> <tr><td>3月</td><td>4</td></tr> <tr><td>4月</td><td>3</td></tr> <tr><td>5月</td><td>1</td></tr> <tr><td>6月</td><td>8</td></tr> <tr><td>7月</td><td>7</td></tr> <tr><td>8月</td><td>1</td></tr> <tr><td>9月</td><td>7</td></tr> <tr><td>10月</td><td>6</td></tr> <tr><td>11月</td><td>4</td></tr> <tr><td>12月</td><td>3</td></tr> </tbody> </table> </div>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞	2	1	1			1		1			2		8	産経新聞												1	1	日本経済新聞			1	1			2					1	5	毎日新聞	1		1			3	1		2	1	1		10	読売新聞	1	2		1	1	4	2		3	4	1		19	日刊工業新聞			1	1			1		2	1		1	7	日経産業新聞							1						1	計	4	3	4	3	1	8	7	1	7	6	4	3	51	時期	出現回数	1月	4	2月	3	3月	4	4月	3	5月	1	6月	8	7月	7	8月	1	9月	7	10月	6	11月	4	12月	3
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																																																																																												
朝日新聞	2	1	1			1		1			2		8																																																																																																																																												
産経新聞												1	1																																																																																																																																												
日本経済新聞			1	1			2					1	5																																																																																																																																												
毎日新聞	1		1			3	1		2	1	1		10																																																																																																																																												
読売新聞	1	2		1	1	4	2		3	4	1		19																																																																																																																																												
日刊工業新聞			1	1			1		2	1		1	7																																																																																																																																												
日経産業新聞							1						1																																																																																																																																												
計	4	3	4	3	1	8	7	1	7	6	4	3	51																																																																																																																																												
時期	出現回数																																																																																																																																																								
1月	4																																																																																																																																																								
2月	3																																																																																																																																																								
3月	4																																																																																																																																																								
4月	3																																																																																																																																																								
5月	1																																																																																																																																																								
6月	8																																																																																																																																																								
7月	7																																																																																																																																																								
8月	1																																																																																																																																																								
9月	7																																																																																																																																																								
10月	6																																																																																																																																																								
11月	4																																																																																																																																																								
12月	3																																																																																																																																																								

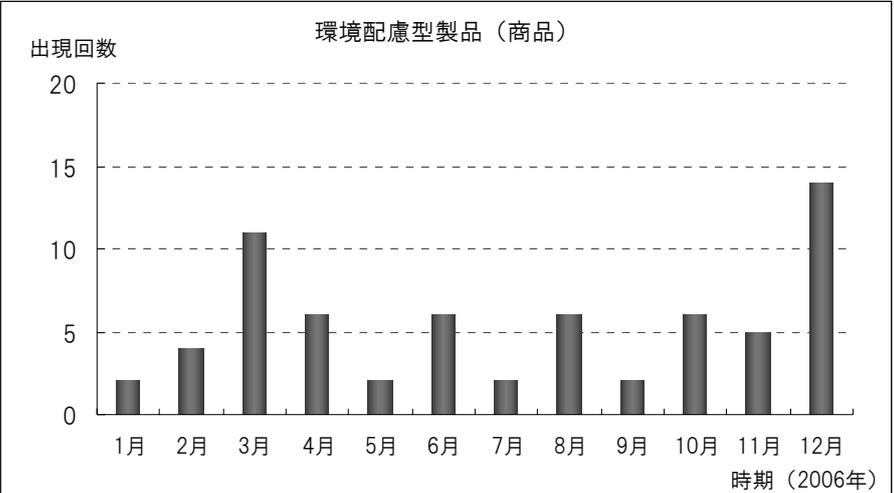
キーワード	DfE、Design for Environment																																										
出現回数	2																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日刊工業新聞のみで用いられている。 <table border="1" data-bbox="518 403 1284 515"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">DfE、Design for Environment</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p style="text-align: right;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日刊工業新聞	1						1						2	計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日刊工業新聞	1						1						2																														
計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2																														

キーワード	ECD、Environmentally Conscious Design
出現回数	0

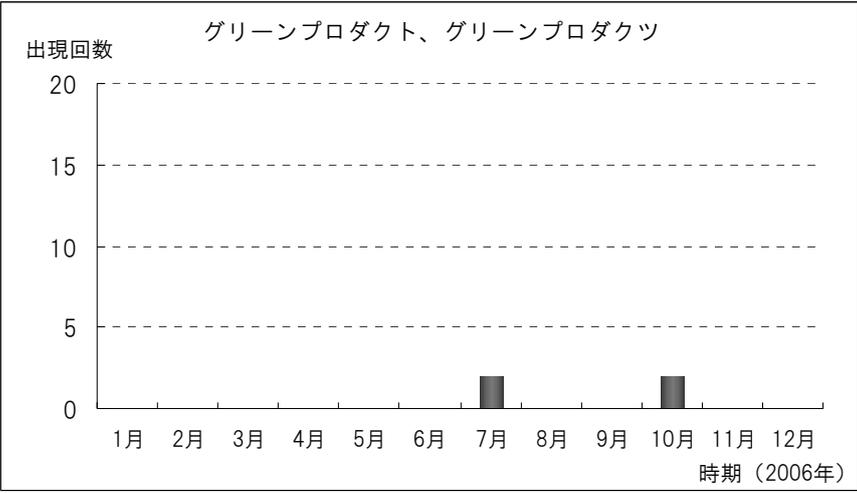
キーワード	ライフサイクル設計、ライフサイクルデザイン
出現回数	0

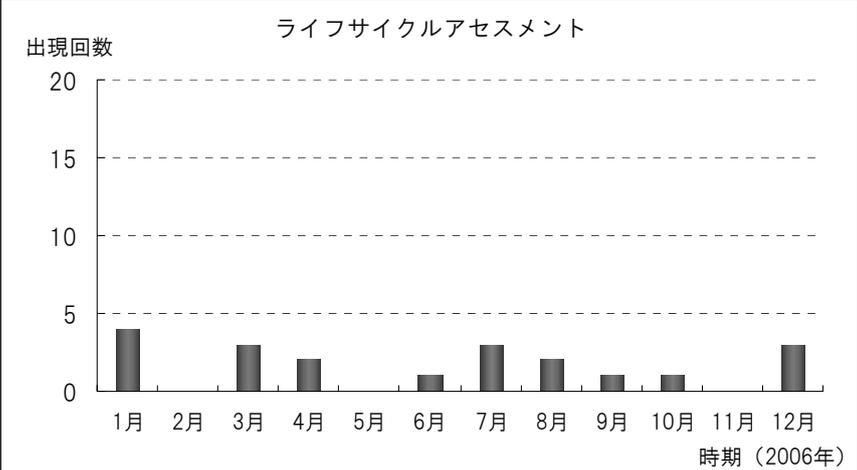
キーワード	ライフサイクルシンキング
出現回数	0

キーワード	環境配慮製品（商品）																																																																																				
出現回数	18																																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日刊工業新聞での使用頻度が高い。 <table border="1" data-bbox="518 405 1284 604"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>毎日新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>  <p>環境配慮製品（商品）</p> <p>出現回数</p> <p>時期（2006年）</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞									1				1	毎日新聞												1	1	読売新聞											1		1	日刊工業新聞	1	4	2	1	1	1	4	1					15	計	1	4	2	1	1	1	4	1	1	0	1	1	18
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
朝日新聞									1				1																																																																								
毎日新聞												1	1																																																																								
読売新聞											1		1																																																																								
日刊工業新聞	1	4	2	1	1	1	4	1					15																																																																								
計	1	4	2	1	1	1	4	1	1	0	1	1	18																																																																								

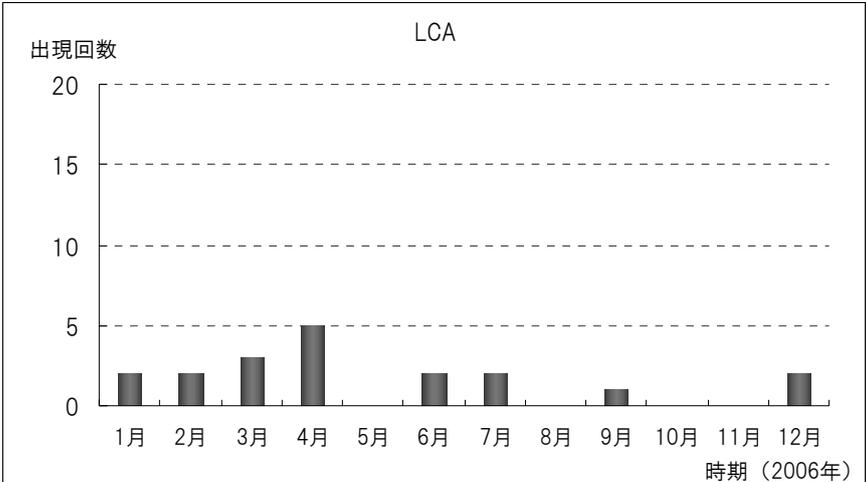
キーワード	環境配慮型製品（商品）																																																																																																																
出現回数	66																																																																																																																
状況	<ul style="list-style-type: none"> 設計プロセスに比べ、製品（商品）の出現頻度が高いが、一般紙ではそれほど高くない。 <table border="1" data-bbox="518 443 1284 712"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>産経新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>毎日新聞</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>14</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞								1					1	産経新聞	1												1	日本経済新聞			3	4	1	1	1		2	1	1	5	19	毎日新聞			2	1		1				1	1		6	日刊工業新聞	1	4	2			3	1	1		1	1	2	16	日経産業新聞			4	1	1	1		4		3	2	7	23	計	2	4	11	6	2	6	2	6	2	6	5	14	66
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																																																				
朝日新聞								1					1																																																																																																				
産経新聞	1												1																																																																																																				
日本経済新聞			3	4	1	1	1		2	1	1	5	19																																																																																																				
毎日新聞			2	1		1				1	1		6																																																																																																				
日刊工業新聞	1	4	2			3	1	1		1	1	2	16																																																																																																				
日経産業新聞			4	1	1	1		4		3	2	7	23																																																																																																				
計	2	4	11	6	2	6	2	6	2	6	5	14	66																																																																																																				

キーワード	エコプロダクト、エコプロダクツ																																																																																																																
出現回数	64																																																																																																																
状況	<ul style="list-style-type: none"> • 日経、日刊工業、日経産業での出現頻度が高い。 • 12月はエコプロダクツ展の記事によるものと考えられる。 																																																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>毎日新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>22</td> <td>64</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center;"> <p>エコプロダクト、エコプロダクツ</p> <p>出現回数</p> <p>時期 (2006年)</p> </div>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞			3			1						2	6	日本経済新聞				1	2	1	1			2	6	9	22	毎日新聞		1					1		1			1	4	読売新聞	1									1		1	3	日刊工業新聞	3	1	2	1	1	1		1		2	2	2	16	日経産業新聞				1	2			1		1	1	7	13	計	4	2	5	3	5	3	2	2	1	6	9	22	64
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																																																				
朝日新聞			3			1						2	6																																																																																																				
日本経済新聞				1	2	1	1			2	6	9	22																																																																																																				
毎日新聞		1					1		1			1	4																																																																																																				
読売新聞	1									1		1	3																																																																																																				
日刊工業新聞	3	1	2	1	1	1		1		2	2	2	16																																																																																																				
日経産業新聞				1	2			1		1	1	7	13																																																																																																				
計	4	2	5	3	5	3	2	2	1	6	9	22	64																																																																																																				

キーワード	グリーンプロダクト、グリーンプロダクツ																																																																																				
出現回数	4																																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> エコプロダクト、エコプロダクツと同様の意味を持つと考えられるが、使用頻度ははるかに少ない。 <table border="1" data-bbox="518 452 1284 654"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毎日新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">グリーンプロダクト、グリーンプロダクツ</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p style="text-align: right;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	毎日新聞							1						1	読売新聞										1			1	日刊工業新聞										1			1	日経産業新聞							1						1	計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	4
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
毎日新聞							1						1																																																																								
読売新聞										1			1																																																																								
日刊工業新聞										1			1																																																																								
日経産業新聞							1						1																																																																								
計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	4																																																																								

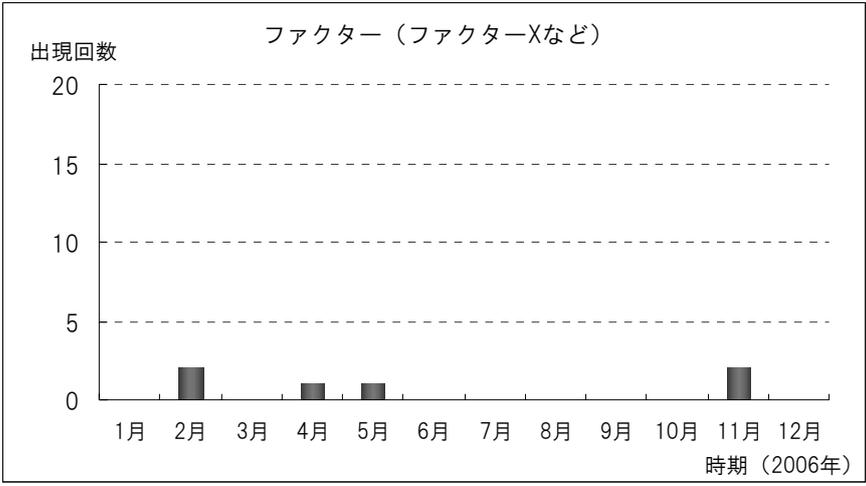
キーワード	ライフサイクルアセスメント																																																								
出現回数	17																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日刊工業新聞、日経産業新聞のみで使用されている。 <table border="1" data-bbox="518 1400 1284 1534"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">ライフサイクルアセスメント</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p style="text-align: right;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日刊工業新聞	1		2	1		1	2		1			1	8	日経産業新聞			1	1			1	2		1		2	9	計	1	0	3	2	0	1	3	2	1	1	0	3	17
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日刊工業新聞	1		2	1		1	2		1			1	8																																												
日経産業新聞			1	1			1	2		1		2	9																																												
計	1	0	3	2	0	1	3	2	1	1	0	3	17																																												

キーワード	Life Cycle Assessment
出現回数	0

キーワード	LCA																																																								
出現回数	19																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日刊工業新聞、日経産業新聞のみで使用されている。 <table border="1" data-bbox="518 537 1284 672"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日刊工業新聞	2	2	2	4		2	2		1			1	16	日経産業新聞			1	1								1	3	計	2	2	3	5	0	2	2	0	1	0	0	2	19
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日刊工業新聞	2	2	2	4		2	2		1			1	16																																												
日経産業新聞			1	1								1	3																																												
計	2	2	3	5	0	2	2	0	1	0	0	2	19																																												

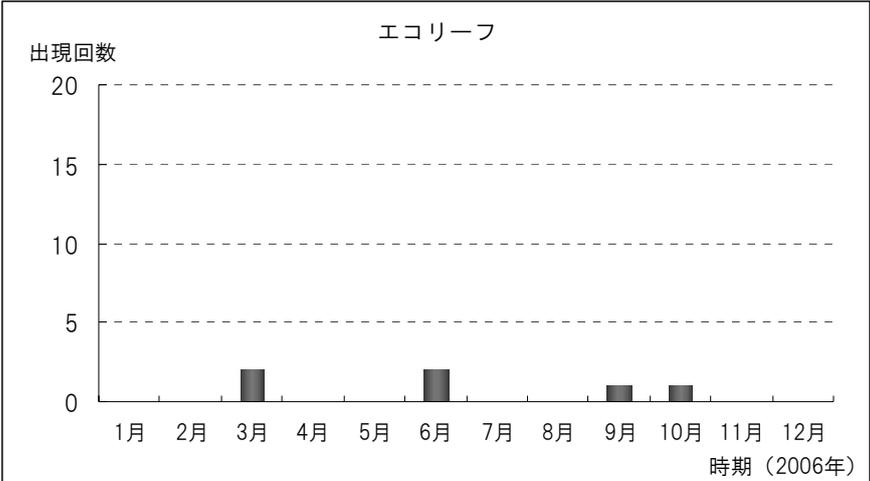
キーワード	エコ・エフィシエンシー
出現回数	0

キーワード	環境効率																																																																																																		
出現回数	19																																																																																																		
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日刊工業新聞、日経産業新聞での使用が多いようである。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>産経新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>環境効率</p> <p>出現回数</p> <p>時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞												1	1	産経新聞				2									2	日本経済新聞	2												2	日刊工業新聞		2		2		1						1	6	日経産業新聞	2	1					2				1	2	8	計	4	3	0	4	0	1	2	0	0	0	1	4	19
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																																						
朝日新聞												1	1																																																																																						
産経新聞				2									2																																																																																						
日本経済新聞	2												2																																																																																						
日刊工業新聞		2		2		1						1	6																																																																																						
日経産業新聞	2	1					2				1	2	8																																																																																						
計	4	3	0	4	0	1	2	0	0	0	1	4	19																																																																																						

キーワード	ファクター（ファクターXなど）																																																																						
出現回数	6																																																																						
状況	<ul style="list-style-type: none"> • 新聞記事としてあまり掲載されていない。 • 一般紙での使用も朝日新聞の1回だけである。 <table border="1" data-bbox="518 443 1284 616"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞											1		1	日刊工業新聞		1		1	1								3	日経産業新聞		1									1		2	計	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																										
朝日新聞											1		1																																																										
日刊工業新聞		1		1	1								3																																																										
日経産業新聞		1									1		2																																																										
計	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	6																																																										

キーワード	エコラベル
出現回数	0

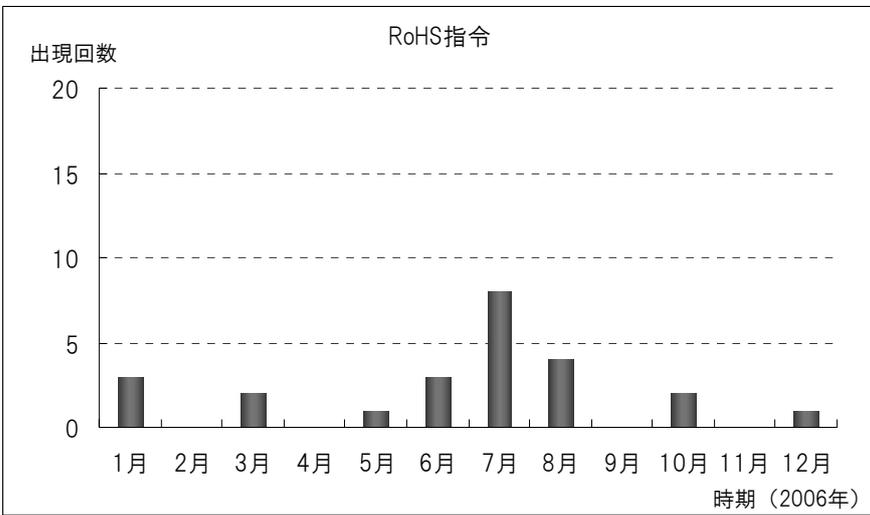
キーワード	エコマーク																																																																																																																														
出現回数	39																																																																																																																														
状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般紙でも使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>産経新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>毎日新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>出現回数</p> <p>エコマーク</p> <p>時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞	1	1	1	1					2		1	1	8	産経新聞			1										1	日本経済新聞		2						1	2	1			6	毎日新聞			1					1	2		1	1	6	読売新聞			1		1				1		1		4	日刊工業新聞		1	1		1	1	3	3	1	1			12	日経産業新聞							1	1					2	計	1	4	5	1	2	1	4	6	8	2	3	2	39
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																																																																		
朝日新聞	1	1	1	1					2		1	1	8																																																																																																																		
産経新聞			1										1																																																																																																																		
日本経済新聞		2						1	2	1			6																																																																																																																		
毎日新聞			1					1	2		1	1	6																																																																																																																		
読売新聞			1		1				1		1		4																																																																																																																		
日刊工業新聞		1	1		1	1	3	3	1	1			12																																																																																																																		
日経産業新聞							1	1					2																																																																																																																		
計	1	4	5	1	2	1	4	6	8	2	3	2	39																																																																																																																		

キーワード	エコライフ																																																																																				
出現回数	8																																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> • エコマークに比べるとかなり使用頻度が低い。 <table border="1" data-bbox="518 405 1284 604"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本経済新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>読売新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>  <p>エコライフ</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p>時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日本経済新聞			1										1	読売新聞						1							1	日刊工業新聞			1			1			1				3	日経産業新聞										1			1	計	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	0	8
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
日本経済新聞			1										1																																																																								
読売新聞						1							1																																																																								
日刊工業新聞			1			1			1				3																																																																								
日経産業新聞										1			1																																																																								
計	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	0	8																																																																								

キーワード	J-Moss																																										
出現回数	2																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日刊工業新聞でのみ使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">J-Moss</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p style="text-align: right;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日刊工業新聞			1		1								2	計	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日刊工業新聞			1		1								2																														
計	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2																														

キーワード	EuP 指令																																																																						
出現回数	3																																																																						
状況	<ul style="list-style-type: none"> 出現頻度は低い。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝日新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">EuP 指令</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p style="text-align: right;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	朝日新聞							1						1	日刊工業新聞												1	1	日経産業新聞							1						1	計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																										
朝日新聞							1						1																																																										
日刊工業新聞												1	1																																																										
日経産業新聞							1						1																																																										
計	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3																																																										

キーワード	エコデザイン指令
出現回数	0

キーワード	RoHS 指令																																																								
出現回数	24																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> • 日刊工業新聞で扱われている。 • 2006年7月から動き出したこともあり、7月の記事が多い。 <table border="1" data-bbox="518 582 1284 716"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td>3</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>  <p style="text-align: center;">RoHS指令</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p style="text-align: right;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日刊工業新聞	3		1		1	3	7	3		2		1	21	日経産業新聞			1				1	1					3	計	3	0	2	0	1	3	8	4	0	2	0	1	24
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日刊工業新聞	3		1		1	3	7	3		2		1	21																																												
日経産業新聞			1				1	1					3																																												
計	3	0	2	0	1	3	8	4	0	2	0	1	24																																												

キーワード	WEEE 指令																																																								
出現回数	4																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 出現頻度は低い。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日刊工業新聞</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経産業新聞</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center;">WEEE指令</div> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日刊工業新聞				1									1	日経産業新聞			1				1	1					3	計	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	4
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日刊工業新聞				1									1																																												
日経産業新聞			1				1	1					3																																												
計	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	4																																												

4. 雑誌におけるキーワード出現状況

4.1. 調査対象雑誌

以下の雑誌を対象に、オンラインのデータベース検索を用いてキーワードの出現状況を調べた。

- 日経エコロジー
- 日経ビジネス
- 日経ものづくり
- 日経トレンディ
- 日経エレクトロニクス
- 週刊ダイヤモンド
- 日経デザイン
- 週刊エコノミスト

4.2. キーワード出現状況

調査結果を以下に示す。

キーワード	環境配慮設計																																																																				
出現回数	17																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 日経エコロジーで使用されている。 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>環境配慮設計</p> <table border="1" style="margin: 0 auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>環境配慮設計の出現回数 (2006年)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出現回数</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> </div>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	2			2	1	4	1	1	3	2		1	17	計	2	0	0	2	1	4	1	1	3	2	0	1	17	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	出現回数	2	0	0	2	1	4	1	1	3	2	0	1
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																								
日経エコロジー	2			2	1	4	1	1	3	2		1	17																																																								
計	2	0	0	2	1	4	1	1	3	2	0	1	17																																																								
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																									
出現回数	2	0	0	2	1	4	1	1	3	2	0	1																																																									

キーワード	環境調和設計
出現回数	0

キーワード	環境適合設計																																										
出現回数	1																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーでのみ使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">環境適合設計</p> <p>出現回数</p> <p style="text-align: center;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー						1							1	計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー						1							1																														
計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1																														

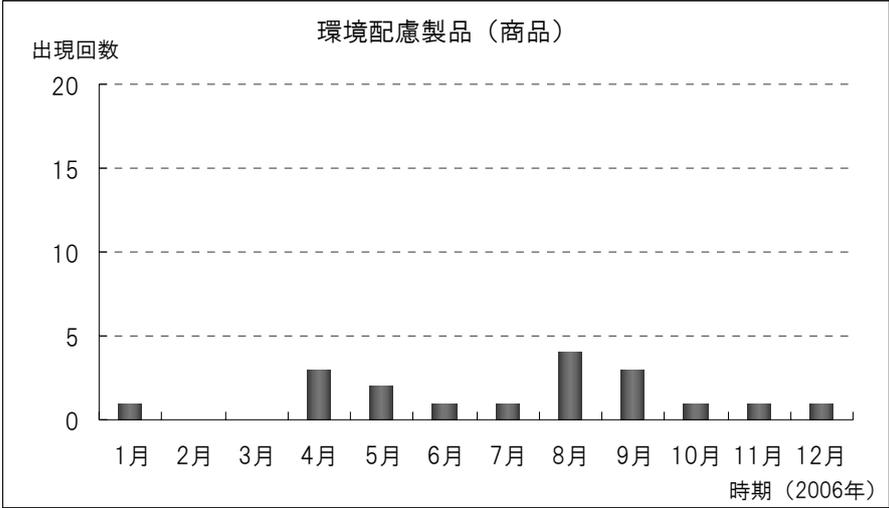
キーワード	エコデザイン																																																																																				
出現回数	6																																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経ビジネス、日経トレンディでも使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経ビジネス</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経トレンディ</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">エコデザイン</p> <p>出現回数</p> <p style="text-align: center;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー						1						1	2	日経エレクトロニクス		1											1	日経ビジネス											1		1	日経トレンディ			1							1			2	計	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	6
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
日経エコロジー						1						1	2																																																																								
日経エレクトロニクス		1											1																																																																								
日経ビジネス											1		1																																																																								
日経トレンディ			1							1			2																																																																								
計	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	6																																																																								

キーワード	DfE、Design for Environment																																										
出現回数	3																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーのみで使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">DfE、Design for Environment</p> <p>出現回数</p> <p style="text-align: center;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー					1	1						1	3	計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー					1	1						1	3																														
計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3																														

キーワード	ECD、Environmentally Conscious Design																																																																																				
出現回数	19																																																																																				
状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経ものづくり</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日経ビジネス</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">ECD、Environmentally Conscious Design</p> <p>出現回数</p> <p style="text-align: center;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー										1			1	日経ものづくり		1				2							3	日経エレクトロニクス	1						1	1					3	日経ビジネス	1		1		1	2	3		1	1	1	1	12	計	2	1	1	0	1	4	4	1	1	2	1	1	19
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
日経エコロジー										1			1																																																																								
日経ものづくり		1				2							3																																																																								
日経エレクトロニクス	1						1	1					3																																																																								
日経ビジネス	1		1		1	2	3		1	1	1	1	12																																																																								
計	2	1	1	0	1	4	4	1	1	2	1	1	19																																																																								

キーワード	ライフサイクル設計、ライフサイクルデザイン
出現回数	0
状況	

キーワード	ライフサイクルシンキング
出現回数	0
状況	

キーワード	環境配慮製品（商品）																																										
出現回数	18																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーで使用されている。 <table border="1" data-bbox="466 750 1337 853"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>  <p>環境配慮製品（商品）</p> <p>出現回数</p> <p>時期（2006年）</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	1			3	2	1	1	4	3	1	1	1	18	計	1	0	0	3	2	1	1	4	3	1	1	1	18
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー	1			3	2	1	1	4	3	1	1	1	18																														
計	1	0	0	3	2	1	1	4	3	1	1	1	18																														

キーワード	環境配慮型製品（商品）																																																								
出現回数	2																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 使用頻度は低いが、日経エコロジー、週間ダイヤモンドで使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>週間ダイヤモンド</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">環境配慮型製品（商品）</p> <p>出現回数</p> <p style="text-align: right;">時期（2006年）</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー									1				1	週間ダイヤモンド			1										1	計	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日経エコロジー									1				1																																												
週間ダイヤモンド			1										1																																												
計	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2																																												

キーワード	エコプロダクト、エコプロダクツ																																																																						
出現回数	17																																																																						
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経デザインでも使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>日経デザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">エコプロダクト、エコプロダクツ</p> <p>出現回数</p> <p style="text-align: right;">時期（2006年）</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	2				1	1				1		1	6	日経エレクトロニクス	1									1	2	1	5	日経デザイン					5		1				1		7	計	2	0	0	0	6	1	1	0	0	2	3	2	17
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																										
日経エコロジー	2				1	1				1		1	6																																																										
日経エレクトロニクス	1									1	2	1	5																																																										
日経デザイン					5		1				1		7																																																										
計	2	0	0	0	6	1	1	0	0	2	3	2	17																																																										

キーワード	グリーンプロダクト、グリーンプロダクツ																																										
出現回数	1																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 出現頻度が低い、日経エコロジーで使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">グリーンプロダクト、グリーンプロダクツ</p> <p style="text-align: center;">時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー				1									1	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー				1									1																														
計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1																														

キーワード	ライフサイクルアセスメント																																										
出現回数	20																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーでのみ使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">ライフサイクルアセスメント</p> <p style="text-align: center;">時期 (2005年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	1			5	4	1	1	1	4	1		2	20	計	1	0	0	5	4	1	1	1	4	1	0	2	20
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー	1			5	4	1	1	1	4	1		2	20																														
計	1	0	0	5	4	1	1	1	4	1	0	2	20																														

キーワード	Life Cycle Assessment
出現回数	0
状況	

キーワード	LCA																																																																																				
出現回数	32																																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーでの使用が多いが、他の雑誌でも使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>1</td> <td></td> <td>5</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経ビジネス</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経トレンディ</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー			1	10	3	2	1	1	4	1		5	28	日経エレクトロニクス		1											1	日経ビジネス											1		1	日経トレンディ			1						1				2	計	0	1	2	10	3	2	1	1	4	2	1	5	32
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
日経エコロジー			1	10	3	2	1	1	4	1		5	28																																																																								
日経エレクトロニクス		1											1																																																																								
日経ビジネス											1		1																																																																								
日経トレンディ			1						1				2																																																																								
計	0	1	2	10	3	2	1	1	4	2	1	5	32																																																																								

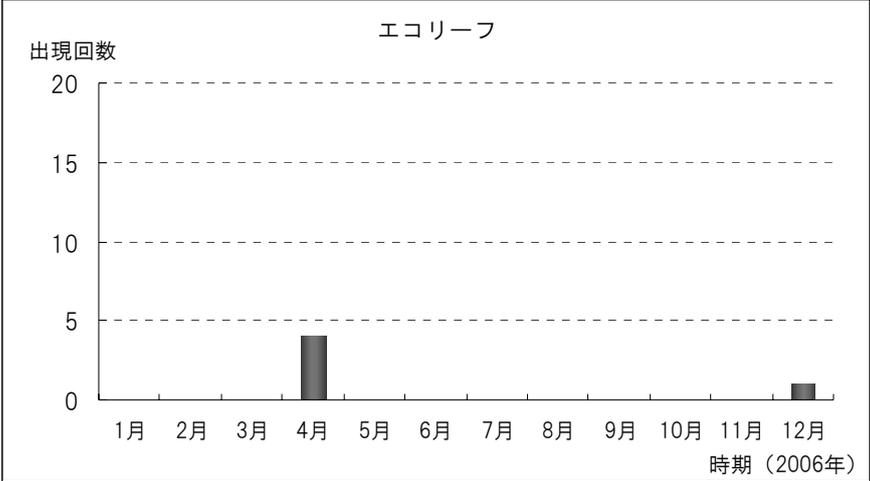
キーワード	エコ・エフィシエンシー
出現回数	0
状況	

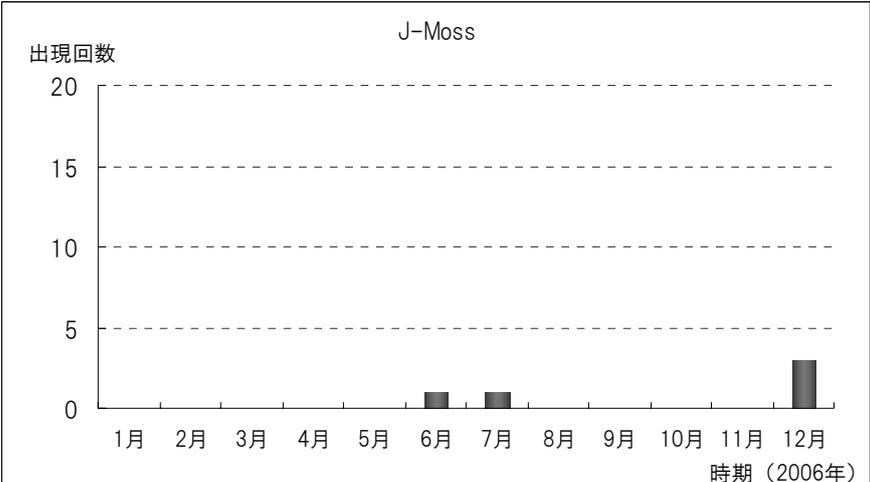
キーワード	環境効率																																																																						
出現回数	7																																																																						
状況	<ul style="list-style-type: none"> 出現頻度は低いが、日経エコロジー他で使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>週刊エコノミスト</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー		1		1	2			1					5	日経エレクトロニクス												1	1	週刊エコノミスト												1	1	計	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	2	7
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																										
日経エコロジー		1		1	2			1					5																																																										
日経エレクトロニクス												1	1																																																										
週刊エコノミスト												1	1																																																										
計	0	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	2	7																																																										

キーワード	ファクター (ファクターXなど)																																																								
出現回数	2																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 出現頻度は低いが、日経エコロジー、日経エレクトロニクスで使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー				1									1	日経エレクトロニクス												1	1	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日経エコロジー				1									1																																												
日経エレクトロニクス												1	1																																												
計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2																																												

キーワード	エコラベル																																										
出現回数	1																																										
状況	出現頻度は低いが、日経エコロジーで使用されている。																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー										1			1	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー										1			1																														
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1																														

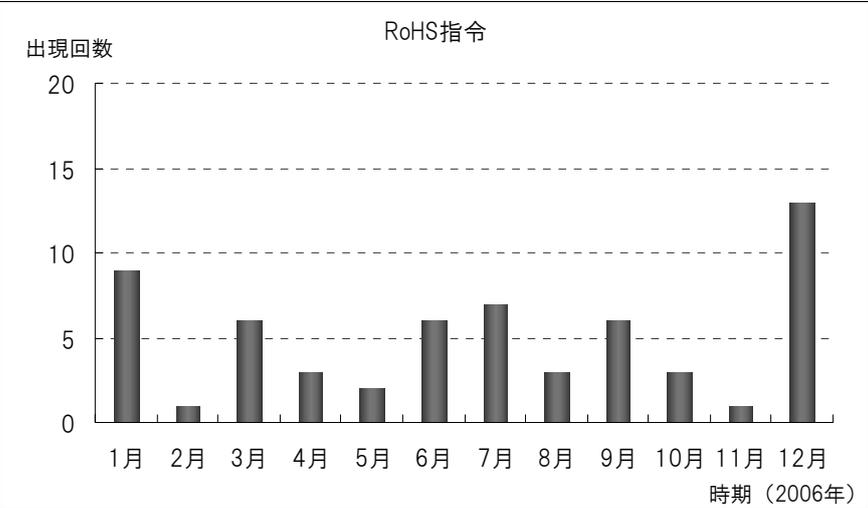
キーワード	エコマーク																																										
出現回数	15																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーでのみ使用されている。 																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	1	1	2	2	2	1	1	2		1		2	15	計	1	1	2	2	2	1	1	2	0	1	0	2	15
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー	1	1	2	2	2	1	1	2		1		2	15																														
計	1	1	2	2	2	1	1	2	0	1	0	2	15																														

キーワード	エコリーフ																																										
出現回数	5																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーでのみ使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー				4								1	5	計	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	5
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー				4								1	5																														
計	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	5																														

キーワード	J-Moss																																																											
出現回数	5																																																											
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジー、日経エレクトロニクスで使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー						1	1						1	3	日経エレクトロニクス													2	2	計	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	5
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																															
日経エコロジー						1	1						1	3																																														
日経エレクトロニクス													2	2																																														
計	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	5																																														

キーワード	EuP 指令																																																								
出現回数	11																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジー、日経エレクトロニクスで使用されている。 																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	1			2	1	1		1	1	1		2	10	日経エレクトロニクス												1	1	計	1	0	0	2	1	1	0	1	1	1	0	3	11
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																											
日経エコロジー	1			2	1	1		1	1	1		2	10																																												
日経エレクトロニクス												1	1																																												
計	1	0	0	2	1	1	0	1	1	1	0	3	11																																												
	<div style="text-align: center;">EuP 指令</div> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月</p> <p>時期 (2006年)</p>																																																								

キーワード	エコデザイン指令																																										
出現回数	3																																										
状況	<ul style="list-style-type: none"> 日経エコロジーでのみ使用されている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center;"> <p>エコデザイン指令</p> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 時期 (2006年)</p> </div>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	1					1		1					3	計	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																														
日経エコロジー	1					1		1					3																														
計	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3																														

キーワード	RoHS 指令																																																																																				
出現回数	60																																																																																				
状況	<ul style="list-style-type: none"> • 日経エコロジー以外でも使用されている。 • 業務に影響が大きいため、関連記事を掲載する雑誌も多い。 <table border="1" data-bbox="466 452 1334 651"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>7</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>日経ものづくり</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>日経ビジネス</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>13</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> 	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー	2		1	2	2	4	3	2	1	1		7	25	日経ものづくり	4					2	1	1	1				9	日経エレクトロニクス	3	1	5	1			3		4	2	1	5	25	日経ビジネス												1	1	計	9	1	6	3	2	6	7	3	6	3	1	13	60
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																																																								
日経エコロジー	2		1	2	2	4	3	2	1	1		7	25																																																																								
日経ものづくり	4					2	1	1	1				9																																																																								
日経エレクトロニクス	3	1	5	1			3		4	2	1	5	25																																																																								
日経ビジネス												1	1																																																																								
計	9	1	6	3	2	6	7	3	6	3	1	13	60																																																																								

キーワード	WEEE 指令																																																								
出現回数	4																																																								
状況	<ul style="list-style-type: none"> • 日経エコロジー、日経エレクトロニクスでのみ使用されている。 • 関連する業種が限られている。 																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日経エコロジー</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>日経エレクトロニクス</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: center;">WEEE指令</div> <p>出現回数</p> <p>20 15 10 5 0</p> <p>1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 時期 (2006年)</p>	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	日経エコロジー				1		1			1				3	日経エレクトロニクス	1												1	計	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	4
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計																																												
日経エコロジー				1		1			1				3																																												
日経エレクトロニクス	1												1																																												
計	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	4																																												

平成 18 年度 経済産業省委託 環境問題対策調査等委託費

環境配慮設計普及状況基礎調査 報告書

平成 19 年 3 月

財団法人 製造科学技術センター

東京都港区虎ノ門三丁目 11 番 15 号

TEL 03 (5472) 2561